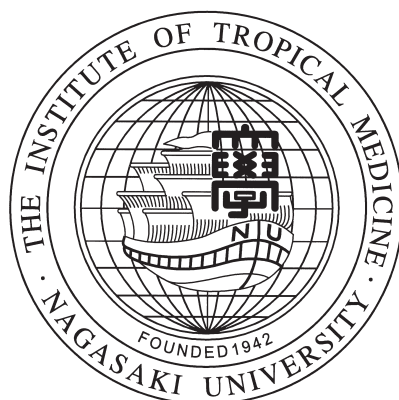


長崎大学熱帯医学研究所

年 次 要 覧

平成19年度
(2007)



長崎大学熱帯医学研究所

平成21年(2009) 7 月

長崎大学熱帯医学研究所

総 合 目 標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

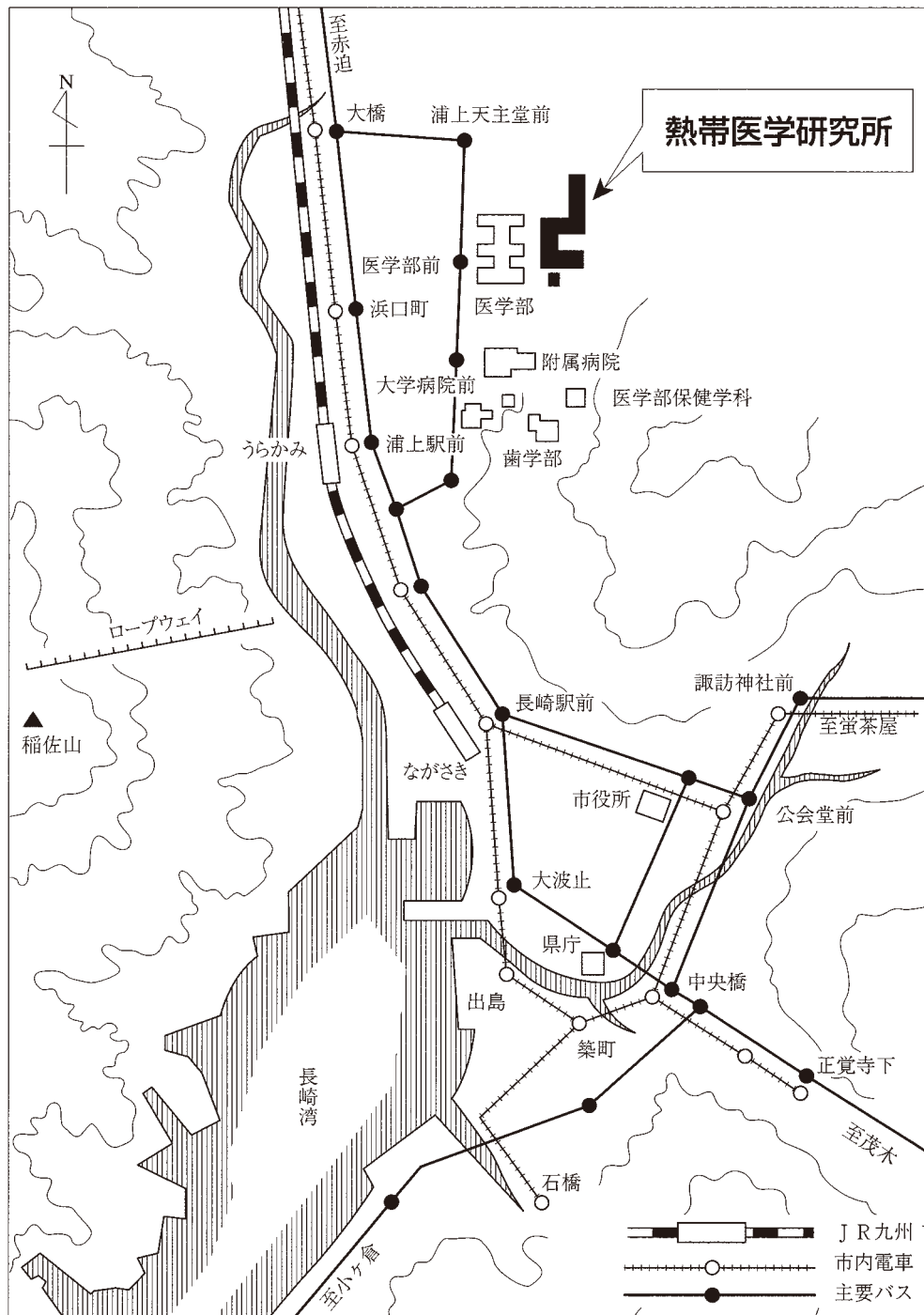
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

1. 熱帯医学及び国際保健における先導的研究
2. 研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
3. 上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4(〒852-8523)
 電話 095-819-7800 (総合案内)
 敷地面積 3,305m²
 建物面積 延8,425m²

序

長崎大学熱帯医学研究所は、国立大学法人長崎大学の附置研究所で、創立昭和17年の歴史ある全国共同利用研究所である。

熱帯医学に関する学理及び応用研究を目的としており、研究所のミッションを平成11年度に設定し、「先端研究，社会貢献，人材育成」を3本の柱として教育研究に励んでいる。その組織は16分野の講座制で、教授10，准教授講師7，助教助手19の定員内教員のほか、事務職員8，および技術職員2を擁している。定員外として外部資金などによる有期教員19，有期職員8，非常勤職員49名が雇用され、さらに医歯薬学総合研究科の大学院生約60名が在籍している。

本年次要覧は、本年度の研究所の全活動のデータベースとして記録である。研究所全体としての活動，各分野の活動，付属施設の活動について，研究，教育，社会貢献の各項目について簡潔かつ詳細にまとめられている。我々の目指すところはすでに述べたように研究所のミッションを100%果たすことにある。先端研究の目安はあくまで発表論文の質と量および獲得研究費であり，教育の目安は教育システムの高度化と集まる学生の質と修士あるいは博士論文の質により自己評価している。また社会貢献は国内における貢献および世界保健における貢献に大別して評価している。

年次要覧にこれらのすべてを評価する情報が網羅されることを意図しているが，出来栄はいかかなものであろうか。読者の方々の忌憚のないご叱責が今後の研究所の発展に必須であると考えている。

なお平成19年度に特記すべきものとして挙げられるのは以下のものである。

- 1．平山謙二所長就任
- 2．全国附置研究所第2部会シンポジウム「自然災害とテロリズムに関するリスク管理システム」開催（10月26日）
- 3．21世紀COEの主催による第2回長崎感染症シンポジウムの開催（11月26日－27日）
- 4．WHO，WPRO，長崎大学の主催による世界規模の感染症流行の監視と対応ネットワーク（GOARN）国内トレーニングコースの開催（2月25日から29日）

平成21年7月1日

熱帯医学研究所 所長 平 山 謙 二

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成19年度（2007）

目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

序

1	沿革	1
2	組織及び規模	
2. 1	組織	3
2. 2	職員	3
2. 3	経費	11
2. 4	敷地と建物	11
3	共同利用研究	
3. 1	共同研究	12
3. 2	研究集会	15
4	研究活動	
4. 1	分子構造解析分野	19
4. 2	病原因子機能解析分野	20
4. 3	感染細胞修飾機構分野	21
4. 4	寄生行動制御分野	24
4. 5	分子疫学分野－外国人客員	25
4. 6	暑熱順化機構分野	26
4. 7	炎症細胞機構分野	27
4. 8	病変発現機序分野	27
4. 9	感染症予防治療分野（熱研内科）	29
4. 10	エイズ・感染防御分野	30
4. 11	生物環境分野	31
4. 12	社会環境分野	34
4. 13	疾病生態分野	37
5	附属施設	
5. 1	熱帯性病原体感染動物実験施設	39

5. 2	熱帯感染症研究センター	43
5. 3	共同研究室	44
6	特別事業費による事業	
6. 1	熱帯医学研修課程	46
6. 2	ケニアプロジェクト拠点	48
6. 3	ベトナムプロジェクト拠点	51
6. 4	フィジープロジェクト拠点	53
7	外部資金による研究	
7. 1	文部科学省科学研究費補助金（平成19年度）	56
7. 2	厚生労働省科学研究費補助金（平成19年度）	58
7. 3	受託研究費等（平成19年度）	59
8	海外活動	61
9	外国人研究者の受け入れ	
9. 1	熱帯医学研究コース	70
9. 2	平成19年度に受け入れた外国人研究者	71
10	研究成果の発表状況	
10. 1	研究業績	73
10. 2	学会発表演題	85
10. 3	国際会議における研究発表	99
10. 4	報告書等印刷物	106
11	講演会	
11. 1	熱帯医学研究所における所外講師による講演	109
11. 2	熱帯医学研究所教員による講演	111
12	主要な研究設備品	119
13	刊行物	120

1 沿革

昭和17年 3 月	長崎医科大学附属東亜風土病研究所設立	昭和55年 3 月	本館の第二次増築竣工
昭和20年 8 月	原爆投下により研究所建物及び研究資料消失	昭和58年 4 月	国際協力事業団（JICA）の集団研修コース「熱帯医学研究コース」開設
昭和21年 4 月	長崎医科大学風土病研究所に改称	昭和59年 4 月	原虫学部門の増設
昭和21年 5 月	諫早市に移転し，研究活動再開	昭和60年 8 月	本館の第三次増築竣工
昭和24年 5 月	新制長崎大学に附置され，長崎大学附置風土病研究所に改称	昭和62年 4 月	病害動物学部門の増設
昭和32年 7 月	諫早大水害により，施設，機器，研究資料等に壊滅的な被害	平成元年 4 月	熱帯医学研究所は共同利用研究所に改組
昭和34年 3 月	長崎市興善町の元長崎大学医学部附属病院外来患者診療所跡に移転	平成 3 年 4 月	感染生化学部門の増設
昭和36年 3 月	長崎市坂本町に新庁舎竣工	平成 6 年 3 月	本館の第四次増築竣工
昭和36年 4 月	新庁舎に移転	平成 6 年 4 月	大部門制に改組（3 大部門12 研究分野）
昭和39年 4 月	疫学部門の増設	平成 7 年 4 月	世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE）の研究所に指定
昭和40年 4 月	寄生虫学部門の増設	平成 8 年 4 月	病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）の新設
昭和41年 4 月	ウイルス学部門の増設	平成 9 年 4 月	附属熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い，附属熱帯病資料情報センターの新設
昭和42年 2 月	本館の第一次増築竣工	平成13年 4 月	附属熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い，附属熱帯感染症研究センターの新設
昭和42年 6 月	風土病研究所が熱帯医学研究所に改称	平成15年 3 月	本館の第五次増築（熱帯性病原体集中研究管理棟）竣工
昭和42年 6 月	熱帯医学研究所内科として，医学部附属病院に設置	平成17年 9 月	ナイロビ研究拠点 設置
昭和49年 4 月	附属熱帯医学資料室設置	平成18年 3 月	本館の改修工事竣工
昭和49年 4 月	病原細菌学部門の増設	平成20年 4 月	附属熱帯感染症研究センターの廃止・転換に伴い，附属アジア・アフリカ感染症研究施設及び熱帯医学ミュージアムの新設
昭和53年 3 月	感染動物隔離実験棟竣工		
昭和53年 4 月	防疫部門（客員部門）の新設		
昭和53年 4 月	熱帯医学研修課程の新設		
昭和54年 4 月	感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設に昇格		

歴代所長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角	尾	晋	自至	昭和17年 (1942)	5月4日
				昭和20年 (1945)	8月22日
古	屋	宏	自至	昭和20年 (1945)	12月22日
	野	平		昭和23年 (1948)	1月23日
高	瀬	清	自至	昭和23年 (1948)	1月24日
				昭和23年 (1948)	8月31日
登	倉	登	自至	昭和23年 (1948)	9月1日
				昭和24年 (1949)	5月30日

(長崎大学風土病研究所)

登	倉	登	自至	昭和24年 (1949)	5月31日
				昭和33年 (1958)	8月31日
大	森	南三郎	自至	昭和33年 (1958)	9月1日
				昭和38年 (1963)	11月30日
福	見	秀雄	自至	昭和38年 (1963)	12月1日
				昭和42年 (1967)	5月31日

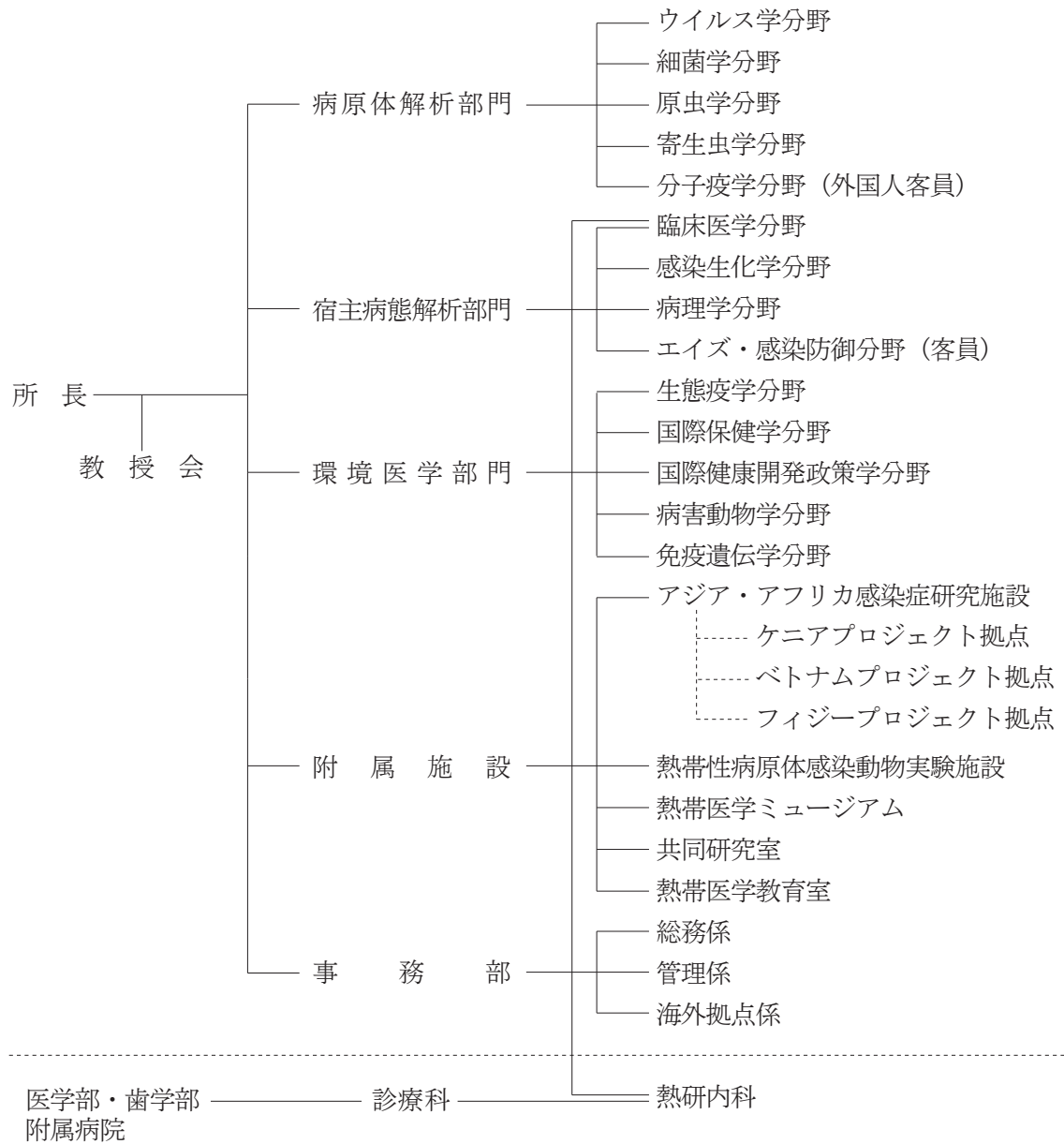
(長崎大学熱帯医学研究所)

福	見	秀雄	自至	昭和42年 (1967)	6月1日
				昭和44年 (1969)	11月30日
片	峰	大助	自至	昭和44年 (1969)	12月1日
				昭和48年 (1973)	11月30日
林		薫	自至	昭和48年 (1973)	12月1日
				昭和52年 (1977)	11月30日
内	藤	達郎	自至	昭和52年 (1977)	12月1日
				昭和54年 (1979)	11月30日
片	峰	大助	自至	昭和54年 (1979)	12月1日
				昭和56年 (1981)	4月1日
松	本	慶藏	自至	昭和56年 (1981)	4月2日
				平成3年 (1991)	4月1日
板	倉	英吉	自至	平成3年 (1991)	4月2日
				平成5年 (1993)	4月1日
小	坂	光男	自至	平成5年 (1993)	4月2日
				平成9年 (1997)	4月1日
五	十	嵐	自至	平成9年 (1997)	4月2日
		章		平成13年 (2001)	3月31日
青	木	克己	自至	平成13年 (2001)	4月1日
				平成19年 (2007)	3月31日
平	山	謙二	自至	平成19年 (2007)	4月1日
				現	在

2 組織及び規模

2.1 組織

平成20年8月1日



2.2 職員

平成20年8月1日

1) 定員内職員

※ () は有期雇用職員で外数

区 分	教 員						そ の 他 の 職 員	合 計
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計		
現 員	(7) 10	(2) 4	3	(10) 16	3	(19) 36	(8) 10	(27) 46

2) その他の職員

非常勤講師 21名 外国人研究員(客員教授) 1名 客員教授 1名
 客員准教授 1名 産学官連携研究員 6名 プロジェクト研究員 1名
 科学研究費補助金技術支援員 1名 研究支援員 1名
 研究支援推進員 7名 研究機関研究員 1名 事務補佐員及び技能補佐員 28名

3) 教職員・大学院学生等氏名

平成20年8月1日 現在

所	長 (命)教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
副 所 長	(命)教 授	医 学 博 士	高 木 正 洋
ウ イ ル ス 学 分 野	教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	山 城 哲
	(兼)教 授		長 谷 部 太
	准教授(有期雇用)	医 学 博 士	マリア デル カルメン パルケット
	助 教	獣 医 学 博 士	井 上 真 吾
	(兼)助 教		久 保 亨
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	余 福 勲
	助教(有期雇用)	農 学 博 士	鍋 島 武
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	上 地 玄 一 郎
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	堀 田 こ ず え
	技 能 補 佐 員		城 臺 和 美
	研究支援推進員		山 口 知 美
	事務職員(有期雇用)		メ ル バ ギ ダ ヤ
	事 務 補 佐 員		増 田 美 紀
	事 務 補 佐 員		馬 場 礼
	大 学 院 生		木 下 一 美
細 菌 学 分 野	大 学 院 生		ギィエルモ ポサダス ヘッラ
	大 学 院 生		ディン テュアン デュク
	大 学 院 生		ムラオ ライア アニー エスパード
	大 学 院 生		グエン ドングツウ
	大 学 院 生		岡 本 健 太
	大 学 院 生		吉 川 亮
	教 授	農 学 博 士	平 山 壽 哉
	講 師	理 学 博 士	和 田 昭 裕
	助 教	医 学 博 士	江 原 雅 彦
	技 術 職 員		岩 見 守 代
	技 術 支 援 員		前 田 香 代

原 虫 学 分 野	教 授	医 学 博 士	金 子 修
	講 師	薬 学 博 士	上 村 春 樹
	助 教	医 学 博 士	中 澤 秀 介
	助 教	薬 学 博 士	矢 幡 一 英
	助教(有期雇用)	P h D	リチャード カレトン
	技 能 補 佐 員		木 下 美 紀
	大 学 院 生		紗羅知 明子 クリスティーナ
	大 学 院 生		津 守 陽 子
	大 学 院 生		モラコット カエタマソーン
	産学官連携研究員		唐 建 霞
寄 生 虫 学 分 野	研 究 支 援 員		朱 曉 彤
	教 授	医 学 博 士	青 木 克 己
	助 教	医 学 博 士	渡 部 幹 次
	助 教	医 学 博 士	三 井 義 則
	技 術 職 員		三 浦 光 政
	技 能 補 佐 員		富 永 佐 登 美
	研究支援推進員		林 田 昌 子
	大 学 院 生		大 木 智 春
	大 学 院 生		阿 部 眞 由 美
分 子 疫 学 分 野	外国人研究員 (客員教授)	医 学 修 士	陳 紅 根
	事 務 補 佐 員		小 松 要
臨 床 医 学 分 野	教 授	医 学 博 士	有 吉 紅 也
	教授(有期雇用)	P h D	野 内 英 樹
	准 教 授	医 学 博 士	森 本 浩 之 輔
	助 教	医 学 博 士	宮 城 啓
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	吉 田 レイ ミント
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	鈴 木 基
	助 手		渡 邊 貴 和 雄
	技 能 補 佐 員		切 江 満 代
	技 能 補 佐 員		白 水 里 奈
	事 務 補 佐 員		野 川 理 加
	大 学 院 生		土 屋 菜 歩
	大 学 院 生		ブ ティ トウ フォン
	大 学 院 生		森 正 彦
	大 学 院 生		山 下 嘉 郎

	大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生							鋤 興 大	崎 座 間	利 嘉 敬	貴 康 太
感 染 生 化 学 分 野	准 教 授 助 教 員 技 能 補 佐 員	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	栗 藤 荒	林 井 木	仁 智 佳	太 人 子				
病 理 学 分 野	助 教 員 大 学 院 生	医 理 学 博 士 医 理 学 博 士 医 理 学 博 士	医 理 学 博 士 医 理 学 博 士 医 理 学 博 士	千 入	馬 江	正 寿 美	敬 子				
診 療 科 (熱 研 内 科)	科 長 (命) 教 授 副 科 長 (命) 准 教 授 講 師 助 教 員 助 医 員 医 員 医 員 医 員 医 員 助 教 員 事 務 補 佐 員	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	有 森 土 古 石 小 寺 原 田 松 氏 本 市	吉 本 橋 本 田 山 田 中 木 家 田 瀬	紅 浩 佳 朗 正 和 真 義 健 無 章 久	也 之 輔 子 嗣 之 彦 美 高 之 啓 限 子 美				
エイズ・感染防御分野	客 員 教 授 客 員 准 教 授 助 教 員	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	山 佐 久	本 藤 保	直 裕 嘉	樹 徳 直				
生 態 疫 学 分 野	教 授 教 授 (有 期 雇 用) 教 授 (有 期 雇 用) 教 授 (有 期 雇 用)			嶋 堀 金 一	田 尾 子 瀬	雅 政 休	曉 博 聰 生				
国 際 保 健 学 分 野	教 授 准 教 授 助 教 員 研 究 支 援 推 進 員 技 能 補 佐 員	保 健 学 博 士 保 健 学 博 士 保 健 学 博 士 保 健 学 博 士 保 健 学 博 士	保 健 学 博 士 保 健 学 博 士 保 健 学 博 士 保 健 学 博 士 保 健 学 博 士	山 本 砂 橋 崎 江	本 田 原 爪 谷 口	太 純 俊 真 恭 克	郎 久 彦 弘 子 之				

	技 能 補 佐 員 事 務 補 佐 員 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生				藤 井 秀 文 白 石 さ つ き 駒 澤 大 佐 赤 羽 桂 子 Kounnavong Sengchanh
国際健康開発政策学分野	教 授 助 教 助 教 研究支援推進員 技 能 補 佐 員 大 学 院 生	医 学 博 士 工 学 博 士 医 学 博 士		溝 田 勉 後 藤 健 介 依 田 健 志 牛 谷 梨 恵 中 山 栄 美 峰 松 和 夫	
病 害 動 物 学 分 野	教 授 教授(有期雇用) 講 師 助 教 助教(有期雇用) 産学官連携研究員 プロジェクト研究員 研究機関研究員 事 務 補 佐 員 研究支援推進員 事 務 補 佐 員 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生	医 学 博 士 理 学 博 士 農 学 博 士 医 学 博 士 学 術 博 士 地 球 環 境 博 士 科 学 博 士 農 学 博 士 学 術 博 士		高 木 正 洋 皆 川 昇 川 田 均 比 嘉 由 紀 子 角 田 隆 高 野 宏 平 二 見 恭 子 大 庭 伸 也 上 野 俊 子 園 田 友 理 酒 本 淳 子 前 川 芳 秀 杉 浦 正 昭 都 築 中	
免 疫 遺 伝 学 分 野	教 授 教授(有期雇用) 准 教 授 (兼)講 師 助 教 助教(有期雇用) 産学官連携研究員 産学官連携研究員 技 能 補 佐 員 技 能 補 佐 員	医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 学 術 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士		平 山 謙 二 安 波 道 郎 大 渡 伸 菊 池 三 穂 子 グエン フィ ティエン 柴 田 宏 樹 シュアイブ モハマド ナシル パンデイ キショール 早 嶋 順 子 堀 江 仁 美	

	事務補佐員			岡本麻貴子
	大学院生			高木明子
	大学院生			エクラス ハメド アデル ハーフィズ アブドゥ
	大学院生			グエン ティ フォン ラン
	大学院生			山崎朗子
	大学院生			ヘレッシベ ギデオン コフィ
	大学院生			エデルロイザ セレグレ メンドゥーサ
	大学院生			デル プエルト ロダス ラモナ フロレンシア
	大学院生			トラン ティ グオック ハ
アジア・アフリカ感染症 研究施設 (ケニア拠点)	拠点リーダー(命)教授	医学博士	嶋田雅暁	
	教授(有期雇用)	医学博士	一瀬休生	
	教授(有期雇用)	理学博士	皆川昇	
	教授(有期雇用)	医学博士	金子聰	
	教授(有期雇用)	医学博士	堀尾政博	
	事務職員		本田志保子	
	プロジェクト研究員	農学博士	二見恭子	
アジア・アフリカ感染症 研究施設 (ベトナム拠点)	拠点リーダー(命)教授	医学博士	森田公一	
	教授(有期雇用)	医学博士	山城哲	
	(兼)教授(有期雇用)		長谷部太	
	教授(有期雇用)	P h D	野内英樹	
	助教(有期雇用)		角田隆	
	助教(有期雇用)		鈴木基	
	助教(有期雇用)		上地玄一郎	
	助教(有期雇用)		堀田こずえ	
	事務職員		古矢佳男	
	秘書		ブイ テウー チャ	
	助教(有期雇用)		アラム モハメッド マハブブ	
	産学官連携研究員	医学博士	滝沢直己	
産学官連携研究員	社会医学博士	佐藤尊範		
アジア・アフリカ感染症 研究施設 (フィジー拠点)	拠点リーダー(命)教授	医学博士	森田公一	
	(兼)教授(有期雇用)		神谷保彦	
	准教授(有期雇用)	M a s t e r	塚越達彦	
	技術職員		笹川健造	
	事務職員		中村祐美子	

熱帯医学ミュージアム	館長 教授(有期雇用) 研究支援推進員 技能補佐員 事務補佐員		平堀 山 謙 二 堀 尾 政 博 荒 木 一 生 須 田 清 美 清 水 洋 治
熱帯性病原体感染動物実験施設	施設長(命)教授 助手 技能補佐員	医学博士 医科学修士	金子 修 柳 雄 川 嶋 順 子
共同研究室	室長(命)教授 助手 研究支援推進員	医学博士	森田 公 一 一ノ瀬 昭 豊 千 葉 多 賀 子
非常勤講師	大分大学・教授 埼玉医科大学・講師 琉球大学・教授 長崎県環境保健研究センター・専門研究員 千葉大学・教授 おおり医院・院長 三和中央病院・部長 長崎大学医歯薬学総合研究科・教授 赤司医院・院長 東京都立墨東病院・部長 大阪大学・教授 亀田総合病院・部長 長崎大学医歯薬学総合研究科・教授 東京医科歯科大学・教授 国立国際医療センター研究所・部長 スウェーデンカロリンスカ研究所・准教授 大阪市立大学・教授 群馬大学・准教授 外務省国際協力局国際緊急援助室・室長 総合地球環境学研究所・教授		牧野 芳 大 名 和 優 森 直 樹 吾 郷 昌 信 野 田 公 俊 大 利 昌 久 坂 本 信 由 井 克 之 前 川 知 之 大 西 健 児 大 石 和 徳 岩 田 健 太 郎 増 崎 英 明 太 田 伸 生 狩 野 繁 之 金 子 明 脇 村 孝 平 中 澤 浩 明 鈴 野 木 博 門 司 彦
事務部	事務長 専門職員 総務係長	事務職員 事務職員 事務職員	古川 俊 博 末次 弘 明 松 尾 真

総務主任	事務職員	山田	下田	リ直	サ美
総務係員	事務補佐員	太山	田下	みゆ	き信
総務係員	事務職員	林伊	田藤	武智	浩子
管理主任	事務職員	大末	宅永	陽純	子子
管理係員	事務補佐員	松松	本尾	由美	日香
管理係員	事務補佐員	笹橋	田口	健文	太子
海外拠点係長	事務職員	本石	田川	志理	保恵
海外拠点主任	事務職員	長谷川	川	いづみ	
海外拠点係員	事務補佐員				
海外拠点係員					

2. 3 経 費

年度別歳出決算額

年度 \ 区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平 成 10 年	473, 414, 781 円	412, 687, 773 円	886, 102, 554 円
〃 11 年	471, 498, 613	307, 109, 233	778, 607, 846
〃 12 年	450, 088, 155	307, 804, 552	757, 892, 707
〃 13 年	448, 975, 931	443, 188, 323	892, 164, 254
〃 14 年	436, 287, 495	446, 435, 378	882, 722, 873
〃 15 年	436, 856, 514	329, 800, 442	766, 656, 956
〃 16 年	566, 026, 173	352, 687, 470	918, 713, 643
〃 17 年	513, 548, 151	483, 922, 022	997, 470, 173
〃 18 年	511, 113, 217	468, 421, 412	979, 534, 629
〃 19 年	497, 314, 948	371, 067, 760	868, 382, 708

2. 4 敷地と建物

所在地 長崎市坂本1丁目12-4

敷 地 長崎大学医学部構内 3, 305㎡

建 物

建 物 名 称	構 造	建面積(㎡)	延面積(㎡)	備 考
本 館	鉄筋コンクリート 3 階, 一部 4 階建	1, 763	6, 454	昭和36. 3 建築 昭和42. 2 増築 昭和55. 3 増築 昭和60. 8 増築 平成 6. 3 増築 平成18. 3 改修
熱帯性病原体 集中研究管理棟	鉄筋コンクリート 4 階 建	329	1, 328	平成15. 3 建築
熱帯性病原体 感染動物実験 施 設	鉄筋コンクリート 3 階 建	190	490	昭和53. 3 建築 昭和63. 3 増築
薬 品 庫	ブ ロ ッ ク 建	20	20	昭和47. 3 建築
保 管 庫	プレハブハウス	133	133	平成16. 3 建築
計		2, 435	8, 425	

3 共同利用研究

3. 1 共同研究 (◎は研究代表者)

1. ベトナムにおける地理情報システム (GIS) と出生情報を活用した地域データベース構築

長崎大・国際研究戦略本部	◎野内 英樹
長崎大・熱研	高木 正洋, 谷村 晋, 後藤 健介, 都築 中 (大学院生)
新潟大・国際保健	鈴木 宏
順天堂大・医	丸井 英二, 松井 研一 (大学院生)
ベトナム保健省衛生疫学研	Dang Duc Anh, Vu Dinh Thiem
カナダ国アルバータ州立大	安井 裕
東京大・医 大学院生	大田 えりか

2. ケニアに於ける非中間宿主貝のミラシジウム誘引力を利用した新しい住血吸虫対策法, 図 貝の開発

鹿児島大・多島圏研究センター	◎野田 伸一
福岡大・医	波部 重久
岡山大・農	福田 宏
長崎大・熱研	青木 克己, 三井 義則, 渡部 幹次, 阿部 眞由美

3. 中国フィリピンの住血吸虫症の予防および慢性合併症対策に関する共同研究

長崎大・熱研	◎平山 謙二
江西省寄生虫病研	陳紅根
江蘇省寄生虫病研	Yu Chuanxin
フィリピン保健省熱帯医学研	Remigio Olveda
琉球大・遺伝子センター	新川 武
順天堂大・医	奈良 武司
長崎大・国際研究戦略本部	菊池 三穂子

4. ヒトgp91^{phox}の構造と機能の相互解析とその応用

長崎大・熱研	◎中村 三千男, 前川 知之, 栗林 太, 藤井 仁人
--------	-----------------------------

ファルマアクセス（株）	勝部 幸輝，濱田 賢作
東京大・医科学研	大海 忍
長崎大・共同研究交流センター	真木 俊英，

5. イムノクロマトグラフィー法による熱帯熱マラリアガメトサイト検出キットの作成

長崎大・熱研	◎中澤 秀介
株式会社ビーエル開発本部	難波 誠治
藤田保健衛生大・医	前野 芳正

6. tropismの異なったレトロウイルス間相互作用の効果に関する研究

長崎大・熱研	◎久保 嘉直
理化学研	天沼 宏

7. デングウイルス感染阻害物質の検索

長崎大・熱研	◎森田 公一，井上 真吾
静岡県立大・薬	左 一八
琉球大・医	只野 昌之
埼玉医科大	名和 優
長崎大・国際研究戦略本部	長谷部 太

8. 寄生原虫の宿主適応と遺伝子発現

長崎大・熱研	◎上村 春樹，中澤 秀介，柳 哲雄
関西医科大・医	藤井 茂
久留米大・医	井上 雅広

9. リモートセンシングおよびGISを用いた社会環境要因に帰する感染症対策への適用研究

長崎大・熱研	◎溝田 勉，後藤 健介，依田 健志
国立感染症研	二瓶 直子
金城学院大	足立 文彦
国際医療福祉大	樂得 康之
岡山大・環境学研究科	山本 秀樹，鹿嶋 小緒里
立命館アジア太平洋大	谷村 晋
久留米大	秦 亮

長崎大・医 大学院生

峰松 和夫

10. アジア・太平洋地域の健康増進における社会環境要因の解析

長崎大・熱研

◎門司 和彦

世界保健機構

一盛 和世

京都大・地域研究情報センター

阿部 健一

マヒドン大・熱帯医学部

ジトラ・ワイカグル

マヒドン大・熱帯医学部大学院生

タエンカム・ウルサ, ユーヌアン・ティッパヤラト

11. アジア・太平洋地域における人畜共通感染症の研究

旭川医科大学

◎伊藤 亮, 中尾 稔

アメリカ疾病管理センター (CDC) Peter Schantz

長崎大・熱研

門司 和彦, 溝田 勉, 後藤 健介, 依田 健志

長崎大・医 大学院生

峰松 和夫

12. 現場を想定した疾病媒介蚊防除技術, 効果判定, モニタリングの再検討 (Phase II)

長崎大・熱研

◎高木 正洋

国立感染症研

津田 良夫

名古屋女子大・短大部

杉山 章

住友化学工業(株)

庄野 美徳, 久保田 俊一

3. 2 研究集会

1. 医学研究における倫理に関する国際セミナー

開催日：平成19年7月9日～年7月11日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所（長崎大学ポンペ会館）

代表者：疾病生態分野 平山 謙二

コースディレクター：Reidar Lie(ベルゲン大学), 松井健志(東京大学), 平山謙二(熱研)

発表者：(1) 医学研究の倫理とは。その歴史的背景と原理

ベルゲン大学 教 授 Reidar K. Lie

(2) 研究への参加の意思決定：インフォームドコンセント

東京大学 助 教 松井 健志

(3) リスクと利益の評価

ベルゲン大学 教 授 Reidar K. Lie

(4) 小児あるいは社会的な弱者を対象にした研究の倫理

国立成育医療センター 室 長 中村 秀文

(5) 保存されているサンプルを用いての研究

ベルゲン大学 教 授 Reidar K. Lie

(6) 臨床研究と日常診療の境界

日本学術振興会 特別研究員(PD) 田代 志門

(7) 治験システムと倫理審査委員会

韓国ウルサン大学 准教授 Young-Mo Koo

(8) 薬理遺伝学と倫理

東京大学 教 授 津谷 喜一郎

(9) コミュニティー基盤研究と倫理

長崎大学・熱研 教 授 平山 謙二

2. 疾病媒介蚊に及ぼす環境の影響

開催日：平成19年6月14日～6月15日（金）

代表者：生物環境分野 高木 正洋

場 所：沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）

発表者：

- (1) **Characteristics of mosquito fauna and recent status of the vector-mosquitoes in Ryukyu Archipelago, Japan.** Takako Toma, University of Ryukyu, Japan

- (2) **Current status of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus* in Taiwan with discussion on some possible limiting environmental factors.** Hwa-Jen Teng and Chien-Fu Chen, Centers for Disease Control, Taiwan
- (3) **Spatial differences in distribution of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus*, and environmental factors influencing the distribution along national routes in Vietnam.** Yukiko Higa¹, Nguyen Thi Yen², Hitoshi Kawada¹, Nguyen Thuy Hoa² and Masahiro Takagi¹, ¹Nagasaki University, Japan, ²National Institute of Hygiene and Epidemiology, Vietnam
- (4) **Behavioral and population response of dengue vectors to environmental changes occurred in different scale.** Yoshio Tsuda¹, Wannapa Suwonkerd² and Masahiro Takagi³, ¹National Institute of Infectious Diseases, Japan, ²Office of Disease Prevention and Control No.10, Thailand, ³Nagasaki University, Japan
- (5) **Impact of environmental changes on the disappearance of some members of the *Anopheles maculatus* complex in Thailand.** Pradya Somboon¹ and Catherine Walton², ¹Chiangmai University, Thailand, ²University of Manchester, UK
- (6) **Integrated pest and vector management and farmer field schools: tools for vector control in a changing environment.** Hans Overgaard, Bioforsk, Norway

3. 北タイにおけるエイズ結核問題への臨床疫学的検討と研究開発の基盤形成

開催日：平成19年11月19日～11月20日

代表者：感染症予防治療分野 有吉 紅也

場 所：長崎大学熱帯医学研究所

発表者：(1) 北タイランパン病院HIV感染者コホートの現状と抗HIV薬普及前後の結核罹患率の変移について

長崎大学・熱研 教授 有吉 紅也

長崎大学・熱研 大学院生 土屋 菜歩

(2) HIV感染者におけるIL-4およびRANTES遺伝子多型と結核罹患リスクとの関係について

タイ国立衛生研究所 研究員 ヌアンジャン・ウィチュクチンダ

大阪大学・微生物研 教授 塩田 達雄

(3) HIV感染者の結核罹患に関連するゲノム研究のあり方について

京都大学・ゲノム医学センター センター長 松田 文彦

京都大学・ゲノム医学センター 助 教 山田 亮

- (4) チェンライ県からの結核サンプルの活用による遺伝疫学研究
 タイ国立衛生研究所 研究医員 スラカメ・マハシリモンコル
 長崎大学・熱研 教 授 野内 英樹
- (5) 第3世代QuantiFERONの活用による不顕性の結核感染者の同定に関して
 結核研究所 科 長 原田 登之
- (6) 結核研究所における日本の結核患者からの検体バンクの作成と、同様な検体
 バンク作成を進めているタイ国立衛生研究所との協議
 結核研究所 科 長 御手洗 聡
 タイ国立衛生研究所 研究医員 スラカメ・マハシリモンコル
- (7) 新規抗結核薬の研究開発の進展と薬剤ゲノム研究 (Pharmacogenetics) につい
 ての協議
 結核研究所 リーダー 土井 教生
 タイ国立衛生研究所 研究医員 スラカメ・マハシリモンコル

4. マラリア伝播の研究ーヒト・蚊・原虫の行動から集団遺伝学までー

開催日：平成19年11月21日～11月22日

代表者：感染細胞修飾機構分野 中澤 秀介

場 所：長崎大学熱帯医学研究所

発表者：(1) マラリア原虫有性生殖世代 (レビュー)

長崎大学・熱研 助 教 中澤 秀介

(2) RT-PCRによる濾紙乾燥血液サンプルの *Plasmodium falciparum* 生殖母体の検
 出について

藤田保健衛生大学 准教授 前野 芳正

(3) マラリア原虫非媒介ベクター

自治医科大学 講 師 吉田 栄人

(4) 我国の野鳥の鳥マラリアと媒介蚊について

国立感染症研究所 室 長 津田 良夫

(5) ホストとベクターの空間的不均一性とそのマラリア伝播における意義

長崎大学・熱研 助 教 砂原 俊彦

(6) マラリア流行地域における少数民族の日常生活および蚊帳使用とマラリア感
 染の関連

長崎大学・熱研 大学院生 阿部 朋子

(7) マラリア流行地におけるヒトの住居・行動と感染の関係

5. 見捨てられた病気のための医薬品開発研究会

開催日：平成19年10月16日～10月17日

代表者：疾病生態分野 平山 謙二

場 所：長崎大学

発表者：(1) Regulatory aspects of clinical development

京都大学大学院医学研究科 教 授 川上 浩司

(2) Special topics:

・ Genetic engineer product

・ Gene therapy and stem cells

京都大学大学院医学研究科 教 授 川上 浩司

(3) Visiting the Nagasaki University Hospital of Medicine and Dentistry

長崎大学医歯薬学総合研究科 教 授 佐々木 均

(4) Introduction of Traditional Medicine: Alternative but rational approach

東京大学大学院薬学系研究科 教 授 津谷 喜一郎

(5) Guidance on herbal medicine

東京大学大学院薬学系研究科 教 授 津谷 喜一郎

(6) Regulation for traditional medicine development

株式会社ツムラ医薬営業本部 グループ長 新井 一郎

(7) Example of Clinical Drug development

エーザイ株式会社知創部 ディレクター 高山 千弘

(8) Stakeholders in Product Research and Development (discussion) (10月1日)

昭和大学 教 授 内田 英二

(9) Example：Animal model used in pre-clinical studies (10月23日)

国立国際医療センター研究所 部 長 狩野 繁之

4 研究活動

4. 1 分子構造解析分野

I. 熱帯ウイルス病の疫学およびウイルス学研究

- 1) 現在ネパールではデング・サーベイランス・プログラムが整備されていない。ネパールにおけるデング感染の状況を調査するため、カトマンズのSukraraj Tropical and Infectious Disease Hospitalに入院した重症の熱疾患患者から血液標本を採り、粒子凝集(PA)分析とIgM捕捉ELISA法による実験室診断と分子疫学的調査を行い、デングウイルス感染が存在することを実証した。
- 2) 北部ベトナムにおいて人獣共通感染症原因ウイルスの宿主であるコウモリを調査し、88体から245本の血液サンプルを採取した。日本脳炎ウイルス(JEV), チクングンヤウイルス(CHIK), ニパウイルス(NiV), SARSコロナウイルス(SARS-CoV)に対する抗体の保有状況を検索するため血清検査を行ったところ、*Rousettus leschenaultia* 種のみ陽性反応があり、それぞれJEV(23.1%), CHIK(65.4%), NiV(50.0%), SARS-CoV(13.5%)という結果であった。Tuyen Quang県でコウモリ猟やコウモリを出すレストランの従業員および食事客のリスクへの暴露度合いを評価する予定である。
- 3) SARS-CoV, およびSARS-CoVエンベロープに包んだシェードSARS-CoVを作成して、SARS-CoVがターゲット細胞へ進入する時に主にクラスリンが介在するエンドサイトーシス経路を利用することを明らかにした。
- 4) デング熱およびデング出血熱患者の血液中でデングウイルスの複製を主に担う部位を特定するための、感度が高く正確なフローサイトメリー分析システムを開発した。
- 5) NF-kappaB阻害物質dehydroxymethylepoxyquinomicin(DHMEQ)がデングウイルスに感染した内皮細胞の透過性を抑制することを発見した。
- 6) 蚊La蛋白質が日本脳炎ウイルスのプラス鎖およびマイナス鎖RNAの3'非翻訳領域に結合し、試験管内でRNA複製を阻止することを確認した。
- 7) SARSコロナウイルスのN蛋白質が肺炎を悪化させることを確認した。

II. アルボウイルスの分子生物学的研究

- 1) ベトナムではじめてバンナウイルスを同定した。
- 2) ヒトTNF alphaに対するsiRNAがデングウイルスにより誘発されたヒトTNF alpha生産を抑制することを突き止めた。

Ⅲ. アルボウイルスその他のウイルス感染の実験室診断法開発

- 1) IgG間接ELISA法によりデング二次感染を迅速に確定する方法を開発した。
- 2) デングウイルス感染の迅速診断のためのリアルタイム逆転写LAMP(RT-LAMP)法を開発した。
- 3) RT-LAMPを用いたリフトバレー熱(RVF)ウイルスの検出法を開発した。7種類の異なった株のRVFウイルスから抽出したウイルスRNAを増幅すること、および従来のRT-PCR法と比べて感度が10~100倍高いことを確認した。

Ⅳ. アルボウイルスその他のウイルス病に対する治療および予防法の開発

- 1) ウエストナイルウイルス感染に対する不活化ワクチンの開発の一環として、ホルマリン濃度の変化が不活化ワクチンに及ぼす影響を評価し、ワクチンとしての機能を果たすために必要な最小量を決定した。
- 2) デングウイルス二次感染患者に起きる重症の血小板減少症治療において高用量免疫グロブリン静脈注射治療の薬効を評価した。

Ⅴ. WHO協力センターとしての活動

2005年3月に始まった、独立行政法人国際協力機構(JICA)の大洋州諸国の予防接種強化事業である、「Japanese support to the Pacific Immunization Programme Strengthening (J-PIPS)」における技術実施機関としてWHOと協力しており、このプロジェクトにおいて当研究分野の森田公一教授はチーフ・アドバイザーを勤め、定期的に現地を訪れてプロジェクトの進行に積極的に関与した。

4. 2 病原因子機能解析分野

I. ヘリコバクター・ピロリ感染の病因と病態学的研究

ヘリコバクター・ピロリが産生する空胞化毒素VacAの胃粘膜障害機序を明らかにする。そのために、「VacA毒素がその受容体である膜型チロシンフォスファターゼ(RPTP)に結合することによって惹起される空胞形成及び細胞死にいたる細胞内シグナル伝達の流れを明らかにする」ことを目指し、VacA毒素受容体の構造と機能および毒性発現についての詳細を解析することを目指している。

- 1) COX-2は炎症及び発癌に関わる重要な酵素であり、18年度はVacAがいかなる機構で胃上皮細胞のCOX-2発現を促すかの詳細を明らかにし、幾つかの追加実験成果を加えて論文発

表した (Hisatsune J, *et al.* Infect. Immun. 2007)。この研究において、対照として用いた他の組織由来の細胞の中で、大腸、食道などに胃上皮同様のCOX-2発現誘導が認められた。一方、ヘリコバクター・ピロリ感染局所には多くの炎症細胞の浸潤や活性化が認められ、特に、炎症性サイトカインであるIL-8は多核白血球の強力な誘導活性化因子であり、胃炎の進行と多核白血球の浸潤が相関する事実とを考えると、ヘリコバクター・ピロリ感染による胃粘膜障害にはIL-8が重要な役割を担っていると考えている。そこで、VacAが宿主細胞からのIL-8産生を促す可能性とその産生機構の詳細を究明した。種々細胞を用いてVacAによるIL-8の産生誘導を調べた。その結果、末梢血CD14⁺細胞のみならず、単球系株化細胞U937細胞を含む数種の細胞でVacAによるIL-8の産生誘導が著明に認められた。そこで、U937細胞を用いてVacAによるIL-8産生誘導機構を詳細に検討した。VacAは、MAPKの活性化を介してATF-2及びCREBを活性化し、これらの転写因子がIL-8 promoter領域のAP-1 siteへ結合するのを促した。また、VacAは、細胞内のCa²⁺濃度を上昇させてNF- κ Bを活性化し、IL-8 promoter領域のNF- κ B siteへの結合を促進させてIL-8の発現を誘導させた (Hisatsune J. *et al.* J. Immunol. 2008)。

- 2) フィリピンにおいては、セントルークス医学センターのNatividad博士、De Guzman博士らによりセントルークス医学センター付属病院消化器内科で異なる胃疾患患者の胃から内視鏡により採取された検体からヘリコバクター・ピロリを分離後、16srRNA and glm による本菌の遺伝学的同定; cagA, vacA, iceA, babの遺伝子型を調べた。その結果、胃癌患者の57%にs1b, m1, 胃炎患者由来の30%がs1a, m1で、m2はわずか8%と低率であった。cagAは胃癌患者で64%, 胃炎患者のそれより高率であった。検体の41%がiceA1であり、bab遺伝子のほとんどがbabA1であった。また、慢性胃炎患者ではVacAが相関するが、cagAおよびiceとは相関せず、約50%の胃炎患者検体が高率にbab遺伝子を有していた。

4. 3 感染細胞修飾機構分野

平成19年3月31日付で神原廣二教授が定年退職し、5月1日付で金子修が愛媛大学から教授として着任した。11月には矢幡一英が大阪大学微生物病研究所から助教として、平成20年1月に大阪大学微生物病研究所からリチャード・カレトンがテニユア・トラック助教として着任した。上村春樹講師はトリパノソーマ原虫の原虫表面トランスシアリダーゼの構造と機能の解析を継続し、またトランス・シアリダーゼ反応阻害剤の開発を行っている。中澤秀介助教はマラリア感染における防御免疫の成立、熱帯熱マラリアの再燃の原因、ガメトサイトキャリアーの検出等をテーマにマラリア研究を行っている。金子修はマラリア原虫の赤血球侵入の分子機構

および感染赤血球表面の生物学の研究を、分子細胞生物学と集団遺伝学という 2 つの異なる手法により解析してきたが、それを熱研において立ち上げた。

I. マラリアに関する研究

1) マラリア原虫の赤血球侵入分子機構

熱帯熱マラリア原虫の感染赤血球表面に発現する Pf332 の遺伝子構造を新たに同定しなおし、細胞接着能を検討したものを発表した (PLoS ONE 2:e477, 2007/May)。また、赤血球への侵入型であるメロゾイトのロプトリーに局在するタンパク質複合体 RhopH の構成成分である Clag3. 1 と Clag3. 2 が相互排他的に転写制御されていることを示唆する知見を発表した (PLoS Pathog 3:e107, 2007/Aug)。さらに、現在までの RhopH 複合体に関する研究をまとめた総説を発表した (Parasitol Int 56:255-62, 2007/Dec)

2) 新規マラリア原虫赤血球認識分子 (候補) の集団遺伝学的解析

赤血球への侵入型であるメロゾイトのロプトリーに局在するタンパク質複合体 RhopH の構成成分すべてについて多型解析を行い、Clag と呼ばれる構成分子は多型の程度が高く、いくつかのメンバーについて多様性を増す選択圧がかかっていることを示唆する結果を発表した (Mol Biochem Parasitol 158:11-21, 2008 Mar)。Clag について熱帯医学修士課程学生のジーン・アレキサンダーがタイの流行地株を用いてさらに詳細な集団遺伝学的解析を行った。また、平成19年10月から研究支援員として加わったモラコット・カエタマソーンと熱帯医学修士課程学生のマルレーン・コンボがマラリア感染赤血球表面抗原である SURFIN_{4.2} について集団遺伝学的解析を行った。

3) 三日熱マラリア培養株の樹立

三日熱マラリア原虫は東南アジアで猛威をふるっているにもかかわらず、実用的な培養系が確立していない。そこで、タイの研究者とともに三日熱マラリア原虫の培養系の確立に関するプロジェクトを開始するとともに、現在までの本領域における研究を総括し発表した (Trends Parasitol 24:85-8, 2008/Feb)。

4) マラリア原虫の転写制御の分子基盤

マラリア原虫への遺伝子導入では転写干渉が問題となり、目的タンパク質の発現が失敗することがある。マラリアにおける転写制御は人や酵母とも異なり、転写の分子基盤を明らかにすることは重要であるため、矢幡がインスレーターと呼ばれる領域に着目し、マラリアにおける転写制御の一端を明らかにすることを目的として研究を開始した。

5) 都市化がマラリア原虫集団に与える影響の研究

アフリカでは近年、急速な都市化が進んでおり、このような社会環境変化がマラリアの流行にどのような影響を与えるのかは明らかでない。そのため、カレトンと平成19年10月

に大学院博士課程に入学した津守陽子は、アフリカのコンゴ共和国のマラリア流行程度が異なる二つの流行地（都市地区と郊外地区）から得た熱帯熱マラリア原虫株の解析を開始した。

6) マラリア原虫の薬剤治療と再燃

中澤は、マラリア原虫の薬剤治療によるreduction rateを検討した。さらに、そのreduction rateに相当する原虫数のマラリア原虫が薬剤治療によって根絶するか否か調べた。

7) マラリア原虫のガメトサイトキャリアーの検出

中澤は、ろ紙乾燥血液標本からDNA, RNA, タンパク質が抽出可能なことを明らかにし、マラリア原虫のガメトサイト・キャリアーを検出する技術を確立した。この手技はマラリアの分子疫学的情報の拡充に繋がると考えている。

8) 熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の研究

上村は、ミャンマー、ラオス、ベトナム、インドネシアで流行している熱帯熱マラリア原虫を用いて、薬剤耐性に関する遺伝子の地域による違いの解析を開始した。

II. リーシュマニアに関する研究

大学院博士課程4年生のキショール・パンディーはネパールの内蔵リーシュマニア患者から採取したリーシュマニア原虫の解析を行い発表した(Parasitol Res 100:1361-9. 2007/May)。また、リーシュマニア原虫の媒介者であるサシチョウバエをネパールで採取し、PCRによりリーシュマニア原虫を検出する方法を検討している。

III. アメリカ・トリパノソーマ原虫に関する研究

Trypanosoma cruzi 原虫は生活環によって異なる構造のトランスシアリダーゼを発現している。上村は、現在までに得られている遺伝子について、昆虫内で発現しているものとトリポマスチゴートで発現しているもので組換え体を作成して調べたところ、酵素活性の有無に重要な領域やpHによる活性変化に影響を与える領域があることを示唆する結果を得た。トランスシアリダーゼ活性の発現は、原虫株によって大きな違いが認められることが報告されているため、いくつかの原虫株を培養して昆虫期でのトランスシアリダーゼ活性を調べ、遺伝子の単離、pHによる活性の変化を調べる実験を行う計画である。大学院博士課程に平成19年4月に紗羅知明子が入学し、トリパノソーマ原虫の細胞生物学的研究を開始した。

IV. 海外における研究活動

上村は熱研のケニア拠点を、中澤はベトナム拠点を利用しマラリアに関する海外共同研究を行った。金子はタイのマヒドン大学や在タイ米国陸軍医学研究所、中国の中国医科大学、江蘇

省血住虫研究所、シンガポールのナンヤン工科大学等といった種々の国外研究機関とマラリアに関する共同研究を継続している。金子は9月20日に中国医科大学の客員教授となり、10月10日に中国医科大学において講演を行った。また、平成20年1月31日にはSINGAPORE malaria network meeting 2008に招待され、マラリアの赤血球侵入について発表を行った。

4. 4 寄生行動制御分野

熱帯地域で猛威を振るっている糸状虫症、住血吸虫症、土壌伝播線虫症の研究を行なっている。平成19年度の研究成果を下記する。

I. 糸状虫症に関する研究

1) 凍結保存ミクロフィラリアを用いた糸状虫の実験室内生活環の維持法の開発

糸状虫の生活環を実験室で維持するには、スナネズミ(宿主)、*Ae.aegypti*(中間宿主)を常に実験室内で維持しておかねばならない。この非効率な生活環の維持法が糸状虫症の研究を困難にしている。

ミクロフィラリアの凍結保存法を改良し、凍結保存ミクロフィラリアを蚊に吸血させ、感染幼虫に発育させることが出来れば、実験室内で効率的に生活環を維持することが可能となる。

本年度、種々の凍結保存液を試したところ、Lowerie(1983)提唱のDMSOとビニールピロリドンの組合わせ保存液が解凍後の最も高いミクロフィラリア生存率(10%)を示した。しかし、Lowrie法で保存されたミクロフィラリアをRutledge(1964)の人口吸血法を用いて、*Ae.aegypti*に取り込ませたが、感染幼虫に発育する数は少なかった。

凍結ミクロフィラリアを用いて生活環を維持するには、人口吸血法を改良する必要がある。

II. 住血吸虫症に関する研究

1) 新しい住血吸虫対策法としての罔貝の研究

住血吸虫症の対策法はいくつかあるが、アフリカにおいては、これらの対策法の機能は種々の要因により発揮されていない。そこでアフリカの住血吸虫症対策には現地の風土、風俗、習慣等に影響を受けない新しい対策法の開発が必要である。

寄生虫学分野では、新しい対策法の候補の一つとして、罔貝の研究を続けている。罔貝は中間宿主へ侵入するミラシジウムを減少させるので、そこに住む人々の風俗習慣に影響を受けず、アフリカでは効果的対策法となることが期待されている。

18年度に長崎産の数種の淡水産貝の分泌物が*Schistosoma mansoni* ミラシジウムを誘引するこ

とを報告した。これらの貝は紈貝として有効かもしれない。

19年度には、貝以外の水性生物が紈となりうるかどうかを調べた。実験方法は18年度に記載した方法と同様である。調べた生物を下記する。

- ・エビ類 (1) *Cardina lucostica stimpsoni*, (2) *Cardina serratirostris* spp,
(3) *Macrobrachium formosense*,
- ・カニ類 (1) *Eriocheir japonica*,
- ・魚 類 (1) *Rhinogobius giarinus*

上記生物の分泌物の中で、*C.serratirostris* spp と *Macrobrachium formosense* は、中間宿主貝 *Biomphalaria glabrata* と同じく強力にミラシジウムを誘引した。他の生物は誘引しなかった。

2) 抗住血吸虫剤のin vitroスクリーニング法の開発

NCTC135を用いたin vitro飼育では、成虫は一ヶ月生存し、産卵しつづけることを明らかにし、この系が抗住血吸虫剤のスクリーニングに活用できることを明らかにした。

この系を用いて抗マラリア剤であるアルテスネイトの *S.mansoni* 成虫への効果を調べた結果、アルテスネイトは抗成虫作用があることが明らかとなった。(J.Helminthol., 2009)

Ⅲ. 土壌伝播線虫症に関する研究

1) ネズミ糞線虫感染型幼虫の温度変化により発現する分子の探索

糞線虫は宿主糞便内に排出された幼虫が感染型幼虫へと発育し感染型幼虫が宿主の皮膚に侵入することで感染が成立する。感染時、幼虫は外界の気温(25度)から宿主(哺乳動物)の体温37度と10度以上の温度変化にさらされる。この温度変化に対し幼虫体内では様々な適応が起きていると思われる。この適応のメカニズムを探るため温度変化により糞線虫体内に誘導される分子を検索した。

*Strongyloides*近縁種のHSP-70, elongation factorに類似性のある分子が多く同定された。この中で現在代謝に関係する分子について組み替え蛋白を作成しその局在等の検討をおこなっている。

4. 5 分子疫学分野－外国人客員

I. ミャンマーにおけるデングウイルスの分子疫学研究

Upper Myanmarで採取した標本から昨年新たに分離した3種類のデングウイルス株の分子疫学的分析に引き続き、ミャンマーにおけるデングウイルスの分子疫学的研究をさらに進めるた

め、デングウイルス感染症のうち重症化するタイプに見られる特徴の解明を試みた。特に、デング出血熱(DHF)やデング熱ショック症候群(DSS)の臨床的重症度と一時感染／二次感染との関連を、市販されているPanbio IgM/IgG ELISAs, Pentax IgM/IgG Particle Agglutination tests, および研究室で作成したIgM/IgG ELISAsを用いて検証した。デングIgMが陽性であった189体の検体の25%が一次感染であり、そのうち、DHFグレードⅢが3検体、DHFグレードⅣが2検体、そしてDSSが2検体あった。したがって、二次感染時の抗体依存感染増強メカニズム以外にDHFおよびDSSを起こすメカニズムがあることを示唆するものと考えられた。

4. 6 暑熱順化機構分野

熱帯地環境で、特に生体影響が強い環境因子の暑熱および紫外線について研究している。

I. 有効な紫外線防御に関する研究

紫外線暴露が生体に様々な障害を引き起こす。一方、地球上の生物は、生命維持に有害な紫外線に対する防御法を、進化の過程で獲得してきた。我々は、特に紫外線環境が厳しい砂漠・低緯度地域・山岳地等に生息する野生動物に備わった、紫外線防御の効率や防御機序を研究している。

この研究では、環境やヒトへ影響が少なく、自然に近い紫外線防御法を、野生動物の紫外線防御から考案し、紫外線の脅威を除く事が目的である。山岳地のナキウサギ、森林のシマリス、砂漠との境界地の灌木地の砂ネズミ、草原の黄ネズミは、下層が黒色の2色構造した体毛をもつ野生動物では、黒色部で紫外線吸収し皮膚組織を防御している事が明らかとなった。

II. 水棲病害微生物の音響水圧による駆除

マンソン住血吸虫のミラシジウムに対し、28, 45, 100 KHzの水中音響を15, 30, 60, 180 sec 負荷した。この結果から、水中音響が、セルカリアおよびミラシジウムに与える影響について検討した。

ミラシジウムによる水中音響障害は、外皮膜の破壊により体内組織の吐出であった。また、強度の障害では、原形を止めない影響を受けていた。

音響出力および負荷時間が同じでも、生存率は周波数により有意差が認められた。最低生存率が得られた周波数は、ミラシジウムとセルカリアで異なっていた。この結果は、ミラシジウムとセルカリアの固有振動の違いによる、共鳴現象の関与が考えられる。環境保護の立場から、他の生物への影響を考慮しなければならない。

Ⅲ. 水棲病害微生物の音響水圧による選択的駆除

ヒトに対し有害な病害微生物を駆除する目的で、他の微生物も駆除しては環境破壊につながる。全ての微生物に長期的障害を与える化学物質の駆除剤に比較し、物理的な水中音響は負荷時の時に障害を生じる長所がある。

この水中音響による病害微生物駆除の対照微生物を拡大し汎用性を広げる目的と、環境保護の立場から他の生物への影響について検討を行っている。この駆除方法は水棲微生物に対する効果が高いため、河川や池および沿岸海域に生息する微生物を採集し、病害微生物駆除に有効な水中音響の影響について検証を行っている。

4. 7 炎症細胞機構分野

I. 新規G/TミスマッチDNA結合タンパク質の同定と機能解析（藤井・田中・中村）

ヒト脳由来 λ -ファージライブラリーからの発現クローニングにより、新規なG/TミスマッチDNA結合タンパク質の同定に成功し、既知転写因子ファミリーであった。DNA結合ドメインを大腸菌系で発現・精製し、G/TミスマッチDNA特異的結合を確認した。また、G/TミスマッチDNA特異的認識機構を分子レベルで明らかにするために、結晶構造解析を開始した。

（文責：藤井）

II. 細胞接着とルシゲニン依存性化学発光との関連の解析

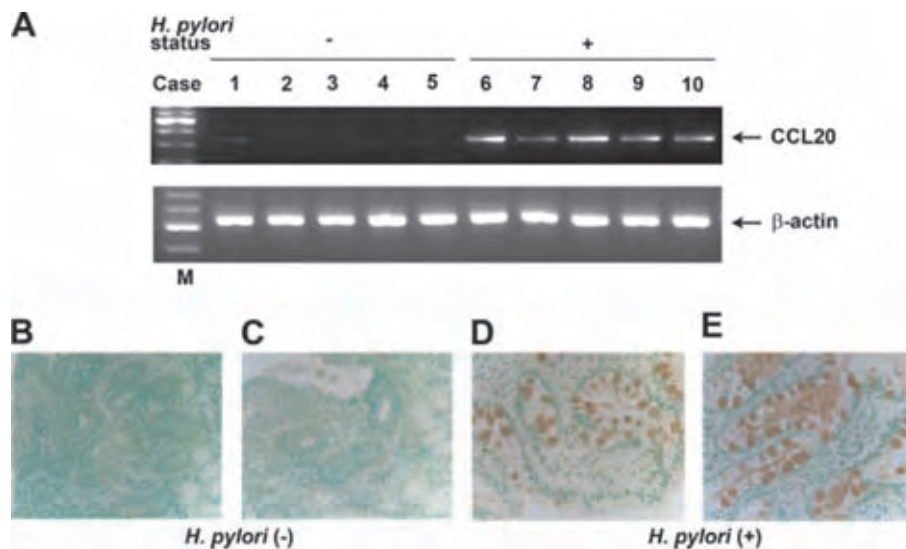
食細胞NADPHオキシダーゼが生成する活性酸素の微量検出法の開発とその機構の解析を慢性肉芽腫症患者や白血球粘着異常症の患者末梢血を使用しておこなった。

4. 8 病変発現機序分野

I. ヘリコバクター・ピロリのCCL20発現の誘発に関する研究

CCL20は未成熟の樹枝状細胞と記憶T細胞を引きつけて、炎症における粘膜表面で役割を果たす。しかしながら、ヘリコバクター・ピロリ感染において、ヒトの胃上皮細胞で、CCL20が誘発するかどうか決定されていない。本研究の目的は、*H. pylori*によって誘発されたCCL20発現の分子機構を分析することである。CCL20 mRNAの発現は、逆転写-PCRによって評価した。5つの正常胃組織標本と5つの*H. pylori*感染した胃組織標本は、CCL20のために免疫組織化学的に染色した。ルシフェラーゼ分析はCCL20遺伝子プロモーターの活性化をモニターするのに

用いられた。電気泳動では、転写制御因子をこのプロモーターに結合することを検索するのに用いた。H. pylori陽性組織の上皮細胞におけるCCL20発現は、H. pylori陰性組織より高かった。H. pyloriは、培養胃上皮細胞にCCL20発現を誘導した。H. pyloriによるCCL20プロモーターの活性化が、NF-kappaB経路で起こった。IkappaBキナーゼとNF-kappaBを誘発しているキナーゼ・ドミナントネガティブな変異体のトランスフェクションは、H. pyloriによって媒介されるCCL20の活性化を抑制した。Hsp90の抑制薬での治療は、NF-kappaBの非活性化のため、H. pyloriによって誘発されたCCL20 mRNAを抑制した。これらの結果は、H. pyloriが、CCL20遺伝子転写に至って、IkappaBキナーゼとNF-kappaBを誘発しているキナーゼを含む細胞内シグナル伝達経路でNF-kappaBを活性化して、Hsp90がH. pyloriによって誘発したCCL20発現の調節装置であることを示唆している。(文献：Tomimori K, Uema E, Teruya H, Ishikawa C, Okudaira T, Senba M, Yamamoto K, Matsuyama T, Kinjo F, Fujita J, Mori N.: Helicobacter pylori induces CCL20 expression. Infect Immun. 2007 Nov;75(11):5223-5232.)



A: RT-PCRによるCCL20の胃組織における発現 B & C: ピロリ陰性のコントロール標本
D & E: ピロリ陽性の胃組織におけるCCL20の発現 免疫染色

II. ラオスにおけるB型肝炎とC型肝炎ウイルス感染に関する研究

B型肝炎ウイルス (HBV) とC型肝炎ウイルス (HCV) 感染症の罹患率の報告が、ラオス人民共和国でなされていなかった。したがって、我々は、2003年から2005年間の13,897人の献血者を用いて、B型肝炎表面抗原 (HBs抗原) とC型肝炎ウイルス抗体 (抗HCV) の検索を行った。HBs抗原陽性の献血者の血清有病率は、8.7%で、高い感染率を認めた。男性 (9.7%) の間の有病率は、女性 (6.2%) より高かった。抗HCV陽性献血者の有病率は、1.1%であった。男性 (1.1%) と女性 (1.0%) 間の有意差はなかった。HBVとHCVの二重感染は、0.12%であった。HBVとHCV感染症は、将来肝硬変と肝細胞癌患者が多く発症することが考えられる。(文

献：Jutavijittum P, Yousukh A, Samountry B, Samountry K, Ounavong A, Thammavong T, Keokhamphue J, Toriyama K.: Seroprevalence of hepatitis B and C virus infections among Lao blood donors. Southeast Asian J Trop Med Public Health. 2007 Jul;38(4):674-679.)

4. 9 感染症予防治療分野（熱研内科）

当分野においては、呼吸器感染症とデング熱、エイズにおける起炎微生物の伝播様式を解明し、その予防戦略の構築をめざして、臨床疫学および動物実験による研究を展開している。

I. 呼吸器感染症に関する研究

当分野は、肺炎球菌は国内においても、熱帯地においても重要な呼吸器起炎微生物であることを示してきた{Yoshimine et al., 2001, Am J Trop Med Hyg, 64, 172-7}。長崎の市中病院における肺炎球菌73株を集め、その薬剤耐性と伝播様式の推測をDNA断片のパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)を用いて検討した。その結果、高頻度に薬剤耐性が見られ、それが外来患者や医療従事者と入院中患者間で伝播している可能性が示唆された{Qin et al., 2007, J Clin Microbiol, 45, 3701-6}。

インフルエンザ桿菌(Hi)に関する研究では、2000年までの13年間に分離された163株を用いて、 β ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性株(BLNAR)の動態を検討し、lowBLNARは91年から2年の間は19.5%と上昇したが、その後の2年では11.1%と減少し、一方でそれまでなかったFully BLNARが初めて6.7%検出され、国内での増加が示唆された。また、PFGEを用いた検討では、遺伝子背景の多様性が示唆された{Qin et al., 2007, Epidemiol Infect, 135, 665-8}。

インフルエンザ桿菌感染症は、中耳炎などでは難治化することもあるが、これには生体表面に接着した菌がバイオフィルムを形成することが関与していると思われる。in vitroにおけるNon-typeable Hiのバイオフィルム形成における抗生物質の影響を検討した結果、キノロン系抗生物質が濃度依存性にこれを抑制した。バイオフィルムの関与する難治性感染症の治療へ繋がる知見であると考えられる{Kaji et al., 2008, Tohoku J Exp Med, 214, 121-8}。

II. デング熱の血小板減少の機序に関する研究

デング熱の血小板減少の機序については依然不明な点が多く、研究を続けてきた{Saito et al., 2004, Clin Exp Immunol, 138, 299-303}が、これまでの成果から、Fcレセプターを介する血小板貪食などの機序が関与している可能性を試すために、重症血小板減少を来した二次デング熱感染患者において免疫グロブリンの大量投与の効果をランダム化比較試験で検討した。その結果

15例の投与群と16例の非投与群の間に血小板減少の回復に差はみられなかった。この事は、血小板減少の機序としてFcレセプターの関与の可能性が低いことを示している{Dimaano et al., 2007, Am J Trop Med Hyg, 77, 1135-8}。

Ⅲ. HIV/エイズに関する研究

当分野ではタイ国立衛生研究所との共同研究として、北タイにあるランパン病院にてHIV感染者およびその配偶者を対象にしたコホート研究を継続して運営し、この臨床疫学フィールドを基盤とした宿主遺伝子多型、分子免疫、ウイルス学分野の研究を推進している。平成19年度は、このコホート研究を基盤として、2つの宿主遺伝子多型研究が論文発表された。いずれも、HIVに感染した夫から何度も暴露されたがHIVに感染していない妻に見られる遺伝子多型の特徴を複数発見した研究で、ひとつは、*DC-SIGNR* (*DC-SIGN* related)に見られる遺伝子多型: Exon 4(rs2277998)とExon5(69-bp repeat numbers)と、もうひとつは、ケモカイン受容体遺伝子の多型: *CCR2 V64I*, *CCR5 G316A* がより多く見られることが判明したことである{Wichukchinda et al., 2007; Wichukchinda et al., 2008}。さらにウイルス学分野、特にCRF01_AEサブタイプに特異的な薬剤耐性変異に関する研究{Deforche et al., 2007}と2004年頃よりタイ国で普及したStavudine-Lamivudine-Nevirapine合剤による抗HIV治療に対する薬剤耐性変異で最も頻度の高いM184I/Vを鋭敏に検出できる廉価な検査方法を開発し発表した{Saeng-Aroon et al, 2007}。

4. 10 エイズ・感染防御分野

当分野では、ヒト免疫不全症ウイルス1型(HIV-1)の感染を制御する新規宿主細胞因子の同定を行っている。加えて、HIV-1と同じレトロウイルスに属し、遺伝子治療において遺伝子の運び屋として使われているマウス白血病ウイルスの感染機構の研究を行っている。平成19年度の研究内容は以下の通りである。

I. CXCR4の糖鎖付加はCD4非依存性HIV-1感染を抑制する

マウスレトロウイルスであるマウス白血病ウイルス(MLV)感染は、その感染受容体の糖鎖付加によって抑制されることを、我々は以前に報告した。MLVだけでなく、それ以外の多くのレトロウイルス感染が、それぞれの感染受容体の糖鎖付加によって抑制されることが報告されている。しかし、CD4依存性HIV-1は、感染受容体であるCXCR4の糖鎖付加によって抑制されない。我々は、他の多くのレトロウイルスと同じように多重膜貫通型蛋白質のみを認識するCD4非依存性HIV-1感染は、CXCR4の糖鎖付加によって抑制されるのではないかと推測した。実験

の結果、予期したように、CXCR4の糖鎖付加はCD4非依存性HIV-1感染を抑制し、CD4依存性HIV-1感染には影響しなかった。この結果は、HIV-1が、CD4非依存性からCD4依存性に進化することによってCXCR4糖鎖付加の抑制効果から逃れたことを示している(Y. Kubo et al. J.Gen.Virol. 88, 3139-3144 (2007))。

II. MLVエンベロープ蛋白質Rペプチド切断の感染における重要性

MLVエンベロープ蛋白質のC末端には、Rペプチドと呼ばれる領域が存在する。我々は以前、同種指向性MLVのRペプチドのウイルス粒子成熟過程における切断が、感染のために重要であることを報告した。Rペプチド切断部位のバリニン残基をイソロイシンに置換すると、Rペプチド切断が起こらなくなり、感染性も消失したのである。しかし、異種指向性MLVのRペプチド切断部位は、元々イソロイシンであることが報告されていた。そこで、我々は、様々な種類のMLV感染(同種指向性、異種指向性、多種指向性、両種指向性)におけるRペプチド切断の重要性を解析した。その結果、調べたすべてのMLVにおいて、Rペプチド切断を起こさないエンベロープ蛋白質変異体は、感染も起こさないことがわかった。この結果は、すべてのMLV感染が、Rペプチド切断を必要とすることを示している(Y. Kubo et al. Arch.Virol. 152, 2169-2182 (2007))。

4. 11 生物環境分野

当分野は、蚊を中心とした病害昆虫の生理、生態、防除及び分類と、昆虫媒介性疾患の疫学について、臨地研究を重視した基礎的及び応用的研究を行っている。

I. ベトナムにおけるデング熱媒介蚊の浸襲実態の精査

媒介蚊の分布域拡大に伴い地球規模で拡がりつつあるデング熱に有効な防除手段は今のところ媒介蚊対策のみであり、媒介蚊の生態学的基礎研究は必須である。ベトナムにおいて主要発生源のひとつである古タイヤの集積状態と媒介蚊の発生頻度や密度を、H18年度に引き続き全土に亘って実地に調べた。古タイヤは、ベトナム全土にわたってみられ、商業目的で国道沿いの家屋周辺に長期間保管されるケースがほとんどであった。主な発生蚊種はネッタイシマカ、ヒトスジシマカおよびネッタイエカであった。溜まっている水のpH、PO₄、COD、NO₂、NH₄を調べたところ、水質の地理的変異はみられなかった。周辺の環境情報を地理情報と共にデータベース化し、デング熱を媒介しているネッタイシマカとヒトスジシマカの精細な生態マップを完成させた。このフィールド研究により、両媒介蚊の浸淫度を規定している環境要因のう

ち、温度条件と都市化という二つの要因に対する両媒介蚊の反作用の差異が明らかになった。また中南部のニャチャンでは、条件の異なる幾つかの住居区を対象に、媒介蚊発生のキーとなる発生源や住民の生活行動生態を明らかにした。これらによりデング熱媒介蚊防除事業における重点的投資と環境調和的アプローチに新たな示唆を与えることが出来た。

II. 感染症媒介蚊の化学的防除における環境負荷を小さくするための技術開発

前年度までに、殺虫エアゾールの場合、粒子径制御が虫体への付着量および効力に影響を与えること、虫体上の粒子付着部位が効力に影響を与え、特に感受性の高い部位が存在する可能性があることを報告している。H19年度は、エアゾールを噴霧した場合の付着量と同一の原液量(約50nL)を、マイクロインジェクターを用いてチャバネゴキブリ体表面上の各部位に塗布し、ノックダウン効果(速効性)を比較した。その結果、体表面上では胸部腹面が最も感受性が高かったが、それ以外では感受性が低く、薬剤が付着しても速効性には関与しない部位が大部分を占めると考えられた。また、胸部腹面に、エアゾール噴霧における付着量と同一の原液量(約50nL)を塗布しても、速効性はエアゾール噴霧より低かった。一方、中胸気門から原液を注入した場合、胸部腹面塗布の1/10~1/20の塗布量で同等の速効性が得られた。さらに、中胸気門の一方をラッカーにて閉塞した後のエアゾール直撃試験では、閉塞しない場合と比較して速効性が大きく低下した。これらの結果から、エアゾールを噴霧した場合、主として気門から流入する薬剤が速効性に関与することが示唆出来た。

III. 感染症媒介蚊の殺虫剤抵抗性、特にピレスロイド感受性についての実状調査

殺虫剤施用による感染症媒介蚊の防除は、化学的防除の根幹を成すものであるが、それによる抵抗性の発達は否めない。特にピレスロイド系殺虫剤は、近年最も汎用されている殺虫剤であることに加え、DDT等との交叉抵抗性を示すことから、感受性の実状把握は防除戦略立案上必須である。

ベトナム全土における古タイヤに発生する蚊類の調査

デング熱媒介蚊の浸襲実態の精査に同行し、古タイヤに発生するネッタイシマカ、ヒトスジシマカ、ネッタイイエカ幼虫のピレスロイド(アレスリン)に対する感受性調査を実施した。林ら(2005)の簡易感受性調査法(終齢幼虫のノックダウンを観察)により、 KT_{50} を用いた感受性インデックスを算出することによって感受性の違いを評価した。その結果、3種の蚊幼虫のピレスロイド感受性はそれぞれ特徴的な分布を示すことが明かとなった。すなわち、ヒトスジシマカ、ネッタイイエカは大きな感受性低下を示しておらず、地域による違いも見られないのに対し、ネッタイシマカは地域による感受性差がはっきりとしており、北部に比べ南部での感受性低下が特徴的であった。これは、デング熱媒介蚊防除のための殺虫剤(主にピレスロイ

ド)散布の頻度が北部に比べ南部で高いことに起因すると思われたが、デング熱の発生しない南部の山間部においても同様な感受性低下が見られており、何らかのルートで平野部から山間部にネッタイシマカが移動してきている可能性が示唆された。

長崎市中心部の公園に発生するアカイエカ群およびヒトスジシマカ幼虫の調査

長崎市内中心部に点在する公園（約200カ所）内の雨水升等に発生するアカイエカ群、およびヒトスジシマカ幼虫の採集と、ピレスロイド（アレスリン）に対する感受性調査を、6月から9月にかけて実施した。アカイエカとチカイエカの同定は、葛西ら（2005）の方法を参考にして幼虫の全虫体を用いたPCR方によって行ったが、供試した768頭の幼虫の93.4%はアカイエカであり、チカイエカは0.9%にとどまった。試験方法は、ベトナムの調査と同法とした。その結果、アカイエカのピレスロイド感受性に大きな変化は見られなかったのに対し、ヒトスジシマカでは若干の感受性低下が見られることが明らかとなった。長崎市の記録では、ヒトスジシマカの発生する場所にピレスロイドを恒常的に散布した経歴はなく、主に有機リン剤の道路側溝への散布とテメフォホスあるいはフェンチオンによる墓地の水盤、花立ての処理、および暗渠へのDDVP処理が主な処理方法であることから、この感受性低下は、昭和30年代から有機塩素系殺虫剤の使用が禁止になる昭和46年にかけてのDDTの散布の影響ではないかと考えられた。

IV. ベトナムにおけるマラリア媒介蚊の分類、生理・生態及び遺伝

マラリアを媒介するハマダラカには形態のみでの種同定が不可能な同胞種が多く存在し分類や効果的な防除対策を難しくしている。ベトナムにおける主要マラリア媒介蚊である *An. leucosphyrus* グループについて、分子生物学、遺伝学からのアプローチを含めた精細な種の実態解明と、種間の生理・生態的属性の再吟味、及び系統進化の考察を、H18年度に引き続き実施した。今年度は、これまでの採集分とNIMPEに保管されている標本のチェックおよび分子マーカーを用いた種同定により、ベトナム各地における各種の分布状況の把握を進めた。その結果、従来の同胞種に加えて *An. takasagoensis* に酷似した新種が存在する可能性が示唆された。また、NIMPEとの間で、ベトナム産蚊相データベース（文献・標本・生物地理情報および多重検索種同定データベース）を共同で構築することとなった。

V. 日本でウエストナイル熱を媒介するイエカ類の生態学的研究

ウエストナイル熱／脳炎は、本来野生動物の病気であり、自然界では野鳥と蚊の間で感染環が維持されている。しかし、わが国では野鳥を吸血する蚊の種類相やそれらの生態がほとんどわかっていない。そこで昨年度に引き続いて今年度は以下のような研究を行った。1) イエカ2種の発消長、2) 冬期における吸血特性、3) アカイエカの休眠性、4) アカイエカとチ

カイエカの遺伝的交流である。

1) イエカ 2 種の発消生長

11月から2週間毎にドライアイスを誘引源としたCDC型吸引式トラップを1年間設置したところ、アカイエカよりチカイエカが多く採集された。休眠性のないチカイエカは、冬期に個体数が減少したものの継続的に成虫が発生した。アカイエカも2月下旬頃から活動を開始した。よって両種がウイルスの感染環を冬期も持続させる可能性が示された。シベリア東部からの渡り鳥(冬鳥)をチカイエカが吸血する恐れが考えられた。冬期は地上の水域から幼虫が採集されなかったため、チカイエカは地下水域(浄化槽)から飛来していると考えられる。

2) 冬期における吸血特性

ニワトリトラップで2月～5月に採集された蚊の個体数と気温との関係を検討した。飛来低温限界温度はアカイエカで7.5℃、チカイエカで10℃であった。また、アカイエカとチカイエカとも低温条件下でも吸血量(産卵数)は低下しなかった。よってチカイエカおよびアカイエカは一年を通して重要な媒介者となりえると思われた。

3) アカイエカの休眠性

産卵トラップから採集した卵塊から休眠誘導における光周反応の個体群内変異を調べた。その結果、短日条件下(10L14D)でも休眠を発現しない系統が発見された。また、夏期に採集した系統でも休眠に入る臨界日長は10Lと12Lの間にあると思われ、1960年代に調べられた臨界日長(12L付近)よりも明らかに短く、近年の温暖化によって臨界日長がシフトしていることが示唆された。

4) アカイエカとチカイエカの遺伝的交流

両種は姉妹種の関係にあるが自然界でどの程度の遺伝的交流があるか不明である。両種の卵を採集し、成虫まで飼育して雄交尾器を観察したところ、両種の雑種と思われるものが1系統発見された。無吸血で卵を成熟する個体の割合(autogeny率)はチカイエカで100%、アカイエカでは0%であるが、雑種と思われる系統は0～13.6%であった。しかし雑種の発生頻度は低く、野外における遺伝的交流は少ないと考えられた。

4. 12 社会環境分野

広範囲にわたる的確な知識と経験によって対処しなければならない感染症の問題は、もはや保健・医療分野だけではなく、環境や平和といった広範囲にわたる的確な知識と経験も重要となる。当分野では、熱帯地域を中心とする開発途上諸国・地域のさまざまな社会環境が、いかに保健・医療や民生福祉の問題に関わり、どのような問題を生み、あるいはどのような影響を

与えているか、について社会科学および人文科学を含む学際的接近を図る試みを実施している。

また、開発途上国を対象とした国際協力の手法が、いかに研究所全体における各分野の有機的つながりに寄与し得るかについても種々の取り組みを行っている。とりわけ情報・資料の集積や活用および、それらに対する専門的解析や対応が中心的課題である。

I. 研究活動

当分野においては、地域保健・医療領域におけるPHCや国際保健の向上に資するさまざまな研究活動が試みられてきた。具体的には以下に掲げるようなテーマのもとに、基礎研究および応用研究が開始され、現在それぞれに関する種々のケーススタディを行っている。

- 1) 熱帯における疾病の出現頻度、範囲、組み合わせなどを規定する社会的背景に関する解析研究
- 2) 熱帯地域における人間社会環境による疾病への影響及び効果的予防法の究明
- 3) 「人間の安全保障」に関する栄養、経済コスト、教育、環境の視点からの尺度、標準化
- 4) 地域医療および国際保健事業の実施面からみた感染症対策に関する研究
- 5) 日本政府ODAにおける医療サービス事業の量的、質的特徴に関する研究
- 6) 熱帯医学に関する情報集積システムの開発（地域別、疾病別、行政形態別）
- 7) 危機管理を含む熱帯地域派遣者のための医学研修プログラムの改善に関する調査・検討
- 8) 熱帯アジアにおける感染症の疫学と行政対応の比較研究（SARSおよび鳥インフルエンザを例として）
- 9) 衛星データを用いたリモートセンシング、および簡易GIS手法による環境変動と感染症との関係に関する研究

特に、リモートセンシングとGISを用いた研究では、これらの新しい技術を用いて、疫学的、人文学的調査・解析を行っている。例えば、リモートセンシングによる研究では、ベトナムにおける衛星データを用いた植生指標や温度分布などの環境指標解析による疾病対策への試みについての検討など、新しい技術の保健・医療分野への応用研究を積極的に行っている。

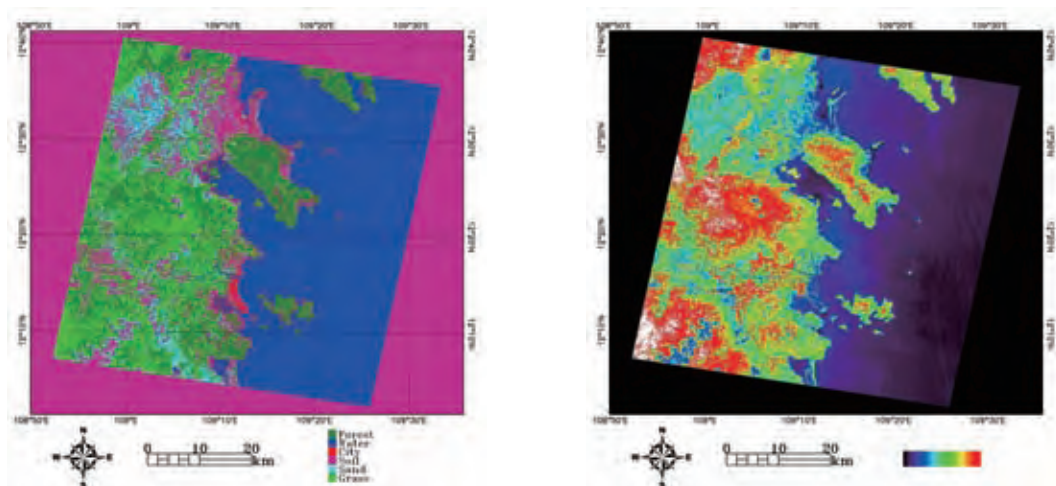
II. 共同研究

平成18年度における熱帯医学研究所共同研究事業による共同研究活動として、「リモートセンシングおよびGISを用いた社会環境要因に帰する感染症対策への適用研究」を行った。

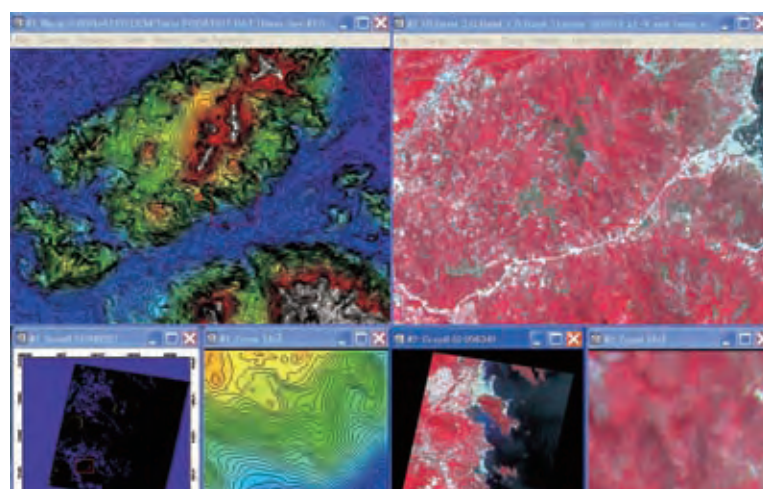
リモートセンシングに用いられる地球観測衛星データは、地上分解能が低いものから、低分解能衛星データ、中分解能衛星データ、高分解能衛星データの3つに分けられる。実際には、それぞれの特性を活かしながら、対象とするエリアの広さや解析する対象物などによって、どの地上分解能の衛星データが最も適しているかを判断しながら用いて調査・解析していくこと

になる。本研究では、低分解能衛星データとしてTerra・Aqua/MODISデータを、中分解能衛星データとしてはSPOTデータやTerra/ASTERデータを、高分解能衛星データとしてはQuickBirdやALOSデータを用いて、人間社会が環境に及ぼした度合いを示す土地被覆や植物活性度、地表面温度、地表面の水分状況を示す水分指標などについてその分布と経時変化を調査するなどし、種々の実際の環境変化解析や疫学的解析を行ったほか、これらの衛星データをGISデータとしても活用し、調査解析も行った。

また、これらと並行し、GIS手法を用いて、人口分布の動向や集落からの河川までの距離などの地理的データと、感染症の罹患分布などの疫学的データを集積し、それらを総合評価した。さらには、疾病地図作成や地域リスク要因解析も行い、地理空間データの視覚化における様々な問題やその解決方法を検討した。



ベトナム・ニャチャンにおける衛星データ解析による環境指標分布図例



衛星データからの標高データの抽出

4. 13 疾病生態分野

I. 研究活動

住血吸虫症，マラリア，シャーガス病，デング熱の免疫遺伝学的な研究を各研究グループに分かれて推進した。

- 1) 住血吸虫症研究ではミニブタを用いた放射線照射セルカリア不活化生ワクチンの系を樹立し，このワクチン効果に寄与していると考えられる抗原分子の探索に着手した。
- 2) マラリア研究では無細胞系がマラリア抗原発現に必ずしも最適ではないとの判断から大腸菌での発現に切り替えた。その結果，このプロジェクトは一時停滞している。ガーナの野口研との共同研究は一年目を終了したが，解析中である。対象地であるアスツアレ地区のマラリア発生は例年になく低く，当初予定していたような感受性群を明確に把握できているのかが最も問題となっている。この研究と並行して行った重症貧血患者における寒冷凝集反応の研究においては，貧血患者で抗赤血球抗体を介した補体活性化が高頻度に行っていることを明らかにした。今後の臨床研究としさらに発展させる予定にしている。Huy 助教が抗マラリア活性を検定する系としてヘモグロビンの代謝過程であるヘモゾインの結晶化を阻害する物質について報告した。
- 3) シャーガス病研究では，ボリビアの臨床グループ(西沢医院，日本病院外科，心臓病院，および熱帯病研究所CENETROP)との共同研究として3つの特徴的な病型の遺伝解析研究を進めているが，これらの患者の感染しているクルーストリパノソーマ原虫のDNAを患者の末梢血サンプルからPCR法により検出したが，患者の臨床型と原虫の亜系統の間に明確な関連は認めなかった(投稿準備中)。原虫の病原性を決定する因子として原虫の宿主細胞への侵入に関与する分子の遺伝的な多型性が重要であると考え，すでに接着に関与しているGP82分子をコードする遺伝子(群)に注目し，多数の分離株からPCRによりこの分子をクローニングし，DNA配列を比較検討し，この遺伝子が大きな多重遺伝子群であることを明らかにした(Songthamwat D et al)。この遺伝子は遺伝子重複により大きな構築が出来上がった後に，いくつかの突然変異が入っていたが，これらの変異と機能との関連については不明であった。
- 4) デング熱研究では，ベトナムのパスツール研究所のウイルス部門，周辺の小児病院との共同研究で健康対照群もふくめて約千名のDNAサンプルを解析し，HLA-class I のA24が増悪因子，HLA-class II のDRB1*0901が防御的であることを発見した(投稿準備中)。ゲノムワイド研究も一次スクリーニングを終了し，有意に変化のみられたSNPについて2次スクリーニングを行ない検討している。またCDNA発現アレーにより，重症化の際に特徴的に増減する遺伝子のスクリーニングを開始した。

II. 教育活動

1) 医学研究における倫理に関する国際研修コース

平山とベルゲン大学のReidar K. Lie教授との共同主催で、3日間の研修コースを開催し、熱帯医学修士課程、熱帯医学研修課程、JICA研修生のほか、全国から多数の参加者を集めた。全国共同利用の研究集会としても開催した。

2) 世界保健ニーズに応える医薬品研究開発ディプロマコース

平山がコースディレクターとして開催した5週間のコースで、今年度で第2回目となった。約30単位分の講義と実習を行った。外来講師約50名でそのうち20名は外国から招へいた。また国内講師は連携した東大薬学研究科や京大などから招へい、さらに製薬企業4社から各専門家に講義を依頼した。連携した中国、タイ、コロンビアの大学を中心に、ベトナム、ブラジルからも参加者があった。7つのモジュールについて試験を行い、合格したのち、最終的に長崎大学からディプロマを授与した。終了後、TDRの担当者や連携大学の代表者と反省会を行い、カリキュラムの一部変更を行った。次年度はタイで開催することも確認した。

III. 社会活動

- 1) 日本熱帯医学会の機関誌Tropical Medicine and Healthの編集長、事務局を運営した。投稿数の増加を期して処理能力の向上を行い、さらに編集会議で総説などの担当を決定した。
- 2) 日米医学協力プログラムの寄生虫病部会の日本側部会長として、合同会議をカリフォルニア州デービスのカリフォルニア大学で開催した。日本から30名ほどの参加者があった。
- 3) WHO/TDRの次期10年の長期計画の作成に関する関係者の諮問会議(スイス)に参加し、人材育成に関する意見発表を行った。
- 4) 平山が所長に就任した。直ちに熱研の改組および人事改革に着手した。
- 5) 3日間の医学研究における倫理に関する国際研修コースを開講し、約60名の内外の参加者を集めた。

5 附属施設

5. 1 熱帯性病原体感染動物実験施設

本施設は熱帯性病原体に関する研究に必要な動物実験および病原体の株保存などを行うことを目的として主に本所の研究者に利用されている。

「長崎大学動物実験規則」（平成19年4月1日施行）にもとづき、同年4月に各分野から提出された飼養保管施設設置承認申請に対して動物実験委員会委員3名ならびに学術国際課2名による調査が平成19年7月に各分野の実験動物管理者立会いのもとでおこなわれた。その際指摘された次の三点を改善した。①飼養室の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。②大地震等による災害時の対策マニュアルの徹底を図る。③動物逸走を想定してトラップと捕獲網を飼養室と実験室に配置する。

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律等」（平成19年6月1日施行）にもとづき、ナショナル・バイオ・リソース・プロジェクト（NBRP）業務のための安全キャビネットを12月に304号室へ搬入した。平成20年2月には基準適合が義務づけられたホルマリン燻蒸にはじまる一連の点検・基準維持を301号P3室に対しおこなった。同月、労働厚生省から4名、学内学術国際課から2名による同室の査察があり、基準を満たしていることが裏付けられた。

当施設は竣工後1階と2階は30年、3階は20年を経過するために年々営繕修理しなければならないところが各所に生じている。地下重油槽の定期点検で通気管に漏洩箇所が判明し、地中の配管を取替えたため、平成19年8月にその完了検査が消防署によっておこなわれた。2階の大型高温高圧蒸気滅菌器（第1種圧力容器）の蒸気配管の破損による蒸気漏れが11月に発生し、配管の取替工事をおこない大事に至らなかった。3階機械室の排気用電源装置が故障し、排気できなくなったため平成20年2月に取替工事を終えて事なきを得た。

毎年の定例作業として平成19年4月に動物アイソレータも含めた施設内すべてのプレフィルターならびにHEPAフィルターを交換した。

平成14年度に開始したNBRPの第Ⅰ期が昨年度に一旦終了し、本年度から第Ⅱ期目に入っている。第Ⅱ期の業務内容は前期に引き続き「病原性原虫の収集、株保存と分析、その提供」となっている。

研究活動

I. 研究内容

平成19年度（2007）施設利用の分野別研究課題

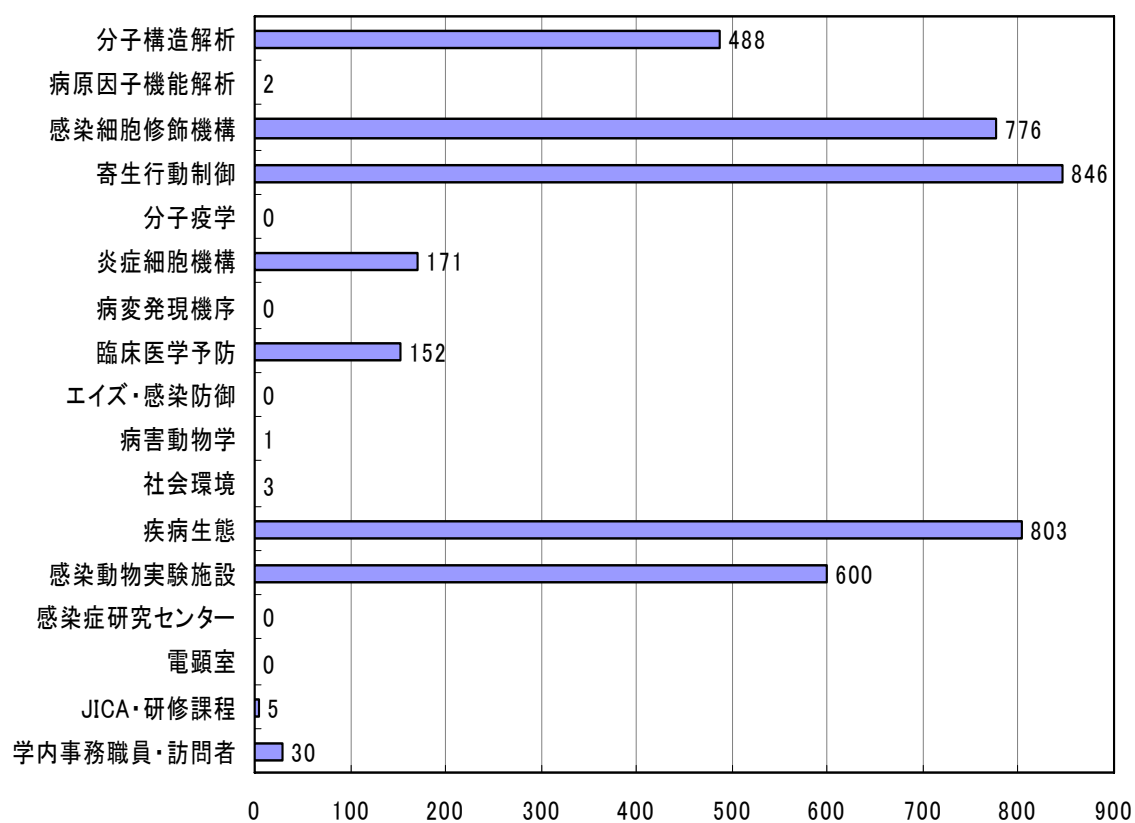
分 野 名	研 究 課 題
分子構造解析	フラビウィルスのキメラウィルスワクチン効力試験 蚊媒介性ウイルスの免疫実験
病原因子機能解析	ウサギ腸管結紮ループ法による下痢活性の測定
感染細胞修飾機構	マラリアの化学療法Ⅱ マラリア慢性感染時の免疫状態Ⅱ ネズミマラリアの定量的顕微鏡診断
寄生行動制御	糸状虫感染幼虫の血清への走化性運動発現機序 住血吸虫幼虫の遊泳侵入行動制御機序 糸状虫（ <i>Brugia pahangi</i> ）の仔虫，幼虫および親虫の凍結保存条件の検討 ネズミ糞線虫幼虫の温度感受性分子の同定
炎症細胞機構	マウスを用いた NADPH オキシターゼの解析
感染症予防治療	マウス肺炎モデルを用いた炎症終息機構の解析
疾病生態	日本住血吸虫症ワクチン開発におけるアジュバント効果の検討 ネズミマラリア原虫によって発症するマラリア重症貧血症の解析

II. 利用状況

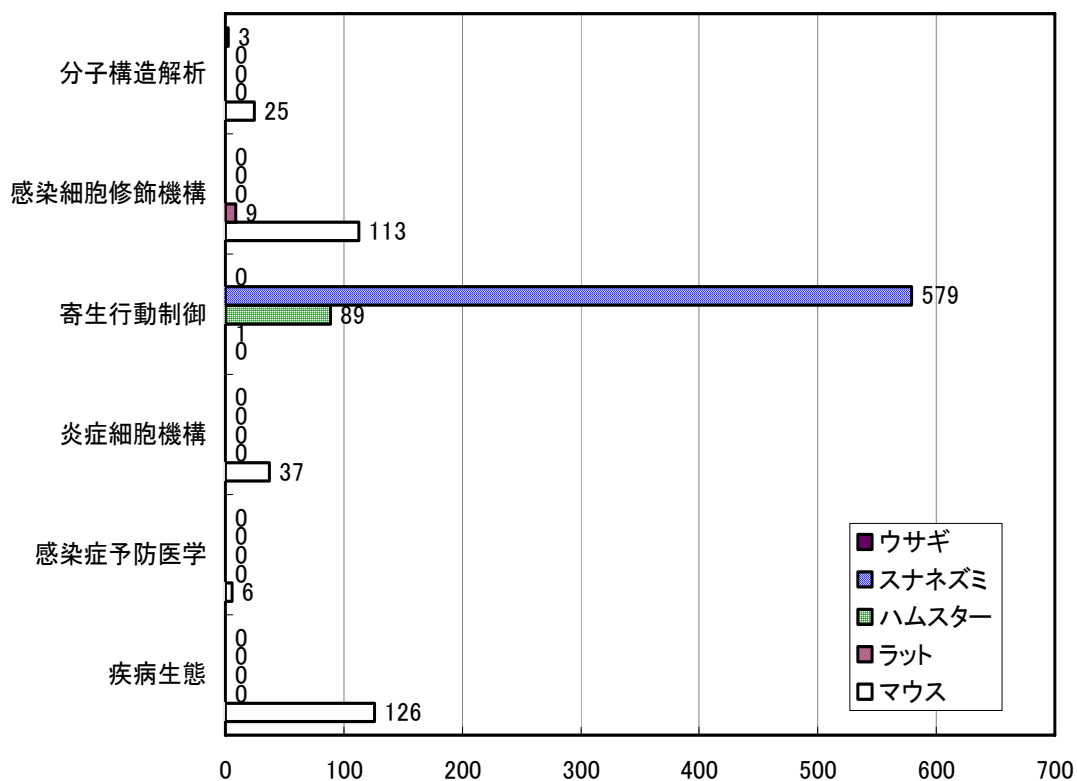
(1) 職務別利用者数（のべ数）

区 分	職 務	利用者数
研 究 者	教官・医員，研修医，技官（学内）	2,008
	大学院生，学部学生（学内）	711
	学外の研究者（学生を含む）	10
	小計	2,729
研究補助者	事務職員（学内）	8
	非常勤職員（学内）	1,129
	小計	1,137
合計		3,866
業者・訪問者		10
総計		3,876

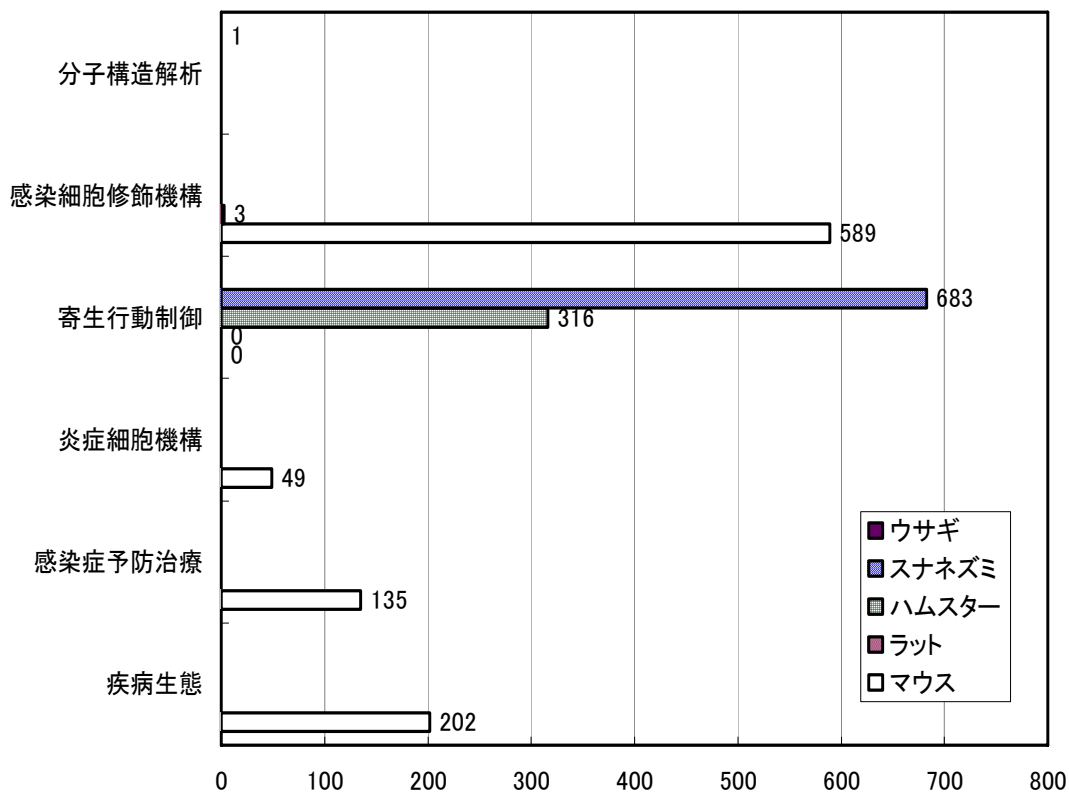
(2) 19年度分野別利用者数（のべ数）



(3) 19年度分野別1日あたりの動物種別飼養頭数



(4) 19年度分野別実験に供した動物種別頭数（実数）



5. 2 熱帯感染症研究センター

熱帯感染症研究センター（Research Center for Tropical Infectious Diseases, RECTID）は、新しい生態学的・疫学的・情報学的方法論を用いて、感染症流行の複合要因を世界的な規模で解析し、成果を途上国における熱帯感染症の流行予測や予防制圧計画に還元することを使命とし、以下の三つの任務を遂行した。

なお、センター長の門司和彦教授は9月いっぱいを持って総合地球環境学研究所に転出し、センター長は高木正洋教授が引き継いだ。

また、本センターは平成19年度末を持って廃止転換され、その機能を終了した。

I. 熱帯病に関する「博物館・資料館」としての機能

熱帯病に関する概説パネル、寄生虫、媒介昆虫、危険動物などの標本、貴重図書・映像資料を熱帯医学研究所1Fの「熱帯医学館」に展示している。収集された資料は数千点におよび、少人数に対する視聴覚コーナー、録画用スタジオ・セットも設けている。

研究所と市民の間のリエゾン窓口として、熱帯病に関する研究や学校教育、社会教育に活用される「熱帯医学ミュージアム」を目指しており、現在のプロジェクトと今後の展望を示し、感染症に対するリスクコミュニケーションや市民科学の発展にも寄与する体制を整備した。

2007年の来館者数は653名であった。医学展開催期間には2日間で100名ほどの一般市民が訪れた。また、課外授業の一環として、県立中学校2校（63名）、県立高校1校（22名）が訪れ、専門家の講義を受けた。

II. 「熱帯病情報センター」としての機能（熱帯医学情報の整理・収集、分析、発信）

熱帯医学研究所のホームページの充実、また、全国共同利用研究施設としての共同研究・研究集会を通して、国内外のネットワーク化に努めた。

III. 「研究センター」としての機能（熱帯感染症に関する総合的研究推進の核）

国内外の研究者と協力して地球規模で熱帯病の研究と対策を推進するプロジェクトを推進、サポートした。

1. ケニア拠点の活動

（別項 ー> ケニア拠点）

2. その他の海外活動

ラオス、ベトナム、インドネシア等のアジア各国を中心に、フィールド研究を展開した。

（参考文献：学会発表：14th International Symposium on Health- Related Water Microbiology；第48

回日本熱帯医学会，など)

3. 複合要因の解析方法論の開発と応用

社会疫学的方法，感染症伝播への数理モデルの応用など情報学的方法論による研究を行った。

(参考文献：原著論文：AIDS Patient Care STDS 21 (8): 593-601, 2007; International Journal of Epidemiology 36:1030-7, 2007, など)

5. 3 共同研究室

本研究所には多くの共同利用研究機器があり，その利用は所内に止まらず全国の共同研究者にも広く開放され，多彩な研究プロジェクトの推進に役立っている。共同研究室は大きく四つの部屋から成り立っている。一つは電子顕微鏡室，P3レベル室，細胞培養実験室それから分子生物実験室である。現在の主な機器・設備は透過電子顕微鏡・走査電子顕微鏡(日本電子株式会社)，超ミクロトーム(LEICA)，コンフォーカルレーザー顕微鏡(LEICA DMIREZ)，フローサイトメーター(ベクトン)，画像解析システム(浜松フォトニクス)，DNAシーケンサー(Perkin Elmer)，DNA / RNA抽出機(キアゲン)，全自動二次元蛋白分離システム(ベックマン)，二つのP3実験室である。従来よりの機器も含めて，広範囲な細胞生化学実験および組織化学実験が，多くの所内外研究者により毎日頻繁に活用されている。

I. 電子顕微鏡(走査および透過)を用いての主な共同研究

- * 新種ウイルスの細胞内解析 (C6/36 蚊のクローン細胞使用)
- * 新種ウイルスのネガティブ染色による解析
- * 新種ウイルスの感染細胞内増殖形態を解析
- * チクングニアウイルス感染細胞内増殖形態の解析
- * ウエストナイルウイルスの精製状態の検証，ネガティブ染色にて
- * JEVのpH変化に伴うスパイク蛋白の形態変化とウイルス抗体蛋白の結合をネガティブ染色で解析
- * 連鎖球菌の濾液による緑膿菌阻害の解析
- * ベーターノダウイルスの遺伝子操作によるコア欠落の微細構造観察をネガティブ染色で
- * 活性化好虫球の付着底面の形態解析を走査および透過電顕を用いて

II. 電子顕微鏡室での研究

ウイルス粒子，細菌の構造および分離した蛋白質や低分子酵素などの形態や微細構造を研究

することは重要であるが、この目的を進めるには非常に高い解像力が必要であり、この目的に応用されている方法がネガティブ染色法と、電子顕微鏡観察である。ところが、この染色法に使用される酢酸ウラニル（国際規制物資・劣化ウラン）が、昨今の情勢によりIAEA（国際原子力機関）の敢行したBSS（国際基本安全基準）により、輸入および販売が急停止した。この為に酢酸ウランの保有が無い研究施設では、早急の代替え方法を取得する必要がある。

元来、このネガティブ染色法は、フェリチンの構造研究をしていたFarrant(1954)により始めて報告された。ついでHall(1959)が燐タングステン酸水溶液によりウイルス粒子のネガティブ染色像（コントラスト逆転像）を発表した。その後、より高い倍率と分解能での高性能電子顕微鏡を用いて観察できる酢酸ウラニル水溶液を用いたネガティブ染色法が開発された。この酢酸ウラニルは電子顕微鏡用超薄切片の染色においても重要な染色剤であった。

このような情勢に伴い医学生物学電子顕微鏡技術学会では、いち早く「酢酸ウラニル代替え染色法の開発」のプロジェクトを立ち上げた。我が電顕室では、当初からウイルスの微細構造解析に特別に電子顕微鏡観察用として、精製濃縮したウイルス試料液作製とネガティブ染色法による観察を行っているため、いち早く、このプロジェクトに参加し(17年度は細菌における開発を行った)、ワークショップと論文により研究成果を発表した。この開発したネガティブ染色法は、ウイルスにおいて小型、中型、大型と大きさに適応するよう、燐タングステン酸やモリブデン酸アンモニウム・六水和物に水酸化カリウムを添加調整した染色液である。これらの新開発により中型および大型ウイルスにおいては、従来より良好な電子顕微鏡像観察ができるようになった。小型ウイルスは現在タングステン酸アンモニウムを用いての開発が進行中である。

6 特別事業費による事業

6. 1 熱帯医学研修課程

I. はじめに

平成19年度(第30回)熱帯医学研修課程は、平成19年6月1日から8月31日まで3ヶ月間にわたり、定員15名で実施された。

熱帯医学研修課程運営委員を学外の専門家12名、所外(学内)委員2名、所内委員12名に委属した。運営委員会は、研修課程修了時の平成19年8月30日に本研究所において行われ、学外運営委員の出席は5名であった。

研修生による評価および運営委員会での討議事項を踏まえ、本年度熱帯医学研修課程実施状況について報告する。

II. 応募状況・選考方法

1) 今年度応募状況および選考方法

本年度は定員15名に対し26名の応募があり、政府組織からの応募を除く一般応募のみの倍率は1.78倍であった。但し最終的な合格者には2名の補欠合格者を含んでいる。受講者の内訳は医師5名、看護師6名、薬剤師3名、臨床検査技師1名、男女比は8:7であった。

選考は、各教務委員が応募者に対して順位をつけた後全教務委員の結果を照合し、順位の低い者からはずすという昨年度と同様の方法をとった。尚、順位付けに対する特別な基準は設けず、各教務委員の判断によるものとした。

2) 今後の選考方法について

選考に公平性・透明性を持たせ、多様な人材を確保するために「応募者で不適と判断される者を選出し、残った者の中で抽選」という方法が運営委員会で提案された。但し複数回応募している者については別途考慮の余地を与えるべきという意見で一致している。

III. カリキュラム

1) 本年度カリキュラムについて

基本的に昨年度のカリキュラムを踏襲した。すなわち分野横断的な学習をしやすくし、熱帯医学分野と公衆衛生分野を織り交ぜながら配置した。以下は本年度意識的に変更した点である。

- ・各コースの特色を明確にするため、MTMと合同講義はGeographical Medicineのみとし、Clinical Case Discussionへ積極的に参加を促すことはしなかった。

- ・昨年度改善要望として出された講義については可能な限り対応した。

2) 次年度カリキュラムについて

研究所という特性上やはり熱帯医学分野の講義が多数を占めることが運営委員会で指摘された。近年の受講者でも、より国際保健分野・公衆衛生分野に対する要望が増えており、ニーズに即した研修を提供する必要があることが話し合われた。今後、公衆衛生学的内容の講義をより多く取り入れるよう検討する。

IV. 試験

1) 今年度の報告

第28回より、3ヶ月の総復習を目的とした試験を導入している。本年度は選択問題を50題出題し、平均点は74点であった。昨年度の反省より、各分野から提供されるシラバスに基づいたminimum essentialな内容を出題することを徹底した。試験内容に対する研修生の反応も概ね良好であった。

2) 試験の位置づけ

本研修課程修了生へのキャリアパスを考慮しdiplomaを授与しているが、試験に合格することが前提となる。しかし一方、試験を重要視することで本来のコースの目的が損なわれることも懸念されている。本課程における試験の位置づけについて討議が必要である。

V. 研修生による評価

研修生には各講義に対する評価表を毎日提出してもらい、総合アンケートおよびディスカッションを8月最終週に行った。以下にその概要を示す。

良い評価が得られた点

- ・日本各地の熱帯医学のエキスパートから直接学べる
- ・研修生が多職種であった
- ・学習環境、事務、コーディネーターなどのバックアップ体制

改善が求められた点

- ・一部に極端に専門的すぎる内容の講義、準備が不十分な実習
- ・一部に講義内容の重複
- ・Interactiveな講義を増やす
- ・国際健康危機管理の講義導入、国際倫理3日間のコースへの参加
- ・公衆衛生学的内容の講義を増やす

VI. その他、次年度以降の検討課題

1) 本研修課程の認知度を高める工夫

本年度応募者の多くは知人からの紹介によるものが多く、ポスターやホームページをきっかけに応募した者はほとんどいなかった。このように本課程の社会的認知度はまだ低く、今後さらに多くの応募者を募るための工夫が必要である。例えば JICA と連携し Partner で応募情報を流すことなどが提案された。また地域における熱研の重要性を高めることも有用であり、例えば国立科学博物館でのエキシビションを県内で利用するといった活動も提案された。

2) ホームページの充実

前項と関連し、ホームページ内容をより具体的にすることがある。すなわち、研修生の感想を加えたり写真を加えたりすることで、コースの内容がより読者に想像しやすくする工夫が必要である。

3) シラバスの充実

シラバスの改訂は、当研究所が規定する Minimum essential を明確にしコースの方向性を示すため、また学習の指針として有効利用するため、昨年度の大きな改善点として挙げられた。今年度は所外講師からも各 1 ページずつ依頼し、また学習疾病一覧などを作成して改善を試みた。本年度研修生からは「講義前の予備知識を得るのに有効であった」「試験勉強の指針にした」といった良好な感想が得られた。しかし今後もさらなる改善が必要である。

VII. 本年度実施状況のまとめ

平成17年度に大幅に改訂されたシステム、すなわちカリキュラム構成・コーディネーター設置・試験などについては本年度も高い評価が得られ、本課程のスムーズな遂行に定着したものと思われる。また研修生から出された改善要望についても概ね即対応可能なものであり、来年度に反映可能であると考えられる。

今後、本課程をより系統だった内容にすべく、多方面からのアプローチが必要である。

(文責 齊藤麻理子)

6. 2 ケニアプロジェクト拠点

長崎大学ケニアプロジェクト拠点は、平成17年度(2005)からスタートした文部科学省特別教育研究経費による「連携融合事業：新興・再興感染症研究ネットワークの構築」を起爆剤として、ケニアに設置された海外研究教育活動拠点である。

「連携融合事業」では、

1. 新興・再興感染症および熱帯病の研究高度化を目的に、

2. 熱帯地に研究教育拠点を構築し、
3. 現地研究者と共同で、
4. 長期・継続的かつ広範囲の調査研究、
5. 若手研究者の現地教育を実施する。
6. JICAとの連携により、開発援助の側面からも成果を現地住民へ還元する。

連携融合事業3年目にあたる平成19年度は、西ケニアにおける人口静態動態サーベイランス（DSS: Demographic Surveillance System）地区の構築、熱帯病媒介蚊の生態学的観察システムの構築、ナイロビにおける病原体の本格的な研究室内実験施設の構築が一段落し、研究活動が開始された年である。

平成19年度に行われた活動は次の通り。

I. 疫学的、公衆衛生学的調査研究

DSS（Demographic Surveillance System：人口静態動態調査システム）を稼働させるため、

- 1) システム開発の続行
- 2) データベースの管理
- 3) ネットワークの管理
- 4) 作業管理システムの運用

を行う一方、

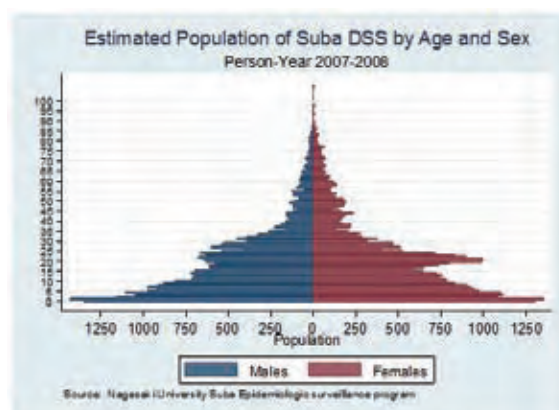
西ケニア、ニャンザ州、スバ地区における調査研究として、

- 1) GPSを利用した家屋登録
- 2) 調査地域における調査員の募集・採用・教育
- 3) 調査地域におけるベースライン調査の開始
- 4) 調査地域における追跡調査の開始

を継続、さらに、

- 5) Verbal Autopsyのための調査・情報収集開始
- 6) 蚊帳普及率と5歳未満死亡率の関係と蚊帳の利用に関する実態把握の解析

を行った。



Ⅱ. マラリア媒介蚊の生態学的生物学的研究

マラリア媒介蚊モニタリングシステムの充実を行った結果、

- 1) 湖の水位低下による繁殖地の増加
- 2) ホテイアオイによる媒介蚊の増加

が明らかになった。

(参考文献：Malaria Journal 2008, 7:119)

一方、

- 3) 媒介蚊の捕食者としてのクモおよびハエの生態を詳細に観察した。

(参考文献：Malaria Journal 2007, 6:104)



また、

- 4) 殺虫剤としてのバチルス菌の成虫、卵、蛹に対する効果を検討した。
- 5) 蚊帳の普及と使用状況を調査し、漁網として誤使用されていることを明らかにした。

(参考文献：Malaria Journal 2008, 7:165)



3. 細菌性下痢症の研究

実験室整備と稼働のため、

- 1) 機器の充実
 - 2) 自家発電装置の設置と調整
 - 3) P3ラボシステム（バイオセーフティ）のワークショップの開催
- を行った。

研究活動として、

- 1) DSS調査地域（サウスニャンザ州，スバ県）で発生したコレラアウトブレイクに対し、

ケニア保健省の要請に基づいて、入院患者25名の下痢患者便検体から14株の血清型稲葉，01コレラ菌を分離した。分離したコレラ菌の詳細な性状検査については後日報告する。



6. 3 ベトナムプロジェクト拠点

3年度目になる本年度はさらなる拠点整備，研究活動の充実，および若手研究者育成のためのシステムの充実を目標に活動を行った。07年6月には大阪大学微生物学研究所タイ拠点関係者6人が長崎ベトナム拠点を訪問した。本拠点の運営状況，研究活動状況，将来方向性，問題点などを説明し意見交換した。同8月には武部勤衆議院議員を団長とする使節団9人がODA実施状況把握のためにNIHEを来訪した。長崎大学プロジェクトの概要を説明した。08年2月には吉倉廣団長率いる訪問団7人（含む国際医療センター職員）がNIHEを訪問し，その際本プロジェクト活動に関して意見交換を行った。08年3月は坂場在越大使がNIHEを訪問し本プロジェクト活動の説明を行った。同3月には岩瀬文部科学統括官を団長とする訪問団（5人）があり，本プロジェクトの視察他を行った。同3月には金沢大学医学部学生2人に対してプロジェクト活動を講義した。

研究活動

I. 動物由来新興・再興感染症研究班

ベトナム北部の家禽において平成19年度中にH5N1抗体陽性例が複数の地点で発生している事を確認した。一方，野鳥において多くは陰性であった。ハンタウイルスと狂犬病ウイルスについては野外流行株のウイルス遺伝子の分子疫学解析が完了した。ヘルペスBウイルスについてはベトナムで捕獲され飼育されているサルの抗体調査の結果は陰性であり，現在野生サルの調査準備中である。ニパウイルスについてはコウモリ調査一次調査が完了し，特定の種のコウモリにおいて60%の抗体陽性を示した。コウモリ調査ではさらにSARSウイルスに対する抗体陽性検体も多くみつき，今後新興感染症発生のリスク評価を実施する。

II. 昆虫媒介性感染症研究班

古タイヤを対象としたデング熱媒介蚊浸襲現況の予備調査を雨季と乾季に全国規模で実施した。南北軸におけるAe. AegyptiとAe. Albopictusの浸襲割合の差異が明らかとなった。ニャチャンでの定点発生源調査で発生量を左右するkey containerが明らかとなった。殺虫剤抵抗性実態調査は南部の山岳地帯，メコンデルタ地帯で実施した。平成20年度実施予定のメトフルトリン樹脂製剤導入を柱とした南部でのコミュニケーションレベルトライアルの実施計画を作成した。ろ紙サンプルからガメサイトの検出技術が確立された。マラリア原虫特異抗体価とデング熱抗体陽性者との相関を調べた。マラリア感染者の免疫動態が複合感染に与える影響を解析中である。自己抗体価との相関についても解析している。An. Drug groupの分子生物学的同定を始める準備が整った。18年度捕集蚊からのアルボウイルス分離作業を終了し，20年度の蚊採集計画を立案，決定した。19年度のサンプルからのウイルス分離が進行中である。

III. 経口感染症研究班

ハイフォン小児病院での1年間におよぶ検体の収集と臨床データのクリーニングを行った。ロタウイルスが下痢症入院患者の半数を占めている事，また少なくとも過去数年間にわたりベトナムで見られなかったG3ロタウイルス株がクロナルに増加し検出株の90%を占めているという疫学的特徴を明らかにした。細菌性病原体では病原性大腸菌が約10%を占めている事が判明した。また技術的理由により遅れのあったカンホア総合病院からの検体収集とロタウイルスのスクリーニングを稼働させた。

IV. ヒト-ヒト感染症研究班

小児感染症も対する疾病行動調査，小児重症呼吸器感染症と同居人の喫煙，小児重症下痢症と家畜，デング熱と蚊帳使用に関する4つの論文のデータ解析がほぼ終了し，論文作成が進行中である。また衛星情報を取り込み地理情報システムのアップグレードを行った。カンホア県総合病院小児科病棟においてこれまで700症例を超える小児重症呼吸器感染症症例から詳細かつ正確な臨床情報および鼻咽頭ぬぐい液検体が採取，保存されさらにそれらの情報が対象住民の基礎情報へリンクされた。新たに12種類のウイルス性呼吸器感染症病原体の迅速道程が可能な検査法が完成し，計18種類の呼吸器感染症病原体の一括同定が可能な検査系が完成した。この検査系を用いた病原体診断が開始した。さらにコミュニティーレベルの献上小児の鼻咽頭における細菌性呼吸器病原体の常在定着パターンを定量的に調査するサーベイランス計画書が保健省によって承認され平成19年1月から実施予定である。バースコホートの準備として妊産婦と出生時データベースを作成し，母体血および臍帯血200検体の採取を開始した。

6. 4 フィジープロジェクト拠点

大洋州予防接種事業強化プロジェクト(J-PIPS)は、大洋州の13カ国を対象としたJICAの広域技術協力プロジェクトであり、平成17年3月に5ヵ年の予定で始まった。長崎大学は技術協力契約を受託し、熱帯医学研究所病原体解析部門の森田公一教授を業務主任者として、専門家4名がフィジー国スバ市にあるフィジー拠点に赴任し活動している。

本プロジェクトの主たる目的は、ポリオ、麻疹、B型肝炎、インフルエンザ桿菌等ワクチンで予防可能な疾病を対象とした予防接種の強化(政策、疫学、モニタリングシステム、検査システム等の強化)、および、ワクチンのロジスティックス、コールドチェーン機材維持管理、EPI関連廃棄物処理に関する地域内研修システムの構築および対象各国における人材の能力向上である。人材育成に関しては、各国の予防接種事業指導者を対象とした「地域研修」をスバ市において、および各国の末端レベルの医療従事者等を対象とした「国別研修」(技術補完研修)をそれぞれの国において毎年実施している。

第四年次にあたる平成19年度の主な活動は以下の通りである。

I. 地域研修拠点の整備（フィジー医薬品供給センター（FPS））

平成19年4月から延べ6名の専門家をフィジー国のFPSへ派遣し、太平洋諸島地域の研修拠点となるフィジー保健省のプロジェクトカウンターパートに対して、各専門分野における技術移転を実施した。

本年度は、プロジェクト活動をより効率的かつ効果的に行うため、フィジーを拠点としたプロジェクト実施体制の整備、およびフィジーにおける研修機能の向上のための活動を実施した。

II. 各国の予防接種事業の支援にかかるドナー間調整

本プロジェクトはPIPS（Pacific Immunization Programme Strengthening）と称する地域の共同戦略のもと、JICAのみならずWHO、UNICEF、AusAID(オーストラリア)、NZAID(ニュージーランド)や大洋州機構（SPC）、米国CDCなどの国際機関や各国の援助機関と共同でプロジェクトを遂行してゆくことを1つの特徴としている。それぞれの援助に重複がなく、また、適切な組み合わせによる相乗的な効果が上がるよう、本年度も定期（毎月）および不定期にこれらの関係機関と連絡協議会を共催し、各種調整を行った。

III. 2007年度PIPS年次会議の共催

平成19年5月7日～11日にフィジー国ナンディにおいて、WHO、UNICEF、SPCなどの国際機関やAusAID、NZAIDとの共催により、大洋州諸国のEPI担当者を招き、第三回PIPSワークショップ

プ（PIPS年次会議）を開催した。PIPS会議では、大洋州地域のEPIの現況、課題、戦略等につき関係者全員の理解を深めると共に、J-PIPSプロジェクトの効果的アプローチ、ならびにプロジェクトの実施計画、支援内容、およびモニタリング等につき関係者間で協議を行った。

IV. 第三回地域研修

平成19年11月19日～23日にWHO、UNICEFなどの国際機関と協力し、フィジー保健省との共催により第三回地域研修を開催した。研修には16カ国から46名の研修生が参加した。

地域研修は必要知識を新たにするための講義形式の研修に加えて、モニタリング活動、安全注射やコールドチェーン整備計画、コールドチェーン機材の日常保守管理・修理等にかかる実技講習も内容に含んでいる。

V. 国別研修の支援

ニウエ、バヌアツ、ミクロネシア、サモア、パラオ、マーシャル、およびフィジーに専門家を派遣し、予防接種疫学、予防接種対象疾患、新ワクチンの接種スケジュールならびに温度管理、ワクチンロジスティクス、さらにコールドチェーン維持管理等の各分野における講義、および技術指導を行った。

ミクロネシアおよびパラオの国別研修に際しては、両国が最近小児の定期予防接種に導入したPCV（肺炎球菌蛋白結合多糖体7価ワクチン）、PEDIARIX（5種混合ワクチン）の接種スケジュール、効能、接種方法等につき講義を行った。

ニウエの国別研修に際しては、疫学専門家が、同国の麻疹、百日咳、新生児破傷風等のEPI対象疾患の発生状況、モニタリングシステム、B型肝炎抗原(HBsAg)陽性率等につき現状調査、および関係者協議を行った。

VI. 各国における調査と個別指導の実施

サモア、バヌアツ、ソロモンを訪問し、各国の保健省の予防接種担当官と共に保健医療施設における予防接種活動、ワクチン管理、アウトリーチ活動、廃棄物処理等にかかる実態調査を実施した。調査を通じて改善が必要な分野を把握し、今後の活動内容の策定、およびプロジェクト成果のモニタリングに反映させた。

また、ミクロネシア、バヌアツ、サモア、パラオのコールドチェーン整備状況を調査し、整備状況リストを更新した。

コールドチェーン維持管理専門家をミクロネシア、バヌアツおよびサモアへ派遣し、コールドチェーンの日常維持管理にかかる看護師向け指導、および修理技術者に対して本格修理技術に関する個別指導を行った。

また、ミクロネシアで予防接種により生じた使用済み注射器、および針の安全廃棄を含む医療廃棄物の廃棄状況にかかる現地調査を実施した。

トンガにも医療廃棄物専門家を派遣し、現地調査に加えてWHOが推奨し日本の支援団体が供与した新型焼却炉の使用状況を調査した。

VII. ワクチン廃棄率の調査の実施及び廃棄率を軽減するための支援

ワクチンロジスティックス専門家がプロジェクトのカウンターパートと共に、大洋州諸島地域内で初めて、フィジーの主要地域を対象に「ワクチン廃棄率」に関する本格的な調査を実施した。

調査の実施を通じて、ワクチンの数量記録にかかる記録方式・フォームが各施設で標準化されておらず、記入者各人により解釈が異なること、ワクチンの入荷数量、出荷数量、廃棄数、在庫等の出入記録、計算がきちんと行われていないこと等の課題が散見された。また、多くの施設において、程度の差こそあれ、ワクチンの在庫切れ、期限切れが発生しており、上記課題はOpportunistic Immunization（積極的な予防接種活動の拡大）を阻害する要因であるとして、関係者に対して改善に向けた取り組みを提言した。

全ての地域がワクチン廃棄率を定期的にかつ正確に報告することができるよう、ワクチンの在庫管理簿（ワクチンの廃棄率の算出が可能）を作成・印刷し、フィジーをはじめとしたプロジェクト対象国に配布した。

7 文部科学省科学研究費補助金等による研究

7. 1 文部科学省科学研究費補助金（平成19年度）

研究種目	職名・研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
特定領域研究	教 授・平 山 壽 哉	7,700	—	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現機序	19～20年度
基盤研究(A) 海 外	教 授・有 吉 紅 也	11,700	3,510	北タイにおける HIV 伝播とエイズ病態に関する宿主遺伝子多型研究	18～20年度
基盤研究(A) 海 外	教 授・高 木 正 洋	13,500	4,050	ベトナムにおけるデング熱媒介蚊の総合防除戦略構築	19～21年度
基盤研究(A) 一 般	教 授・平 山 壽 哉	18,600	5,580	ヘリコバクター・ピロリの VacA 毒素の毒性発現と CagA の相互作用解析	19～21年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・平 山 壽 哉	6,400	1,920	フィリピン及びタイにおけるヘリコバクター・ピロリの病原因子の多型比較調査	18～19年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・森 田 公 一	4,200	1,260	デング出血熱重症化に関与するウイルス遺伝子多型性の研究	18～20年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・青 木 克 己	5,000	1,500	非中間宿主貝のミラシジウム誘引力を利用した新しい住血吸虫制御戦術、図貝の研究	19～21年度
基盤研究(B) 海 外	講 師・上 村 春 樹	6,000	1,800	マラリア原虫の薬剤耐性：検出、同定と遺伝子解析、地域性と時間変化、拡散の予測へ	19～21年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・一 瀬 休 生	5,200	1,560	熱帯地における下痢原因菌の病因論とその疫学的研究	19～22年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・門 司 和 彦	2,600	780	エイズ遺児のケアに関するソーシャルネットワークと公的セクターの役割に関する研究	17～20年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・金 子 修	4,200	1,260	感染赤血球表面に発現する新規マラリア原虫分子のマラリア重症化への関与	17～19年度
基盤研究(C) 一 般	講 師・和 田 昭 裕	1,700	510	コレラ毒素Bサブユニット結合蛋白質の精製および同定	18～19年度
基盤研究(C) 一 般	准教授・栗 林 太	1,900	570	ナンセンス変異により発生する中途ストップコドンの除去機構の解明と応用	19～20年度
基盤研究(C) 一 般	教 授・金 子 修	1,500	450	マラリア原虫リガンドの細胞内輸送機構の分子基盤	19～20年度
若 手 研 究 (スタートアップ)	准教授・西 浦 博	1,350	—	個人の行動及び個人保護具による新興感染症予防に関する理論疫学的研究	18～19年度
萌 芽 研 究	教 授・青 木 克 己	1,500	—	レーザー細胞破壊技術を用いた寄生蠕虫感染型幼虫の特殊細胞・器官の機能と役割の検証	18～19年度

研究種目	職名・研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
萌 芽 研 究	教 授・森 田 公 一	1,300	—	アジアで流行している未知の蚊媒介性脳炎ウイルスの網羅的解析	18～19年度
萌 芽 研 究	准教授・本 田 純 久	1,400	—	スマトラ沖地震津波被災地域における心的外傷後ストレス障害のマルチレベル分析	18～19年度
萌 芽 研 究	教 授・門 司 和 彦	2,800	—	森林開発と人口増加・移動がもたらす感染症リスクの質的・量的評価	19～20年度
合 計	19 件	98,550	24,750		

7. 2 厚生労働科学研究費補助金(平成19年度)

研究事業名	職名・研究者名	研 究 課 題 名	研究経費 (千円)	区 分
社会保障国際協力 推進	教 授・平 山 謙 二	寄生虫疾患の病態解明及びその予防・治療をめざした研究	15,827	主任研究者
新興・再興感染症	教 授・森 田 公 一	ウエストナイルウイルス侵入に備えての診断, 予防対策への基盤的研究	10,000	分担研究者
新興・再興感染症	教 授・平 山 謙 二	動物由来感染症のコントロール法の確立に関する研究	4,500	分担研究者
エイズ対策	教 授・有 吉 紅 也	HIV 感染とエイズ発症の阻止および治療に関わる基礎研究	8,500	分担研究者
政策創薬総合	教 授・有 吉 紅 也	新型チップ等を用いた第 22 染色体新規 SNPs 多型の網羅的解析による HIV 感染防御ワクチン及び抗 HIV 治療薬の効果判定改善と新しい免疫治療法の開発	2,500	分担研究者
がん臨床	准教授・本 田 純 久	難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	500	分担研究者
合 計	6 件		41,827	

7. 3 受託研究費等（平成19年度）

7. 3. 1 受託研究費

委 託 者	職名・氏名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造研究 推進事業	教 授・森 田 公 一	糖鎖機能によるデングウイルス感染防御	2,300	690	
文 部 科 学 省 ナショナルバイ オリオソース プロジェクト	教 授・平 山 謙 二	病原微生物遺伝資源の収集, 保存, 提供体制の構築(病原性原虫の収 集・株保存と分析・その提供)	6,200	—	
文 部 科 学 省 科学技術振興 調 整 費	教 授・森 田 公 一	BSL-4 施設を必要とする新興感 染症対策	3,000	900	
国 立 国 際 医療センター 国 際 医 療 協 力 委 託 費	教 授・門 司 和 彦	ラオスのモデル地区における学校 保健プロスペクティブ研究の実施, その成果に基づく包括的保健 パッケージの作成	2,500	—	
国 立 国 際 医療センター 国 際 医 療 協 力 委 託 費	教 授・有 吉 紅 也	タイの HIV・HBV 重複感染者に 対する対策	1,000	—	
独立行政法人科学技術振興機構 地域イノベーション創出総合 支援事業(シニア発掘試験)	講 師・和 田 昭 裕	ガングリオシドをツールとした病 原細菌の病原毒性の診断	1,523	457	
アサヒビール 株 式 会 社	教 授・平 山 壽 哉	ピロリ菌毒素の性状解析に関する 研究	770	230	
興 和 創 薬 株 式 会 社	助 教・久 保 嘉 直	NIK-333 のヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染に及ぼす影響	770	230	
合 計	8 件		18,063	2,507	

7. 3. 2 受託事業費

委 託 者	職名・氏名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
独立行政法人 日本学術振興会 拠点大学交流事業	所 長・平 山 謙 二	熱帯医学 熱帯性感染症の新興・ 再興の要因とそれに基づく防除対 策	25,432	—	
日本学術振興会 アジア・アフリ カ学術基盤形成 事業	教 授・嶋 田 雅 暁	アフリカにおける「顧みられない 病気」の学術的研究	5,500	—	
日本学術振興会 二国間交流事業	教 授・金 子 修	マラリア原虫感染症の重症化にお けるダフィー抗原の役割	2,500	—	
独立行政法人 国際協力機構	所 長・平 山 謙 二	平成 18 年度集団研修「熱帯医学 研究Ⅱ」	21,696	—	
合 計	4 件		55,128	—	

7. 3. 3 研究拠点形成補助金

補助金名	職名・氏名	拠点のプログラム名	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
21 世紀 C O E	教 授・青 木 克 己	熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点	195, 000	19, 500	15～19年度

7. 3. 4 民間等の共同研究

民間等機関名	職名・氏名	研 究 題 目	民 間 等 (千円)	大 学 (千円)	備 考
住 友 化 学 株 式 会 社	教 授・高 木 正 洋	熱帯病媒介昆虫の防除に関する共同研究	2, 000	0	

8 海外活動

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	有 吉 紅 也	会議出席・情報交換・打合せ・視察	ベ ト ナ ム	H19. 4. 11 ～ H19. 4. 14	新興・再興感染症研究拠点形成プログラム
教 授	平 山 謙 二	ディプロマコースの研究打ち合わせ	中 国	H19. 4. 22 ～ H19. 4. 24	国立大学法人長崎大学六大学ディプロマコース運営金
教 授	一 瀬 休 生	新興・再興感染症に関する調査, 研究及びラボ調整のため	ケ ニ ア	H19. 4. 25 ～ H19. 5. 25	大学運営経費
教 授	嶋 田 雅 暁	WHO本部における統合ベクトル管理に関する会議出席のため	ス イ ス	H19. 4. 29 ～ H19. 5. 5	大学運営経費
プロジェクト研究員	二 見 恭 子	新興・再興感染症研究に関する研究・調査, 研究打合せ	ケ ニ ア イ ギ リ ス スコットランド	H19. 4. 15 ～ H19. 10. 20	運営費交付金
教 授	森 田 公 一	会議出席・サンプル検査	フ ィ ジ ー	H19. 5. 5 ～ H19. 5. 13	大洋州予防接種事業強化プロジェクト
講 師	川 田 均	ベトナムのイエカおよびシマカの採集と殺虫剤感受性調査	ベ ト ナ ム	H19. 5. 13 ～ H19. 5. 23	科学研究費補助金
教 授	高 木 正 洋	ベトナムのイエカおよびシマカの採集と殺虫剤感受性調査	ベ ト ナ ム	H19. 5. 15 ～ H19. 5. 24	科学研究費補助金
教 授	森 田 公 一	会議出席・情報交換・打合せ・視察	ベ ト ナ ム	H19. 5. 16 ～ H19. 5. 19	新興・再興感染症研究拠点形成プログラム
助 教	井 上 真 吾	学会参加, 研究打ち合わせ	フィリピン	H19. 5. 17 ～ H19. 5. 20	科学研究費補助金
教 授	平 山 謙 二	ディプロマコース研究打ち合わせ	マレーシア	H19. 5. 18 ～ H19. 5. 21	国立大学法人長崎大学六大学ディプロマコース運営金
准教授	森 本 浩之輔	ATS学会出席のため	ア メ リ カ	H19. 5. 19 ～ H19. 5. 24	大学運営経費
教 授	平 山 壽 哉	カナダ：コンベンションセンターにて米国微生物学会に出席・アメリカ：米国国立衛生研究所で共同研究打ち合わせを行う	カ ナ ダ ア メ リ カ	H19. 5. 21 ～ H19. 5. 26	科学研究費補助金
助 教	江 原 雅 彦	共同研究	ベ ト ナ ム	H19. 5. 22 ～ H19. 6. 18	J S P S
教 授	平 山 謙 二	ディプロマコース研究打ち合わせ	タ イ	H19. 5. 25 ～ H19. 5. 27	大学運営経費

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 謙 二	ケニア拠点ラボの開所式参加	タンザニア ケ ニ ア	H19. 5.28 ～ H19. 6. 6	大学運営経費
講 師	川 田 均	ベトナムにおけるメトフルトリン中規模トライアルの試験候補地視察	ベ ト ナ ム	H19. 5.30 ～ H19. 6. 6	科学 研 究 費 補 助 金
准教授	森 本 浩之輔	The Thomas L.Petty ASPEN LUNG CONFERENCEに参加のため	ア メ リ カ	H19. 6. 3 ～ H19. 6.10	大学運営経費
COE 研究員	橋 爪 真 弘	気象と感染症の関連に関する研究打ち合わせ	バングラディシュ	H19. 6. 3 ～ H19. 6.16	大学運営経費
教 授	中 込 治	修士課程に関する情報交換及び打ち合わせ	イ ギ リ ス	H19. 6. 8 ～ H19. 6.21	C O E
准教授	中 込 とよ子	修士課程に関する情報交換及び打ち合わせ	イ ギ リ ス	H19. 6. 8 ～ H19. 6.21	C O E
教 授	中 村 三千男	ゴードン研究会議出席のため	ア メ リ カ	H19. 6. 9 ～ H19. 6.16	大学運営経費
教 授	森 田 公 一	WHO本部にてGOARNトレーニングコースへ参加	ス イ ス	H19. 6. 9 ～ H19. 6.14	JICA「大洋州地域予防接種事業強化プロジェクト」
教 授	平 山 壽 哉	マヒドール大学で共同研究打ち合わせ	タ イ	H19. 7. 4 ～ H19. 7. 6	科学 研 究 費 補 助 金
講 師	川 田 均	デング熱媒介蚊の生態調査研究・資料収集	ベ ト ナ ム	H19. 7. 9 ～ H19. 7.17	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	高 木 正 洋	デング熱媒介蚊の調査研究	ベ ト ナ ム	H19. 7. 9 ～ H19. 7.15	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	月例会議出席及びベトナムプロジェクト拠点形成に関する打合せ	ベ ト ナ ム	H19. 7.15 ～ H19. 7.18	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
教 授	森 田 公 一	NIHEにてデング熱の研究資料収集	ベ ト ナ ム	H19. 7.15 ～ H19. 7.18	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	金 子 聰	KEMRIプロジェクト研究打ち合わせ	日 本	H19. 7.17 ～ H19. 7.25	大学運営経費
講 師	上 村 春 樹	研究打ち合わせ及びフィールド調査	ケ ニ ア	H19. 7.18 ～ H19. 8. 2	科学 研 究 費 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	皆 川 昇	新興再興感染症に関する調査・研究	ケ ニ ア	H19. 7. 24 ～ H19. 10. 2	大学運営経費
研 究 支援員	蔡 国 喜	森林開発と人口増加・移動がもたらす 感染症リスクの質的・量的評価に関する 調査・研究	中 国	H19. 7. 30 ～ H19. 9. 7	科学研究費 補 助 金
助 教	中 岡 大 士	熱帯医学研修課程の海外実習プログラ ムの現地調整および学生の引率	タ イ	H19. 7. 31 ～ H19. 8. 12	C O E
助 教	依 田 健 志	「タイ国の保健と社会発展」研修プロ グラムのコーディネートと研究打ち合 わせ	タ イ	H19. 8. 2 ～ H19. 8. 17	マヒドール 大 学
教 授	嶋 田 雅 暁	MOU署名式と研究打ち合わせ	日 本	H19. 8. 3 ～ H19. 8. 12	大学運営経費
教 授	有 吉 紅 也	熱帯医学修士課程海外臨床研修謝金支 払い及び来年度の同研修についての打 ち合わせ	フィリピン	H19. 8. 7 ～ H19. 8. 9	C O E
COE 研究員	橋 爪 真 弘	森林開発と人口増加・移動がもたらす 感染症リスクの質的・量的評価に関する 研究打ち合わせ	バングラデシュ	H19. 8. 7 ～ H19. 8. 18	C O E
助 手	柳 哲 雄	リーシュマニア症感染様式の調査研究	ネ パ ー ル	H19. 8. 17 ～ H19. 8. 31	大学運営経費
教 授	金 子 修	研究課題に関する研究打ち合わせ及び 共同研究実施	タ イ	H19. 8. 19 ～ H19. 9. 1	科学研究費 補 助 金
COE 研究員	橋 爪 真 弘	COEに関する研究打ち合わせ	ケ ニ ア	H19. 8. 27 ～ H19. 9. 8	C O E
教 授	門 司 和 彦	COEに関する研究打合せ	ケ ニ ア	H19. 8. 31 ～ H19. 9. 11	C O E
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プログラム」 に関する現地用務実施	フ ィ ジ ー	H19. 9. 2 ～ H19. 9. 17	JICA「大洋州地 域予防接種事業強 化プロジェクト」
助 教	宮 城 啓	感染症研修の引率および監督	フィリピン	H19. 9. 2 ～ H19. 9. 13	C O E
教 授	溝 田 勉	熱帯地域における専門家人材の研修に かかる最終候補者選考	ベ ト ナ ム	H19. 9. 6 ～ H19. 9. 14	J S P S
教 授	高 木 正 洋	研究打合せ（スイス）及び第4回ヨー ロッパ疾病媒介蚊防除学会ワークショップ にて研究発表	ス イ ス チ ェ コ	H19. 9. 7 ～ H19. 9. 14	寄 附 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
講 師	川 田 均	研究打合せ（スイス）及び第4回ヨーロッパ疾病媒介蚊防除教会ワークショップにて研究発表	ス イ ス チ ェ コ	H19. 9. 7 ～ H19. 9. 14	寄 附 金
助 教	中 岡 大 士	ケニアにおける熱帯感染症に関する現地視察および研究打ち合わせ	ケ ニ ア	H19. 9. 10 ～ H19. 9. 26	C O E
事 務 員	本 田 志 保	事務打ち合わせ	日 本	H19. 9. 13 ～ H19. 9. 25	大学運営経費
助 教	中 澤 秀 介	2007年雨期のマラリア調査・論文作成打合せ・サンプル解析	ベ ト ナ ム	H19. 9. 14 ～ H19. 10. 17	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
教 授	平 山 謙 二	デング熱に関する研究打合せ・月例会議及びワークショップ参加・病院視察	ベ ト ナ ム	H19. 9. 17 ～ H19. 9. 23	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
教 授	高 木 正 洋	研究打合せ及び月例会議参加	ベ ト ナ ム	H19. 9. 19 ～ H19. 9. 21	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
教 授	森 田 公 一	ベトナムプロジェクト現地調査及び月例会議出席	ベ ト ナ ム	H19. 9. 19 ～ H19. 9. 25	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
COE 研究員	橋 爪 真 弘	森林開発と人口増加がもたらす感染症リスクの質的・量的評価	ラ オ ス	H19. 9. 23 ～ H19. 10. 1	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	有 吉 紅 也	NIHにおいて研究打合せ会議に参加、ランパン病院において患者コホートの調整	タ イ	H19. 9. 10 ～ H19. 9. 14	厚生労働省 エイズ対策 研 究 事 業
教 授	青 木 克 己	日本熱帯医学会に出席し、熱帯地の寄生蠕虫に付いて情報収集	韓 国	H19. 10. 11 ～ H19. 10. 13	科学 研 究 費 補 助 金
助 教	角 田 隆	ベトナムホーチミン市におけるデング熱媒介蚊定点疫学調査	ベ ト ナ ム	H19. 10. 13 ～ H19. 11. 6	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	金 子 修	第13回日韓寄生虫セミナー出席及び発表	韓 国	H19. 10. 23 ～ H19. 10. 25	C O E
COE 研究員	橋 爪 真 弘	森林開発と人口増加・移動がもたらす感染症リスクの質的・量的評価に関する研究打ち合わせ	バングラデシュ	H19. 10. 28 ～ H19. 11. 5	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	中 込 治	熱帯医学修士課程に関する情報交換および打合せ	イ ギ リ ス	H19. 10. 25 ～ H19. 11. 2	C O E
教 授	森 田 公 一	感染症対策（ワクチントレーニング）の打合せ・「大洋州予防接種強化プロジェクト」に関する現地業務遂行・ベトナム拠点プロジェクト現地調査及び月例会議出席	フィリピン ト シ ン ガ フ イ ジ ー ベ ト ナ ム	H19. 11. 3 ～ H19. 11. 30	JICA「大洋州地域予防接種事業強化プロジェクト」 文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	有 吉 紅 也	現地調査および研究打ち合わせ	タ イ	H19. 11. 5 ～ H19. 11. 9	大学運営経費
教 授	平 山 謙 二	東京大学医科学研究所海外拠点及び北京プロジェクトオフィスの現地調査と海外拠点間の連携	中 国	H19. 11. 22 ～ H19. 11. 24	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
教 授	嶋 田 雅 暁	2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseasesにて座長として参加	日 本	H19. 11. 23 ～ H19. 12. 2	C O E
教 授	金 子 聰	2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseasesにて講演	日 本	H19. 11. 23 ～ H19. 12. 2	C O E
教 授	皆 川 昇	2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseasesにて講演	日 本	H19. 11. 24 ～ H19. 12. 2	C O E
助 教	依 田 健 志	Joint International Tropical Medicine Meeting 2007への参加及び発表	タ イ	H19. 11. 27 ～ H19. 12. 1	大学運営経費
教 授	皆 川 昇	学会参加(アメリカ)・調査・研究(ケニア)・研究打合せ(マラウイ)	ア メ リ カ ケ ニ ア マ ラ ウ イ	H19. 11. 2 ～ H19. 11. 25	運営費交付金 (COEケニア)
教 授	平 山 謙 二	タイ・ウドンタニに開催されるFERCAP 2007 Conferenceに出席するため	タ イ	H19. 11. 28 ～ H19. 12. 1	他機関経費 (TDR/WHO)
教 授	金 子 修	委員会及び学会の出席, 研究打合せ	ア メ リ カ	H19. 11. 3 ～ H19. 11. 11	他機関経費 (ATCC)
教 授	高 木 正 洋	招待講演及び研究打合せ	スウェーデン	H19. 11. 29 ～ H19. 12. 4	寄 附 金
講 師	川 田 均	拠点大学交流事業	ベ ト ナ ム	H19. 12. 1 ～ H19. 12. 7	J S P S
教 授	溝 田 勉	研修者受入のための選択候補者と試験実施	マレーシア フィリピン	H19. 12. 2 ～ H19. 12. 9	(財)国際交通安全学会
教 授	平 山 壽 哉	日米医学協力会合同会議出席	ア メ リ カ	H19. 12. 4 ～ H19. 12. 9	大阪大学微生物学病研究所 (先方負担)
教 授	有 吉 紅 也	研究打合せ・「第1回アジア太平洋地域肺炎球菌ワクチンシンポジウム」へ出席	韓 国	H19. 12. 12 ～ H19. 12. 13	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
講 師	上 村 春 樹	拠点大学交流事業	ベ ト ナ ム	H19. 12. 12 ～ H19. 12. 21	J S P S

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	一 瀬 休 生	日本国内勤務のため(ケニア共和国大統領選挙に伴う緊急避難措置), 研究打ち合わせ	日 本	H19. 12. 19 ～ H20. 1. 9	大学運営経費
事 務 員	本 田 志 保	日本国内勤務のため(ケニア共和国大統領選挙に伴う緊急避難措置)	日 本	H19. 12. 21 ～ H20. 1. 7	大学運営経費
教 授	金 子 聰	日本国内勤務のため(ケニア共和国大統領選挙に伴う緊急避難措置)	日 本	H19. 12. 22 ～ H20. 1. 5	大学運営経費
教 授	嶋 田 雅 暁	日本国内勤務のため(ケニア共和国大統領選挙に伴う緊急避難措置)	日 本	H19. 12. 22 ～ H20. 1. 7	大学運営経費
教 授	有 吉 紅 也	ランパン病院で研究打ち合わせ	タ イ	H19. 12. 23 ～ H19. 12. 27	大学運営経費
教 授	皆 川 昇	研究打合せ, 及び調査	ベトナム ケニア	H19. 12. 28 ～ H20. 3. 21	運営費交付金
講 師	川 田 均	デング熱基礎調査	ベトナム	H20. 1. 5 ～ H20. 1. 18	文科省「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト」
プロジェクト 研究員	二 見 恭 子	研究打ち合わせ	ベトナム ケニア	H20. 1. 6 ～ H20. 3. 25	大学運営経費
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プログラム」の現地用務実施	フ ィ ジ ー	H20. 1. 8 ～ H20. 1. 23	JICA「大洋州地域予防接種事業強化プロジェクト」
助 手	渡 辺 貴和雄	急性呼吸器感染症に関する共同研究	ベトナム	H20. 1. 12 ～ H20. 1. 20	J S P S
教 授	有 吉 紅 也	エイズ研究打ち合わせ及び委託費の支払い	タ イ	H20. 1. 15 ～ H20. 1. 18	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	寄生虫疾患部会第42回日米合同会議にて住血吸虫についての成果発表	ア メ リ カ	H20. 1. 15 ～ H20. 1. 20	C O E
教 授	金 子 聰	順天堂大学で学会参加, 研究打ち合わせ	日 本	H20. 1. 23 ～ H20. 2. 1	大学運営経費
教 授	金 子 修	マラリアに関する研究打ち合わせ(中国・パプアニューギニア), マラリアに関する学会に出席(オーストラリア)	中 国 オーストラリア パプアニューギニア	H20. 1. 27 ～ H20. 2. 10	C O E J S P S
准教授	鳥 山 寛	疫学および病理学的調査	タ イ	H20. 1. 28 ～ H20. 2. 11	大学運営経費

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 謙 二	デング出血熱に関する研究打合せ	ベ ト ナ ム	H20. 1. 29 ～ H20. 1. 31	C O E
助 教	矢 幡 一 英	研究打ち合わせ及びマラリアに関する学会出席	シンガポール	H20. 1. 29 ～ H20. 2. 2	J S P S
助 教	カレトン リチャード レイトン	マラリアに関する研究打ち合わせ SINGAPORE malaria network meeting 2008出席	シンガポール	H20. 1. 29 ～ H20. 2. 2	科 学 技 術 振 興 調 整 費
教 授	有 吉 紅 也	論博研究者の指導を行うため	タ イ	H20. 1. 30 ～ H20. 2. 2	J S P S
教 授	森 田 公 一	大洋州予防接種事業強化プログラムの 現地用務実施	フ ィ ジ ー	H20. 2. 3 ～ H20. 2. 18	JICA「大洋州地域 予防接種事業強化 プロジェクト」
教 授	有 吉 紅 也	エイズに関する研究打ち合わせのため	タ イ	H20. 2. 4 ～ H20. 2. 7	科学研究費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	First SAC Meeting 及び Research Training Steering Committeeに出席し、 座長を務める。	ス イ ス	H20. 2. 4 ～ H20. 2. 10	W H O
助 教	カレトン リチャード レイトン	マラリアに関する研究打合せ	パプアニューギニア	H20. 2. 7 ～ H20. 2. 14	科学技術振興 調 整 費
講 師	上 村 春 樹	マラリアに関する研究	ケ ニ ア	H20. 2. 8 ～ H20. 2. 23	C O E
准教授	本 田 純 久	スマトラ沖地震津波被災地域における 心的外傷後ストレス障害のマルチレベ ル分析	スリランカ	H20. 2. 11 ～ H20. 2. 13	科学研究費補 助 金
助 教	中 澤 秀 介	フィールド調査及び共同研究	ベ ト ナ ム	H20. 2. 26 ～ H20. 3. 23	J S P S
教 授	金 子 聰	ケニアプロジェクト研究打ち合わせ	日 本	H20. 3. 1 ～ H20. 3. 13	大学運営経費
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プロジェク ト」に関する現地業務遂行	ミクロネシア	H20. 3. 2 ～ H20. 3. 9	JICA「大洋州地域 予防接種事業強化 プロジェクト」
助 教	中 岡 大 士	熱帯医学研修課程に関する打合せ	イ ギ リ ス	H20. 3. 2 ～ H20. 3. 8	C O E
教 授	嶋 田 雅 暁	ケニアプロジェクト研究打ち合わせ	日 本	H20. 3. 4 ～ H20. 3. 16	大学運営経費

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
COE 研究員	橋 爪 真 弘	人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生に関するの研究打ち合わせ	バングラディシュ	H20. 3. 6 ～ H20. 3. 22	総合地球環境学 研 究 所
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」に関する現地業務遂行	フ ィ ジ ー	H20. 3. 9 ～ H20. 3. 17	JICA「大洋州地域 予防接種事業強化 プロジェクト」
講 師	川 田 均	熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策の共同研究	ベ ト ナ ム	H20. 3. 9 ～ H20. 3. 13	J S P S
助 教	宮 城 啓	研究協力者として調査に参加するため	ラ オ ス	H20. 3. 10 ～ H20. 3. 22	関西医科大学
教 授	山 本 太 郎	拠点大学方式による学術交流事業に関する研究打ち合わせ	ベ ト ナ ム	H20. 3. 12 ～ H20. 3. 21	J S P S
研 究 機 関 研究員	竹 内 昌 平	拠点大学方式による学術交流事業に関する研究打ち合わせ	ベ ト ナ ム	H20. 3. 12 ～ H20. 3. 21	J S P S
教 授	平 山 謙 二	マラリアワクチンの研究打合せ, デング出血熱の研究打合せ	ガ ー ナ フ ラ ン ス	H20. 3. 15 ～ H20. 3. 22	C O E
教 授	一 瀬 休 生	日本細菌学会出席, 研究打ち合わせ	日 本	H20. 3. 21 ～ H20. 3. 31	大学運営経費
教 授	皆 川 昇	ケニアプロジェクト拠点で調査・研究	ケ ニ ア	H20. 3. 22 ～ H20. 5. 2	大学運営経費
教 授	高 木 正 洋	NIHE国立衛生疫学研究所にて「4 new BSL-3」開所式出席	ベ ト ナ ム	H20. 3. 23 ～ H20. 3. 26	運営費交付金
教 授	森 田 公 一	第2回西アジア新興感染症会議出席	カザフスタン	H20. 3. 25 ～ H20. 3. 29	JICA「大洋州地域 予防接種事業強化 プロジェクト」
助 教	久 保 嘉 直	HIV病原性に関するキーストーン会議に参加, 発表	カ ナ ダ	H20. 3. 25 ～ H20. 4. 3	大学運営経費
教 授	有 吉 紅 也	HIV病原性Keystone Symposiaに出席し, 共同演者として発表を行う	カ ナ ダ	H20. 3. 26 ～ H20. 3. 31	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	COE共同研究へのシンガポール大学支援に対する外務省表敬訪問及び, シンガポール大学の感染症グループとの研究報告会に出席するため	シンガポール	H20. 3. 26 ～ H20. 3. 29	C O E
教 授	山 本 太 郎	COE共同研究へのシンガポール大学支援に対する外務省表敬訪問及び, シンガポール大学の感染症グループとの研究報告会に出席するため	シンガポール	H20. 3. 26 ～ H20. 3. 29	C O E

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	角 田 隆	蚊媒介性感染症に関する打合せ	ベ ト ナ ム	H20. 3. 31 ～ H20. 3. 31	運営費交付金

9 外国人研究者の受け入れ

9. 1 熱帯医学研究コース

長崎大学大学院医歯薬総合研究科に平成18年度開設された熱帯医学専攻(熱帯医学修士課程)に入学する形で本年度のJICA熱帯医学研究コースが実施された。

平成19年4月に、同コースから8名(メキシコ1、イエメン1、ドミニカ1、エジプト2、コンゴ民主共和国3)が、日本人4名の学生と共に同専攻に入学した。4ヶ月間の講義及び実習、8月のタイでの海外熱帯医学臨床研修、そして9月から各教室における研究・修士論文作成を行い、平成20年3月には、論文発表会にて修士論文を発表し、審査の結果、全員が修士を授与されている。

(修士論文題目)

- Trends of diarrheal hospitalizations at a sentinel children's hospital, Kathmandu, Nepal, from 1996 to 2006
- Development of real-time reverse transcription loop-mediated isothermal amplification assay for rapid detection of dengue virus infections
- Studies on decoy snail and other aquatic animals : A new tool for control of Schistosomiasis
- A study of the influence of nutritional interventions to address the HIV/AIDS and tuberculosis pandemics including public health and therapeutic nutrition strategies and actions. Systematic review
- Diversity of the rhoph1/clag multigene family of Plasmodium falciparum in Thailand
- Prevalence of antiretroviral drug resistant HIV among blood donors in Western and Eastern parts of Democratic Republic of Congo
- Persistence of Japanese encephalitis virus infection in porcine stable kidney cells : Who is responsible, the virus or the cell?
- Characterization of an Entamoeba nuttalli Strain Isolated from Rhesus Monkey in comparison with Two Entamoeba histolytica Strains with Different Virulence
- Nucleic Acid Amplification Tests for Etiological Identification of Viral Respiratory Pathogens in Vietnam
- Retrospective Review of Association between RotaShield Vaccine and Intussusception
- Analysis of Mannose-Binding Lectin 2 (MBL2) gene polymorphism in Congolese children with severe malarial anemia
- Positive selection on the members of Plasmodium falciparum SURFIN

(文責：佐藤 光)

9. 2 平成19年度に受け入れた外国人研究者

分 野 等	氏 名	国 籍	受入期間	経 費	備 考
分子構造解析	Nguyen Thi Thu Thuy	ベトナム	H19. 10. 10～ H19. 11. 7	JSPS	
	Pham Do Quyen	ベトナム	H19. 10. 10～ H19. 11. 7	JSPS	
	Pham Thi Tuyet Nga	ベトナム	H19. 10. 10～ H19. 11. 7	JSPS	
病原因子機能解析	Le Thanh Huong	ベトナム	H19. 10. 10～ H19. 11. 7	JSPS	
感染細胞修飾機構	Tanaporn Rungruang	タイ	H20. 3. 1～ H20. 4. 1	タイ国 科学研究費	
生物環境	Tran Quang Huy	ベトナム	H20. 3. 15～ H20. 3. 23	JSPS	
疾 病 生 態	Yong Mo Koo	韓国	H19. 7. 8～ H19. 7. 11	大学運営経費	
	Raidar Krummradt Lie	ノルウェー	H19. 7. 8～ H19. 7. 11	大学運営経費 WHO	
	Dujdow Songthamwat	タイ	H19. 8. 1～ H19. 8. 10	COE	
	Janis K.Lazdins-Helds	ベネズエラ	H19. 9. 30～ H19. 10. 2	先方負担 (WHO)	
	Prasit Palittapongarnpim	タイ	H19. 10. 2～ H19. 10. 4	COE	
	Supornchai Kongpatanakul	タイ	H19. 10. 3～ H19. 10. 6	COE	
	Wongwiat Tassaneeyakul	タイ	H19. 10. 8～ H19. 10. 9	COE	
	Lakshmanan Jeyaseelan	インド	H19. 10. 13～ H19. 10. 17	COE	
	Haward Engaers	スイス	H19. 10. 16～ H19. 10. 25	COE	
	Ivan Dario Velez Bernal	コロンビア	H19. 10. 21～ H19. 10. 24	寄 附 金	
	Luping Qin	中国	H19. 10. 24～ H19. 10. 26	寄 附 金	
	Allan Johansen	オーストラリア	H19. 10. 26～ H19. 10. 30	先方負担	
	Sangkae Chamnanawakit	タイ	H19. 10. 28～ H19. 11. 4	学長裁量 (医歯薬)	
	Juntra Karbwang	タイ	H19. 10. 28～ H19. 11. 4	先方負担 (WHO)	
	Kesare Na-Bangchang	タイ	H19. 10. 28～ H19. 11. 4	COE	
	Jie He	中国	H19. 10. 29～ H19. 11. 2	学長裁量 (医歯薬)	
	Edelwisa Segubre Mercado	フィリピン	H20. 1. 15～ H20. 3. 31	JSPS	
	Saw Wut Hmone	ミャンマー	H20. 3. 15～ H20. 5. 23	ミャンマー 政 府	

分 野 等	氏 名	国 籍	受入期間	経 費	備 考
セ ン タ ー	Hassan Mshinda	ケ ニ ア	H19. 8. 4～ H19. 8. 12	大学運営経費	
	Vu Duc Chinh	ベ ト ナ ム	H20. 1. 4～ H20. 1. 30	JSPS	

10 研究成果の発表状況

10. 1 研究業績

—分子構造解析分野—

- 1) Masahiro Kitabatake, Shingo Inoue, Fumihiko Yasui, Shoji Yokochi, Masaaki Arai, Kouichi Morita, Hisatoshi Shida, Minoru Kidokoro, Fukashi Murai, Mai Quynh Le, Kyosuke Mizunoi, Kouji Matsushima, Michinori Kohara : SARS-CoV spike protein-expressing recombinant vaccinia virus efficiently induces neutralizing antibodies in rabbits pre-immunized with vaccinia virus. *Vaccine*, 25. 630-637, 2007.
- 2) Fuxun Yu, Mai Quynh Le, Shingo Inoue, Futoshi Hasebe, Maria del Carmen Parquet, Shigeru Morikawa and Kouichi Morita : Recombinant Truncated Nucleocapsid Protein as Antigen in a Novel Immunoglobulin M Capture Enzyme-Linked Immunosorbent Assay for Diagnosis of Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus Infection. *Clinical and Vaccine Immunology*, 14. 146-149, 2007.
- 3) Parida M M, Santhosh S R, Dash P K, Tripathi N K, Lakshmi V, Mamidi Ambuj N, Gupta N, Saxena P, Pradeep Babu J, Lakshmana Rao P V and Morita K : Rapid and Real-time detection of Chikungunya virus by Reverse Transcription Loop Mediated Isothermal Amplification (RT-LAMP) Assay. *J.Clin. Microbiol*, 45. 351-357, 2007.
- 4) Yuuki Inoue, Nobuyuki Tanaka, Yoshinori Tanaka, Shingo Inoue, Kouichi Morita, Min Zhuang, Toshio Hattori and Kazuo Sugamura : Clathrin-Dependent Entry of Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus into Target Cells Expressing ACE2 with the Cytoplasmic Tail Deleted. *J Virol*, 81. 8772-8729, 2007.
- 5) Ito M, Yamada K, Takasaki T, Pandey B, Nerome R, Tajima S, Morita K, Kurane I : Phylogenetic analysis of dengue viruses isolated from imported dengue patients: possible aid for determining the countries where infections occurred. *J Travel Med*, 14(4). 233-244, 2007.
- 6) 森田公一：ニパウイルス. *小児感染症学*. 541-545, 2007.
- 7) Yu F, Hasebe F, Inoue S, Mathenge EG, Morita K : Identification and characterization of RNA-dependent RNA polymerase activity in recombinant Japanese encephalitis virus NS5 protein. *Arch Virol*, 152. 1859-1869, 2007.
- 8) 森田公一：日本脳炎ワクチン・ウエストナイル熱ワクチン. *Virus Report*, 4(2). 40-46, 2007.

—病原因子機能解析分野—

- 9) 平山壽哉：変貌する細菌感染症： *Helicobacter pylori* 感染症，その病原メカニズム．医学のあゆみ，223(8)． 623-627， 2007．
- 10) Hisatsune J, Yamasaki E, Nakayama M, Shirasaka D, Kurazono H, Katagata Y, Inoue H, Han J, Sap J, Yahiro K, Moss J, Hirayama T : *Helicobacter pylori* VacA enhances PGE2 production through induction of COX-2 expression via a p38 MAP Kinase/ATF-2 cascade in AZ-521 cells. Infection and Immunity(75)． 4472-4481, 2007.
- 11) 平山壽哉：平成19年浅川賞受賞論文「ヘリコバクター・ピロリのVacA毒素受容体と毒性発現に関する研究」．日本細菌学雑誌，62． 387-396， 2007．

－感染細胞修飾機構分野－

- 12) 神原廣二：感染症学総論 II．感染症発症のメカニズム，表面レセプター－熱帯熱と三日熱マラリアの病態差に関連して－．日本臨床，新感染症学(上)－新時代の基礎・臨床研究－，65(2)． 68-72， 2007．
- 13) Miyazaki T, Yagita K, Yanagi T, Uemura H, Kanbara H : Seasonal fluctuation of Acanthamoeba spp. contamination in water containers placed indoors and outdoors. Acta Medica Nagasakiensia, 52. 13-18, 2007.
- 14) Yoda T, Minematsu K, Abe T, Basuki S, Artasutra K, Dachlan YP, Moji K, Kanbara H, Rakue Y, Mizota T : Evaluation by villagers of the malaria control project on Lombok and Sumbawa Islands, West Nusa Tenggara Province, Indonesia. Southeast Asian J Trop Med Publ Health, 38(2). 213-222, 2007.
- 15) Tachibana H, Yanagi T, Pandey K, Cheng X, Kobayashi S, Sherchand J, Kanbara H : An *Entamoeba* sp. strain isolated from rhesus monkey is virulent but genetically different from *Entamoeba histolytica*. Mol Biochem Parasitol, 153(2). 107-114, 2007.
- 16) Pandey K, Yanagi T, Pandey BD, Mallik AK, Sherchand JB, Kanbara H : Characterization of *Leishmania* isolates from Nepales patients with visceral leishmaniasis. Parasitol Res, 100(6). 1361-1369, 2007.
- 17) Kaneko O : Erythrocyte invasion: vocabulary and grammar of the *Plasmodium* rhoptry. Parasitol Int, 56(4). 255-262, 2007.
- 18) Moll K, Chene A, Ribacke U, Kaneko O, Nilsson S, Winter G, Haeggstrom M, Pan W, Berzins K, Wahlgren M, Chen Q : A novel DBL-domain of the *P. falciparum* 332 molecule involved in erythrocyte adhesion. PLoS ONE, 2(477). 2007.
- 19) Cortes A, Carret C, Kaneko O, Yim-Lim BYS, Ivens A, Holder AA : Epigenetic silencing of *Plasmodium falciparum* genes linked to erythrocyte invasion. PLoS Pathog, 3(107). 2007.

- 20) Songthamwat D, Kajihara K, Kikuchi M, Uemura H, Tran SPM, Yanagi T, Higo H, Hirayama K : Structure and expression of three gp8 gene subfamilies of *Trypanosoma cruzi*. Parasitol Int, 56(4). 273-280, 2007.

—寄生行動制御分野—

- 21) 青木克己 : 開発途上国における寄生虫病の対策研究の動向. 学術月報, 60(4). 231-235, 2007.
- 22) Watanabe K, Mwinzi PMN, Black C, Muok EMO, Karanja DMS, Secor WE, Colley DG : T Regulatory Cell Levels Decrease In People Infected With Schistosoma Mansoni Upon Effective Treatment. Am. J. Trop. Med. Hyg, 77(4). 676-682, 2007.
- 23) Suzuki A, Hamano S, Shirakawa T, Watanabe K, Endo T, Sharma BB Jha, Acharya GP, Nishiyama K, Fukumaki Y, Kobayashi S : The Distribution of Hereditary erythrocytic disorders associated with malaria in a lowland area of Nepal: a microepidemiological study. Ann. Trop. Med. Parasitol., 101(2). 113-122, 2007.
- 24) Kihara JH, Muhoho N, Njomo D, Mwobodia IK, Josyline K, Mitsui Y, Awazawa T, Amano T, Mwandawiro C : Drug efficacy of praziquantel and albendazole in school children in Mwea Division, Central Province, Kenya. Acta Trop., 102(3). 165-171, 2007.

—病変発現機序分野—

- 25) Jutavijittum P, Yousukh A, Samountry B, Samountry K, Ounavong A, Thammavong T, Keokhamphue J, Toriyama K : Seroprevalence of hepatitis B and C virus infection among Lao blood donors. Southeast Asian J Trop Med Public Health, 38(4). 674-679, 2007.
- 26) Shigematsu K, Toriyama K, Kawai K, Takahara O : Ectopic adrenal tissue in the thorax: a case report with in situ hybridization and immunohistochemical studies. Pathol Res Pract, 203(7). 543-548, 2007.
- 27) Tomimori K, Uema E, Teruya H, Ishikawa C, Okudaira T, Senba M, Yamamoto K, Matsuyama T, Kinjo F, Fujita J, Mori N : Helicobacter pylori induced CCL20 expression. Infect Immun, 75(11). 5223-5232, 2007.
- 28) Ichikawa T, Nakao K, Hamasaki K, Furukawa R, Tsuruta S, Ueda Y, Taura N, Shibata H, Fujimoto M, Toriyama K, Eguchi K : Role of growth hormone, insulin-like growth factor 1 and insulin-like growth factor-binding protein 3 in development of non-alcoholic fatty liver disease. Hepat Int, 1. 287-294, 2007.
- 29) Terajima M, Hayasaka D, Maeda K, Ennis FA : Immunopathogenesis of hantavirus pulmo-

- nary ayndrome and hemorrhagic fever with renal syndrome. *Immunol Lett*, 113(2). 117-120, 2007.
- 30) **Hayasaka D, Ennis FA, Terajima M** : Pathogenesis of respiratory infections with virulent and attenuated vaccinia viruses. *Virol J*, 4. 22, 2007.
 - 31) **Hayasaka D, Maeda K, Ennis FA, Terajima M** : Increased permeability of human endothelial cell line EA. hy926 induced by hantavirus-specific cytotoxic T lymphocytes. *Virus Res*, 123(2). 120-127, 2007.
 - 32) **Jongwutiwes S, Putaporntip C, Charoenkorn M, Iwasaki T, Endo T** : Morphological and molecular characterization of isospora belli oocysts from patients in Thailand. *Am J Trop Med Hyg*, 77(1). 107-112, 2007.
 - 33) **Arita M, Nagata N, Iwata N, Ami Y, Suzuki Y, Mizuta K, Iwasaki T, Sata T, Wakita T, Shimizu H** : An attenuated strain of enterovirus 71 belonging to genotype a showed a broad spectrum of antigenicity with attenuated neurovirulence in cynomolgus monkeys. *J Virol*, 81(17). 9386-9395, 2007.
 - 34) **Kariwa H, Lougamage K, Lokugamage N, Miyamoto H, Yoshii K, Nakauchi M, Yoshimatsu K, Arikawa J, Ivanov LI, Iwasaki T, Takashima I** : A comparative epidemiological study of hantavirus infection in Japan and Far East Russia. *Jpn J Vet Res*, 54(4). 145-161, 2007.
 - 35) **Iwasaki T** : Contribution of experimental paradigms of viral infectious diseases to diagnostic pathology. *Semin Diagn Pathol*, 24. 237-242, 2007.

—感染症予防治療分野—

- 36) **Koyama J, Ahmed K, Zhao J, Saito M, Onizuka S, Oma K, Watanabe K, Watanabe H, Oishi K** : Strain-specific pulmonary defense achieved after repeated airway immunizations with non-typeable *Haemophilus Influenzae* in a mouse model. *Tohoku J. Exp. Med.*, 211(1). 63-74, 2007.
- 37) **Chen M, Hisatomi Y, Furumoto A, Kawakami K, Masaki H, Nagatake T, Sueyasu Y, Iwanaga T, Aizawa H, Oishi K** : Comparative immune responses of patients with chronic pulmonary diseases during the 2-year period after Pneumococcal vaccination. *Clin Vaccine Immunol.*, 14(2). 139-145, 2007.
- 38) **Qin L, Watanabe H, Asoh N, Watanabe K, Oishi K, Mizota T, Nagatake T** : Antimicrobial susceptibility and genetic characteristics of *Haemophilus influenzae* isolated from patients with respiratory tract infections between 1987 and 2000, including β -lactamase-negative

- ampicillin-resistant strains. *Epidemiol. Infect.*, 135(4). 665–668, 2007.
- 39) Deforche K, Camacho R, Grossman Z, Silander T, Soares MA, Moreau Y, Shafer RW, Van Laethem K, Carvalho AP, Wynhoven B, Cane P, Snoeck J, Clarke J, Sirivichayakul S, Ariyoshi K, Holguin A, Rudich H, Rodrigues R, Bouzas MB, Cahn P, Brigido LF, Soriano V, Sugiura W, Phanuphak P, Morris L, Weber J, Pillay D, Tanuri A, Harrigan PR, Shapiro JM, Katzenstein DA, Kantor R, Vandamme AM : Bayesian network analysis of resistance pathways against HIV-1 protease inhibitors. *Infect Genet Evol.*, 7(3). 382–390, 2007.
 - 40) Wichukchinda N, Kitamura Y, Rojanawiwat A, Nakayama EE, Song H, Pathipvanich P, Auwanit W, Sawanpanyalert P, Iwamoto A, Shioda T, Ariyoshi K : The polymorphisms in DC-SIGNR affect susceptibility to HIV type 1 infection. *Aids Res. Hum. Retrovir.* , 23(5). 686–692, 2007.
 - 41) Nakamura H, Aramaki T, Arima K, Iwamoto N, Nakajima H, Iwanaga N, Kawakami A, Ida H, Origuchi T, Yamachika S, Tsuchihashi Y, Kamihira S, Eguchi K : Deep vein thrombosis and pulmonary thromboembolism in a patient with eosinophilia and obesity. *Acta Med. Nagasaki.*, 52(3). 87–91, 2007.
 - 42) Kawasaki S, Nakamura H, Honda E, Iwanaga N, Kawakami A, Ida H, Origuchi T, Honda S, Tsuchihashi Y, Yoshimine H, Eguchi K : Tacrolimus as a reinforcement therapy for a patient with MPO-ANCA-associated diffuse alveolar hemorrhage. *Clin. Rheumatol.*, 26(7). 1211–1214, 2007.
 - 43) Saeng-Aroon S, Yoshida LM, Ariyoshi K, Taguchi M, Pathipvanich P, Rojanawiwat A, Matsuda M, Kannagi M, Sawanpanyalert P, Sugiura W, Auwanit W : An Efficient Tool for Surveying CRF01_AE HIV Type 1 Resistance in Thailand to Combined Stavudine-Lamivudine-Nevirapine Treatment : Mutagenically Separated PCR Targeting M184I/V. *Aids. Res. Hum. Retrovir.*, 23(12). 1461–1468, 2007.
 - 44) Matsubara K, Fukaya T, Ubukata K, Chen M, Nigami H, Harigaya H, Nozaki H, Tanaka T : Recurrence of occult pneumococcal bacteremia by an identical strain in an apparently healthy child. *J. Infect.*, 54(2). 87–90, 2007.
 - 45) Oishi K, Saito M, Mapua CA, Natividad FF : Dengue illness: clinical features and pathogenesis. *J Infect Chemother.*, 13(3). 125–133, 2007.
 - 46) Dimaano EM, Saito M, Honda S, Miranda EA, Alonzo MT, Valerio MD, Mapua CA, Inoue S, Kumaori A, Matias R, Natividad FF, Oishi K : Lack of Efficacy of High-Dose Intravenous Immunoglobulin Treatment of Severe Thrombocytopenia in Patients with Secondary Dengue Virus Infection. *Am. J. Trop. Med. Hyg.*, 77(6). 1135–1138, 2007.

- 47) **Qin L, Masaki H, Watanabe K, Furumoto A, Watanabe H** : Antimicrobial susceptibility and genetic characteristics of *Streptococcus pneumoniae* isolates indicating possible nosocomial transmission routes in a community hospital in Japan. *J. Clin. Microbiol.*, 45(11). 3701-3706, 2007.
- 48) **有吉紅也** : デング熱, デング出血熱. 今日の治療指針2007. 143-144, 2007.
- 49) **松林 格** : 日本脳炎, その他の脳炎ウイルス. 今日の治療指針2007. 144-145, 2007.
- 50) **土橋佳子** : 発疹チフス. 今日の治療指針2007. 146, 2007.
- 51) **森本浩之輔, 土橋佳子** : 輸入感染症への対応は? —耳鼻咽喉科外来で遭遇する可能性のある輸入感染症—. *JOHNS*, 23(3). 307-309, 2007.
- 52) **嘉村洋志, 田 誠也, 森本浩之輔, 土橋佳子** : 日和見感染症の CT 画像. *medicina*, 44(2). 282-285, 2007.
- 53) **小山和彦, 川上健司, 原田義高, 山領 豪, 木村由美子** : 左荒蕪肺を呈した多剤耐性肺結核に左肺全摘術を施行した 1 例. *結核*, 82(7). 577-581, 2007.
- 54) **原田義高, 川上健司, 小山和彦, 山領 豪, 木村由美子** : 抗結核薬による致死的肝障害をきたした 1 例. *結核*, 82(9). 705-709, 2007.

—エイズ感染防御分野—

- 55) **Kubo Y, Yokoyama M, Yoshii H, Mitani C, Tominaga C, Tanaka Y, Sato H, Yamamoto N** : Inhibitory role of CXCR4 glycan in CD4-independent X4-tropic human immunodeficiency virus type 1 infection and its abrogation in CD4-dependent infection. *Journal of General Virology*, 88. 3139-3144, 2007.
- 56) **Kubo Y, Tominaga C, Yoshii H, Kamiyama H, Mitani C, Amanuma H and Yamamoto N** : Characterization of R peptide of murine leukemia virus envelope glycoproteins in syncytium formation and entry. *Archives of Virology*, 152. 2169-2182, 2007.

—生物環境分野—

- 57) **Tuno N, Githeko A, Yan G, Takagi M** : Interspecific variation in diving activity among *Anopheles gambiae* Giles, *An. arabiensis* Patton, and *An. funestus* Giles (Diptera: Culicidae) larvae. *Journal of Vector Ecology*, 32(1). 112-117, 2007.
- 58) **Kawada H, Honda S, Takagi M** : Comparative laboratory study on the reaction of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus* to different attractive cues in a mosquito trap. *Journal of Medical Entomology*, 44(3). 427-432, 2007.
- 59) **Temu E A, Minjas J N, Tuno N, Kawada H, Takagi M** : Identification of four members of the

Anopheles funestus (Diptera: Culicidae) group and their role in Plasmodium falciparum transmission in Bagamoyo coastal Tanzania. Acta Tropica, 102. 119-125, 2007.

- 60) Kasai S, Shono T, Komagata O, Tsuda Y, Kobayashi M, Motoki M, Kashima I, Tanikawa T, Yoshida M, Tanaka I, Shinjo G, Hashimoto T, Ishikawa T, Takahashi T, Higa Y, Tomita T : Insecticide resistance in potential vector mosquitoes for West Nile virus in Japan. J. Med. Entomol., 44(5). 822-829, 2007.
- 61) Higa Y, Toma T, Araki Y, Onodera I and Miyagi I : Seasonal changes in oviposition activity, hatching and embryonation rates of eggs of *Aedes albopictus* (Diptera: Culicidae) on three islands of the Ryukyu Archipelago, Japan. Med. Entomol. Zool., 58(1). 1-10, 2007.

—社会環境分野—

- 62) Yoda T, Minematsu K, Abe T, Basuki S, Artasutra K, Dachlan Y, Moji K, Kanbara H, Rakue Y, Mizota T : Evaluation by Villagers of the Malaria Control Project on Lombok and Sumbawa Islands, West Nusa Tenggara Province, Indonesia. The Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health, 38(2). 213-222, 2007.
- 63) 吉井文郷, 後藤恵之輔, 後藤健介 : 台風13号による塩害調査(その1) 衛星リモートセンシング. 自然災害研究協議会西部地区部会報・研究論文集(31). 49-52, 2007.
- 64) 後藤恵之輔, 小林隆洋, 後藤健介 : 台風13号による塩害調査(その2) 地上リモートセンシング. 自然災害研究協議会西部地区部会報・研究論文集(31). 53-56, 2007.
- 65) 本田晃三, 後藤恵之輔, 後藤健介 : 台風13号による塩害調査(その3) 現地調査と植生塩害実験. 自然災害研究協議会西部地区部会報・研究論文集(31). 57-60, 2007.
- 66) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介, 黒田圭介, 辻 真弓 : 空中写真による斜面災害地の土地被覆分類—相知町を対象として. 自然災害研究協議会西部地区部会報・研究論文集(31). 65-68, 2007.
- 67) 今岡芳子, 後藤恵之輔, 後藤健介 : 「災害民話」の創作と伝承に関する予察的研究. 自然災害研究協議会西部地区部会報・研究論文集(31). 93-94, 2007.
- 68) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介, 宗 建郎 : 衛星データとGISによる環境変化解析—太宰府市の例. 福岡教育大学紀要(56). 13-24, 2007.
- 69) 後藤恵之輔, 後藤健介, 吉井文郷, 本田晃三 : 台風0613号による塩害調査—衛星及び地上リモートセンシングを併用して—. 生研フォーラム「宇宙からの地球環境モニタリング」第16回論文集. 43-50, 2007.
- 70) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介 : 2003年九州集中豪雨による大宰府市原川流域の斜面崩壊と谷壁斜面の地形・地質的特性. 応用地質, 48(4). 170-179, 2007.

- 71) **Tanimura S, Kuroiwa C** : Auxiliary Cartographic Functions in R: North Arrow, Scale Bar, and Label with Leader Arrow. *Journal of Statistical Software*, 19(1). 2007.
- 72) **Qin L, Watanabe H, Asoh N, Watanabe K, Oishi K, Mizota T** : Antimicrobial susceptibility and genetic characteristics of *Haemophilus Influenzae* isolated from patients with respiratory tract infections between 1987 and 2000, including β -lactamase-negative ampicillin-resistant strains. *Epidemiol Infect.*, 135. 665–668, 2007.

—疾病生態分野—

- 73) **Kenji Hirayama** : Schistosomiasis and Immunity. Report of the Scientific Working Group meeting on Schistosomiasis, Geneva, 14–16 November 2005, Ed by TDR/SWG/07, Copyright World Health Organization on behalf of the Special Programme for research and Training in Tropical Diseases, 2006, 105–108, 2007.
- 74) **太田正穂, 石川善英, 石谷昭子, 大橋 順, 小笠原悟, 柏瀬貢一, 木村彰方, 小林 賢, 高原史郎, 田中秀則, 徳永勝士, 中島文明, 西村泰治, 平山謙二, 丸屋悦子, 屋部登志雄** : 平成18年度 HLA 検査技術者認定試験に関する報告. *日本組織適合学会誌(MHC)*, 13(3)255–267, 2007.
- 75) **Kimura A, Takahashi M, Choi BY, Bae SW, Hohta S, Sasaoka T, Nakahara KI, Chida K, Sawabe M, Yasunami M, Naruse T, Izumi T, Park JE** : Lack of association between LTA and LGALS2 polymorphisms and myocardial infarction in Japanese and Korean populations. *Tissue Antigens*. 69(3). 265–269, 2007.
- 76) **Nouchi T, Yasunami M, Mibu R, Yasunaga S, Itoh-Satoh M, Takahashi M, Tanaka S, Kuwano H, Kimura A.** : Somatic mutations leading to incomplete extinction of HLA class I were associated with replication error phenotype-positive colorectal carcinoma. *MHC*, 13(3). 187–197, 2007.
- 77) **Yamamoto H, Kawada M, Tsukamoto T, Takeda A, Igarashi H, Miyazawa M, Naruse T, Yasunami M, Kimura A, Matano T** : Vaccine-based long-term stable control of simian-human immunodeficiency virus 89. 6PD replication in rhesus macaques. *J Gen Virol*, 88. 652–659, 2007.
- 78) **Tanaka-Takahashi Y, Yasunami M, Naruse T, Hinohara K, Matano T, Mori K, Miyazawa M, Honda M, Yasutomi Y, Nagai Y, Kimura A** : Reference strand-mediated conformation analysis (RSCA)-based typing of multiple alleles in the rhesus macaque MHC class I Mamu-A and Mamu-B loci. *Electrophoresis*, 28. 918–924, 2007.
- 79) **Higo H, Miura S, Agatsuma T, Mimori T, Yanagi T, Iwagami M, de Arias AR, Matta V, Hirayama K, Takeuchi T, Tada I, Himeno K** : Identification of *Trypanosoma cruzi* sublin-

- eages by the simple method of single-stranded conformation DNA polymorphism (SSCP). Parasitol Res., 100(5). 1023-1031, 2007.
- 80) Songthamwat D, Kajihara K, Kikuchi M, Uemura H, Phu Manh Tran S, Yanagi T, Higo H, Hirayama K : Structure and expression of three gp82 gene subfamilies of *Trypanosoma cruzi*. Parasitol Int., 56(4). 273-280, 2007.
- 81) 平山謙二 : 地球温暖化と熱帯医学「すぐそばにある危機"熱帯感染症"」青淵 (6月号 (699号) 財団法人渋沢栄一記念財団), 6(699). 33-35, 2007.
- 82) Helegbe GK, Goka BQ, Kurtzhals JA, Addae MM, Ollaga E, Tetteh JK, Dodoo D, Ofori MF, Obeng-Adjei G, Hirayama K, Awandare GA, Akanmori BD : Complement activation in Ghanaian children with severe Plasmodium falciparum malaria. Malar J., 6(1). 165-174, 2007.
- 83) Huang M, Ida H, Arima K, Nakamura H, Aramaki T, Fujikawa K, Tamai M, Kamachi M, Kawakami A, Yamasaki H, Origuchi T, Eguchi K : La autoantigen translocates to cytoplasm after cleavage during granzyme B-mediated cytotoxicity. Life Sci, 81(1920). 1461-1466, 2007.
- 84) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Takao S, Tanaka F, Fujikawa K, Aramaki T, Nakamura H, Iwanaga N, Izumi Y, Arima K, Aratake K, Kamachi M, Huang M, Origuchi T, Ida H, Aoyagi K, Eguchi K : Bone edema determined by magnetic resonance imaging reflects severe disease status in patients with early-stage rheumatoid arthritis. J Rheumatol., 34(11). 2154-2157, 2007.
- 85) 平山謙二 : リーシュマニア症. 2007 Today's Therapy今日の治療指針—私はこう治療している 医学書院, 総編集; 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢, 2007, (2007年1月1日発刊). 181, 2007.
- 86) Huy NT, Mizunuma K, Kaur K, Nhien NT, Jain M, Uyen DT, Harada S, Jain R, Kamei K : 2-tert-butyl-8-quinolinamines exhibit potent blood schizontocidal antimalarial activity via inhibition of heme crystallization. Antimicrob Agents Chemother, 51(8). 2842-2847, 2007.
- 87) Tanaka M, Migita K, Miyashita T, Maeda Y, Nakamura M, Komori A, Ishibashi H, Eguchi K, Kikuchi M, Hirayama K, Yasunami M : Coexistence of familial Mediterranean fever and Sjogren's syndrome in a Japanese patient. Clin Exp Rheumatol, 25. 792, 2007.

—熱帯感染症研究センター—

- 88) 堀尾政博 : シャーガス病を媒介するサシガメ. 昆虫と自然, 42(3). 8-13, 2007.
- 89) Yanada M, Jinnai I, Takeuchi J, Ueda T, Miyawaki S, Tsuzuki M, Hatta Y, Usui N, Wada H, Morii T, Matsuda M, Kiyoi H, Okada M, Honda S, Miyazaki Y, Ohno R, Naoe T : Clinical feature and outcome of T-lineage acute lymphoblastic leukemia in adults: A low initial white

- blood cell count, as well as a high count predict decreased survival rates. *Leukemia Research*, 31. 907-914, 2007.
- 90) Nonaka K, Kume N, Urata Y, Seto S, Kohno T, Honda S, Ikeda S, Muroya T, Ikeda Y, Ihara Y, Kita T, Kondo T : Serum Levels of S-Glutathionylated Proteins as a Risk-Marker for Arteriosclerosis Obliterans. *Circ J*, 71. 100-105, 2007.
 - 91) Ye Z, Honda S, Abe Y, Kusano Y, Takamura N, Imamura Y, Eida K, Takemoto T, Aoyagi K : Influence of Work Duration or Physical Symptoms on Mental Health among Japanese Visual Display terminal Users. *Industrial Health*, 45. 328-333, 2007.
 - 92) Takai K, Honda S, Ye Z, Abe Y, Takamura N, Osaki M, Kusano Y, Takemoto T, Aoyagi K : Fear of Falling among Community-dwelling Elderly Women Receiving Visiting Nursing Services in Japan. *Acta Med. Nagasaki*, 52. 7-11, 2007.
 - 93) Tsuchiya T, Akamine S, Muraoka M, Kamohara R, Tsuji K, Urabe S, Honda S, Yamasaki N : Stage IA non-small cell lung cancer : Vessel invasion is poor prognostic factor and a new target of adjuvant chemotherapy. *Lung Cancer*, 56. 341-348, 2007.
 - 94) Shono I, Takamura N, Nakano M, Honda S : Effect of Volunteering at Welfare Facilities in Japanese Senior Citizens on Their Own Well-being. *Acta Med. Nagasaki*, 52. 45-51, 2007.
 - 95) Kawada H, Honda S, Takagi M : Comparative Laboratory Study on the Reaction of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus* to Different Attractive Cues in a Mosquito Trap. *J. Med. Entomol.*, 44. 427-432, 2007.
 - 96) Ugarte J, Abe Y, Fukuda H, Honda S, Takamura N, Kobuke Y, Ye Z, Aoyagi K, Mendoza O, Shinsho F : Self-perceived oral health status and influencing factors of the elderly residents of a peri-urban area of La Pa, Bolivia. *International Dental Journal*, 57(1). 19-26, 2007.
 - 97) Yamamoto T, Crump A : Japan's aid commitment to health and Africa. *Lancet*, 369. 28, 2007.
 - 98) 皆川 昇, 二見恭子 : マラリアと蚊. アフリカ昆虫学への招待 (京都大学学術出版会). 147-162, 2007.
 - 99) 皆川 昇, 二見恭子 : マラリアとハマダラカ. 昆虫と自然, 42(3). 4-7, 2007.
 - 100) 皆川 昇 : 昆虫が媒介する熱帯感染症. 昆虫と自然, 42(3). 2-3, 2007.
 - 101) Cai G, Moji K, Honda S, Wu X, Zhang K : Inequality and unwillingness to care for people living with HIV/AIDS: a survey of medical professionals in Southeast China. *AIDS Patient Care STDS*, 21(8). 593-601, 2007.
 - 102) Yamasaki R, Miyazaki Y, Miyazaki Y, Moriuchi Y, Tsutsumi C, Fukushima T, Yoshida S, Taguchi J, Inoue Y, Matsuo E, Imaizumi Y, Imanishi D, Fujimoto T, Tsushima H, Honda S, Hata T, Tsukasaki K, Tomonaga M : Small number of HTLV-1-positive cells frequently

- remains during complete remission after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation that are heterogeneous in origin among cases with adult T-cell leukemia/lymphoma. *Leukemia*, 21(6). 1212-1217, 2007.
- 103) **Murakami T, Ishimaru H, Sakamoto I, Uetani M, Matsuoka Y, Daikoku M, Honda S, Koshiishi T, Fujimoto T** : Percutaneous radiofrequency ablation and transcatheter arterial chemoembolization for hypervascular hepatocellular carcinoma: Rate and risk factors for local recurrence. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 30(4). 696-704, 2007.
 - 104) **Tsuchiya T, Hashizume S, Akamine S, Muraoka M, Honda S, Tsuji K, Urabe S, Hayashi T, Yamasaki N, Nagayasu T** : Upstaging by vessel invasion improves the pathological staging system of non-small cell lung cancer. *Chest*, 132(1). 170-177, 2007.
 - 105) **松山章子** : 健康への働きかけ—母と子の健康. テキスト 社会開発 (日本評論社) 編集 : 佐藤寛 + アジア経済研究所開発スクール. 2007.
 - 106) **Nakamura S, Hongo R, Moji K, Oku T** : Suppressive effect of partially hydrolyzed guar gum on transitory diarrhea induced by ingestion of maltitol and lactitol in healthy humans. *Eur J Clin Nutr*, 61. 1086-1093, 2007.
 - 107) **Hashizume M, Armstrong B, Hajat S, Wagatsuma Y, Faruque ASG, Hayashi T, Sack DA** : Association between climate variability and hospital visits for non-cholera diarrhoea in Bangladesh: effects and vulnerable groups. *International Journal of Epidemiology* , 36(5). 1030-1037, 2007.
 - 108) **Minakawa N, Futami K, Sonye G, Akweywa P and Kaneko S** : Predatory capacity of a shorefly, *Ochthera chalybescens*, on malaria vectors. *Malaria Journal*, 6(104). 2007.
 - 109) **Minakawa N, Sonye G, Futami K, Kaneko S and Fillinger U** : A large-scale field trial to evaluate the efficacy of bacillus larvicides for controlling malaria in western Kenya: Study design and methods. *Tropical Medicine and Health*, 35. 33-37, 2007.
 - 110) **Minakawa N** : Malaria and land modifications in the Kenyan highlands. *Forests and Society*. 137-138, 2007.
 - 111) **Shimada M, Ichinose Y, Kaneko S and Minakawa N** : Profile of the Nagasaki University Kenya Research Station and activities. *Tropical Medicine and Health*, 35(2). 29-31, 2007.
 - 112) **Zhou G, Munga S, Minakawa N, Githeko A Yan G** : Spatial relationship between adult malaria vector abundance and environmental factors in western Kenya highlands. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*, 77(1). 29-35, 2007.
 - 113) **Mwangangi J M, Mbogo CM, Muturi E J, Nzovu J G, Githure J I, Yan G, Minakawa N, Novak R, Beier J C** : Spatial distribution and habitat characterization of *Anopheles* larvae along

- the Kenyan coast. *Journal of Vector Borne Diseases*, 44(3). 44-51, 2007.
- 114) **Munga S, Minakawa N, Zhou G, Mushinzimana E, Okeyo-Owuor, J B, Githeko AK and Yan G** : Survivorship of immature stages of *Anopheles gambiae* s.l. (Diptera: Culicidae) in natural habitats in western Kenya highlands. *Journal of Medical Entomology* , 44(5). 758-764, 2007.
- 115) **皆川 昇, Honea J** : 昆虫とサケ. *昆虫と自然*, 10. 30-33, 2007.
- 116) **Kamo K, Kaneko S, Satoh K, Yanagihara H, Mizuno M, Sobue T** : A Mathematical Estimation of True Cancer Incidence Using Data from Population-based Cancer Registries. *Jpn J Clin Oncol*, 37(2). 150-155, 2007.
- 117) **Cai G, Moji K, Wu X, Zhang K** : Knowledge, attitudes, beliefs, and practices of Chinese migrants in Nairobi, Kenya and Dar es Salaam, Tanzania toward HIV/AIDS. *Tropical Medicine and Health*, 35(1). 11-18, 2007.
- 118) **Ugarte J, Abe Y, Fukuda H, Honda S, Takamura N, Kobuke Y, Ye Z, Aoyagi K, Mendoza O, Shinsho F** : Self-perceived oral health status and influencing factors of the elderly residents of a peri-urban area of La Paz, Bolivia. *Int Dent J*, 57. 19-26, 2007.
- 119) **花田裕子, 永江誠治, 大石和代, 本田純久** : 潜在的児童虐待スクリーニング尺度の基準関連尺度による信頼性・妥当性. *保健学研究*, 19. 51-58, 2007.
- 120) **Wahid I, Sunahara T, Mogi M** : The Hypopharynx of Male and Female Mosquitoes. *The Open Entomology Journal*, 1. 1-6, 2007.
- 121) **Hayashi Y, Murata F, Hashizume M, Nazrul I** : 2008 Damage of the cyclone "Sidr" in Bangladesh in November, 2007. *Journal of Natural Disaster Science* , 26. 391-397, 2007.

－共同研究室－

- 122) **一ノ瀬昭豊, 和田昭裕** : 燐タングステン酸およびモリブデン酸アンモニウムによるグラム陰性菌のネガティブ染色法の改良. *医学生物学電子顕微鏡技術学会会誌*, 21(1). 1-6, 2007.
- 123) **一ノ瀬 昭豊, モハメド アリムル イスラム, 小林信之, 足立 圭, 森田公一** : 酢酸ウラニルに代わるウイルスのネガティブ染色法の開発. *医学生物学電子顕微鏡技術学会会誌*, 21(1). 93-98, 2007.

10. 2 学会発表演題

- 1) 久保嘉直, 吉居廣朗, 神山陽香, 田中勇悦, 佐藤裕徳, 山本直樹: HIV-1細胞内侵入におけるERMファミリー蛋白質の関与. 日本ウイルス学会, 札幌, 2007年10月21-23日
- 2) 吉居廣朗, 神山陽香, 佐藤裕徳, 山本直樹, 久保嘉直: エンドサイトーシス阻害剤のCD4非依存性 HIV-1感染に対する影響. 日本ウイルス学会, 札幌, 2007年10月21-23日
- 3) 神山陽香, 吉居廣朗, 佐藤裕徳, 山本直樹, 久保嘉直: HIV-1感染における膜裏打ち蛋白質の関与:RNAiによる網羅的解析. 日本ウイルス学会, 札幌, 2007年10月21-23日
- 4) 神山陽香, 吉居廣朗, 田中勇悦, 佐藤裕徳, 山本直樹, 四童子好廣, 久保嘉直: ヒト免疫不全症ウイルス 1 型の感染における非環式レチノイドの効果. 日本ビタミン学会, 佐世保, 2007年 5 月24-25日
- 5) 中村三千男, 高橋 敬, 前川知之, 栗林 太, 中村三千男: gp91phox細胞内領域のin silico構築. MPO研究会, 大阪, 2007年 9 月22-23日
- 6) 中村三千男, TABA Shukor, 栗林 太, 大海 忍, 岡田秀親: 抗ヒトgp91phox相補ペプチドによるスーパーオキシド産生制御の試み. 第15回食細胞機能異常症研究会, 東京, 2007年12月14日
- 7) Futoshi Kuribayashi, Yoshito Fujii, Tomoyuki Maekawa, Kimiyoshi Kohda, Kinuya Toda and Michio Nakamura: gp91phoxの細胞外部分を認識する抗体, 7D5の可変領域の遺伝子クローニングと構造モデル. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会, 横浜, 2007年12月11日-15日
- 8) 上村春樹, 加藤美枝, 神原廣二, Schenkman S, Rubin-De-Celis SSC, Yoshida N: Trypanosoma cruzi細胞侵入とトランスシアリダーゼの多様性. 第76回日本寄生虫学会大会, 吹田, 2007年 3 月29-30日
- 9) Rungruang T, Putaporntip C, Jongwutiwes S, 金子 修: 三日熱マラリア原虫ロプトリータンパク質への選択圧. 第15回分子寄生虫学ワークショップ, 草津, 2007年 7 月25-28日
- 10) 金子 修: マラリア原虫の赤血球侵入の分子基盤 ―熱研での私的将来構想―. 第 6 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム, 松山, 2007年10月27-28日
- 11) Funakoshi T, Maeshima K, Yahata K, Imamoto F, Imamoto N: Two Distinct Human Pom121 Genes: Requirement for the Formation of Nuclear Pore Complexes. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007年12月11日-15日
- 12) 佐々木ゆかり, 曽根岳史, 矢幡一英, 今本文男: 真核細胞内におけるオペロン型マルチ遺伝子発現クローンの翻訳機構の解析と, MAR/SAR及びcHS4が発現レベルに及ぼす効果. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007

年12月11日－15日

- 13) **矢幡一英, 前島一博, 曾根岳史, 安藤太一, 佐々木ゆかり, 今本尚子, 今本文男**：インスレーター/バウンダリーによる隣接遺伝子間に起こる転写干渉効果の緩和. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007年12月11日－15日
- 14) **安藤太一, 矢幡一英, 曾根岳史, 今本文男**：タンデム型マルチ遺伝子発現クローンにおける転写干渉のプロモータードメインを用いた緩和. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007年12月11日－15日
- 15) **井上 健, 曾根岳史, 矢幡一英, 今本文男**：テトラサイクリンによる条件誘導発現を用いた2種遺伝子の共発現を制御する系の構築. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007年12月11日－15日
- 16) **曾根岳史, 井上 健, 西海史子, 佐々木ゆかり, 矢幡一英, 安藤太一, 岸根弘依, 今本文男**：Gateway技術で構築された資産を活用したタンパク質間相互作用検出系の開発. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007年12月11日－15日
- 17) **岸根弘依, 曾根岳史, 西海史子, 矢幡一英, 佐々木ゆかり, 安藤太一, 井上 健, 今本文男**：1細胞の染色体上のFRTとLox部位へ異なるマルチ遺伝子発現クローンを重複導入する方法. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会), 横浜, 2007年12月11日－15日
- 18) **橘 裕司, 柳 哲雄, Pandey K, 程 訓佳, Sherchand JB, 神原廣二**：アカゲザル由来病原アメーバ株の赤痢アメーバとの遺伝子的差異について. 第76回日本寄生虫学会大会, 吹田, 2007年3月29－30日
- 19) **前野芳正, 中澤秀介, Le Duc Dao, Nguyen Van Tuan, Nguyen Duc Giang, Truong Van Hanh, Le Khanh Thuian, 谷口孝喜**：熱帯熱マラリア原虫ガメトサイトの分子生物学的調査とガメトサイト保有に関する要因の分析. 第76回日本寄生虫学会大会, 吹田, 2007年3月29－30日
- 20) **石上盛敏, 中澤秀介, Duc Dao Le, Van Tuan Nguyen, Quang Phuc Bui, Duc Giang Nguyen, 狩野繁之**：ベトナム南部のクロロキン耐性マラリア原虫集団のマイクロサテライトDNA多型解析. 第76回日本寄生虫学会大会, 吹田, 2007年3月29－30日
- 21) **山下嘉郎, 土橋佳子, 田中健之, 寺田真由美, 古本朗嗣, 本田章子, 森本浩之輔, 有吉紅也**：当科でGM-CSF吸入療法を施行した特発性肺胞蛋白症5例と分類不能の肺胞蛋白症1例の検討. 第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会, 大分

- 22) 嘉村洋志, 本田章子, 黒木麗喜, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: 蜂窩織炎を認めたMSSA硬膜外膿瘍の一例. 第31回長崎感染症研究会, 長崎, 2007年1月27日
- 23) 田中健之, 黒木麗喜, 森本浩之輔, 有吉紅也: 2菌種同定された肺ノカルジア症で肺癌との鑑別が困難であった一例. 第58回日本呼吸器学会九州地方会春季大会, 長崎, 2007年6月16日
- 24) 川上健司, 小山和彦, 原田義高, 山領 豪, 森本浩之輔, 有吉紅也: 右大腿骨頸部骨折後に発症した肺脂肪塞栓症の1例. 第58回日本呼吸器学会九州地方会春季大会, 長崎, 2007年6月16日
- 25) 小山和彦, 原田義高, 山領 豪, 川上健司, 森本浩之輔, 有吉紅也: 喀血後に気管支内血栓が残存し, 気管支鏡下で摘出を要した一例. 第58回日本呼吸器学会九州地方会春季大会, 長崎, 2007年6月16日
- 26) 宮城 啓, 只野昌之: ラオス人民民主共和国の在留邦人におけるデングウイルス感染症. 第11回日本渡航医学会, 東京, 2007年7月20-21日
- 27) 有吉紅也, 森 正彦, 椎野禎一郎, 吉田レイミント: HIVに感染した夫婦間におけるHLAクラスIアレルの相違とGagタンパクアミノ酸変異. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌, 2007年10月21日-23日
- 28) 富永典男, 長沼成子, 森内昌子, 有吉紅也, 森内浩幸: 第55回日本ウイルス学会学術集会, タイ北部HIV感染者コホートにおけるGBV-Cの分子疫学的調査. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌, 2007年10月21日-23日
- 29) 本田章子, 齊藤麻理子, 森本浩之輔, 有吉紅也, 大石和徳: デングウイルス二次感染症におけるマクロファージによる血小板貪食クリアランスの亢進. 第50回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第55回日本化学療法学会西日本支部総会, 神戸, 2007年10月29日-31日
- 30) 陳 蒙, 黒木麗喜, 吉嶺裕之, 有吉紅也, 大石和徳: HIV感染成人における肺炎球菌コンジュゲートワクチン接種による血清中オプソニン活性の増強効果. 第50回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第55回日本化学療法学会西日本支部総会, 神戸, 2007年10月29日-31日
- 31) 有吉紅也: 一般外来で遭遇するHIV・エイズ. 第279回日本内科学会九州地方会・第36回日本内科学会九州支部生涯教育講演会, 長崎, 2007年11月18日
- 32) 小笠原徹, 中間貴弘, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 古巢 朗, 原田孝司, 有吉紅也: 診断に苦慮したGoodpasture's diseaseの1例. 第279回日本内科学会九州地方会・第36回日本内科学会九州支部生涯教育講演会, 長崎, 2007年11月18日
- 33) 齊藤信夫, 大住元秀明, 宮下賜一郎, 大角光彦, 新野大介, 伊東正博: ANCA関連血管炎

- の加療中，播種性アスペルギルス症を併発した1剖検例．第279回日本内科学会九州地方会・第36回日本内科学会九州支部生涯教育講演会，長崎，2007年11月18日
- 34) **森本浩之輔**：呼吸器疾患におけるアポトーシス細胞クリアランス～スタチンによる肺気腫の治療の可能性～．第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，大分，2007年11月22日－23日
- 35) **山下嘉郎，寺田真由美，宮城 啓，土橋佳子，森本浩之輔，有吉紅也，高橋 淳**：第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，当科で経験した気管源性神経腫の1例．第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，大分，2007年11月22日－23日
- 36) **齊藤信夫，古本朗嗣，森本浩之輔，林徳真吉，有吉紅也**：第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，心タンポナーデと腫瘍マーカー著明高値を呈した肺原発印環細胞癌の1例．第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，大分，2007年11月22日－23日
- 37) **池田秀樹，吉田俊昭，川下雄丈，森本浩之輔，有吉紅也**：第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，薄壁空洞を呈した肺大細胞癌の1例．大分，2007年11月22日－23日
- 38) **高木理博，藤田紀代，天野秀明，森本浩之輔，有吉紅也**：第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，細気管支肺胞上皮癌と鑑別困難なMMPHの1症例．大分，2007年11月22日－23日
- 39) **山田晃嗣，古本朗嗣，森本浩之輔，土橋佳子，有吉紅也**：第59回日本結核病学会九州地方会総会・第59回日本呼吸器学会九州地方会総会，黄色爪症候群の1例．大分，2007年11月22日－23日
- 40) **有吉紅也**：発展途上国における医療現場と分子レベルの医科学研究との架け橋．第21回日本エイズ学会学術集会・総会，広島，2007年11月28日－30日
- 41) **森内浩幸，森内昌子，有吉紅也**：タイ北部HIV感染者コホートにおけるGB virus-C (GBV-C)の分子疫学的調査．第21回日本エイズ学会学術集会・総会，広島，2007年11月28日－30日
- 42) **土屋菜歩，Archawin Rojanawiwat, Pathom Sanwayanwalert, Panita Pathivanich, 有吉紅也**：北タイにおけるHAART療法導入前後の日和見感染症罹患率の推移に関する研究．第21回日本エイズ学会学術集会・総会，広島，2007年11月28日－30日
- 43) **土屋菜歩，Panita Pathivanich, 安田直史, Pathom Sanwayanwalert, 有吉紅也**：タイ国ランパーン県におけるジェネリック抗HIV薬治療失敗に影響する人類学的，社会的，行動学的，臨床的因子の研究．第21回日本エイズ学会学術集会・総会，広島，2007年11月28日－30日

- 44) 森 正彦, 椎野禎一郎, 吉田レイミント, 有吉紅也: 北タイのHIV感染夫婦におけるgag遺伝子系統樹解析. 第21回日本エイズ学会学術集会・総会, 広島, 2007年11月28日-30日
- 45) 礪山友子, 石田正之, 岡田光生, 青野 礼, 栄枝弘司, 浜重直久, 熊沢秀雄, 森本浩之輔, 有吉紅也: ガストログラフィン法を用いて完全駆虫をしえた日本海裂頭条虫症の1例. 第96回日本内科学会四国地方会, 高知, 2007年5月6日
- 46) 高矢憲一, 石田正之, 中山修一, 中間貴弘, 浜重直久, 森本浩之輔, 有吉紅也: 2年の潜伏期間を経て再発した*P. vivax* の1例. 第96回日本内科学会四国地方会, 高知, 2007年5月6日
- 47) 枝川永二郎, 中山修一, 石田正之, 川井和哉, 栄枝弘司, 山崎正博, 深谷眞彦, 浜重直久, 中間貴弘: 急速な経過で発症, 軽快を認めた自殺目的薬物中毒患者に発症したEosinophilic pneumoniaの1例. 第96回日本内科学会四国地方会, 高知, 2007年5月6日
- 48) 石田正之, 鋤持広知, 田川曉大, 小松 茂, 小倉高志, 山本 彰, 森本浩之輔, 有吉紅也: 調合漢方薬による薬剤性肺炎の一例. 第42回日本呼吸器学会中国四国地方会, 広島, 2007年7月6日-7日
- 49) 石田正之, 中間貴弘, 山本 彰, 森本浩之輔, 有吉紅也, 浜重直久, 中島喜美子: ステロイド中止後より皮膚症状の出現・増悪を認めた肺野先行皮膚筋炎(DM)の一例. 第42回日本呼吸器学会中国四国地方会, 広島, 2007年7月6日-7日
- 50) 石田正之, 中間貴弘, 鈴木 基, 山本 彰, 浜重直久, 森本浩之輔, 有吉紅也: 当院における肺結核症例の検討~Doctor's delayを中心に~. 第42回日本呼吸器学会中国四国地方会, 広島, 2007年7月6日-7日
- 51) 石田正之, 山本 彰, 中間貴弘, 鈴木 基, 森本浩之輔, 有吉紅也: 頻回に繰り返す肺炎の根治目的に下葉切除を行った限局性気管支狭窄症の一例. 第30回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会, 長崎, 2007年8月24日
- 52) 延末謙一, 宮城 啓, 森本浩之輔, 渡部幹次, 長谷川英男, 佐藤 宏, 有吉紅也: タンザニアでアメリカ鉤虫と動物由来糞線虫に重複感染した1例. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日-13日
- 53) 大槻祐喜, 石田正之, 森本浩之輔, 有吉紅也: 乳頭ヘルペスの一例. 第77回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 佐賀, 2007年11月15日-16日
- 54) 齊藤信夫, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 有吉紅也: 丘疹壞疽性結核疹を認めた肺結核, 粟粒結核の一例. 第77回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 佐賀, 2007年11月15日-16日
- 55) 町田崇博, 石田正之, 葛籠幸栄, 森本浩之輔, 有吉紅也: フェニトインによるDrug-induced hypersensitivity syndrome(DIHS)の2例. 第77回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 佐賀, 2007年11月15日-16日

- 56) 三宅千智, 石田正之, 氏原 瞳, 森本浩之輔, 有吉紅也: 人咬傷による壊死性筋膜炎の1例. 第77回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 佐賀, 2007年11月15日-16日
- 57) 延末謙一, 宮城 啓, 森本浩之輔, 有吉紅也: タンザニアでアメリカ鉤虫と動物由来糞線虫に重複感染した一例. 第77回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 佐賀, 2007年11月15日-16日
- 58) 阿部眞由美, Muhoho N. 三井義則, 砂原俊彦, 門司和彦, 嶋田雅暁, 青木克己: ケニア国沿岸州クワレ地区ムサンガタム村に供与された安全水施設のビルハルツ住血吸虫の感染予防効果. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 59) 青木克己, 大神敬子, 三浦光政, 草場照代: *Brugia pahangi* 各発育期幼虫の血清への走化性. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 60) 青木克己: 海外での感染症対策を経験して. 第80回日本細菌学会総会, 大阪, 2007年3月26日-28日
- 61) 一ノ瀬昭豊: ウイルスのネガティブ染色技法の開発-酢酸ウラニル代替え染色剤を探る-. 第20回九州電子顕微鏡技術研究会, 久留米(福岡), 2007年9月8日
- 62) 菊池三穂子, 安波道朗, 奥田尚子, 塚原高広, ラム コージ, 金子 明, 平山謙二: 遺伝子多型の地理的分布とマラリア感染による選択圧. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 63) 山崎朗子, 安波道朗, 高木明子, 石井一成, 菊池美穂子, 平山謙二: 熱帯熱マラリア高度浸淫地における重症貧血の発症メカニズムの解明. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 64) 平山謙二, 菊池三穂子, Honggen Chen, Shuying Xie, Jun Ge Dan Lin Dan: 日本住血吸虫の感染負荷量を決定する循環抗原測定系の開発. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 65) Florencia Puerto Del, 菊池三穂子, J. Eiki Nishizawa, Naomi Iihoshi, Syelin Roca, Ug Freddy Velarde, A Luis Renjel, 三浦左千夫, 安波道朗, 平山謙二: Evaluation of PCR method as a tool for Diagnosis of Chagas Disease in healthy and infected population in Bolivia. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 66) 曾根敏雄, 大城 聡, 松下 祥, 平山謙二: *Trypanosoma cruzi* に発現している主要タンパク質のプロテオーム解析による同定. 第76回日本寄生虫学会大会, 大阪市, 2007年3月29日-30日
- 67) 平山謙二: デング出血熱の感受性遺伝子の解明. 第18回日本臨床微生物学会総会, 長崎市, 2007年2月17日-18日
- 68) 山崎朗子, 安波道郎, 高木明子, 石井一成, 菊池三穂子, 平山謙二: ヒト臍帯血造血幹細胞

胞移入NOGマウスの表現型の長期観察．第16回日本組織適合性学会大会，京都，2007年9月9日－11日

- 69) 安波道郎, Nguyen Thi Phuong Lan, 菊池三穂子, 奥田尚子, 堀江仁美, Vu Thi Que Huong, 森田公一, 平山謙二：デングウイルス感染症の重症化を規定する遺伝要因の探索．日本人類遺伝学会第52回大会，東京都，2007年9月12日－15日
- 70) Del Puerto Florencia, 菊池三穂子, Nishizawa Eiki, Iihoshi Keiko, Velarde Freddy, Renjel Luis, Roca Jelin, 三浦左千夫, 肥後広夫, 平山謙二：病態の異なる慢性期シャーガス病疾患より検出されたクルーズトリパノソーマ原虫の系統解析 (Sub-lineage analysis of *Trypanosoma cruzi* detected in the blood samples of different clinical forms of Chagas disease in Bolivia.) 第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 71) 菊池三穂子, Chen Honggen, Xie Shuying, Ge Jun, Dan Dan Lin, 平山謙二：日本住血吸虫の感染負荷量を決定する循環抗原測定系の開発 Development of diagnostic ELISA system that detects active infection with *S.japonicum*．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 72) Hamed Abdel-Hafeez E, 菊池三穂子, 渡部幹次, 伊藤 敬, 平山謙二：新規日本住血吸虫症感染防御ワクチン候補分子の探索 (Proteome approach for identification of protective vaccine candidate antigens for *Schistosoma japonicum* infection)．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 73) 菊池三穂子, エクラス・ハメド・ハーフィズ, 渡部幹次, 伊藤 敬, 平山謙二：日本住血吸虫の放射線照射セルカリアに誘導される感染防御機構の解析．第6回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム，松山，2007年10月27日－28日
- 74) Yasunami Michio, Nguyen Thi Phuong Lan, Kikuchi Mihoko, Okuda Naoko, Horie Hitomi, Nguyen Tien Huy, Vu Thi Que Huong, Morita Kouichi, Hirayama Kenji：デングウイルス感染症重症化に関わる宿主遺伝要因の解明 (Host genetic factors for severe dengue virus infection)．第37回日本免疫学会総会・学術集会，東京，2007年11月20日－22日
- 75) Aiba Yoshihiro, Matsuyama Mutsumi, Komori Atsumasa, Migita Kiyoshi, Yatsuhashi Hiroshi, Ishibashi Hitomi, Kondo Hisayoshi, Okuda Naoko, Kikuchi Mihoko, Yasunami Michio, Nakamura Minoru：Genetic polymorphism of HLA-DR and cytokine genes in Japanese patients with primary biliary cirrhosis．第37回日本免疫学会総会・学術集会，東京，2007年11月20日－22日
- 76) 依田健志, 峰松和夫, 後藤健介, 樂得康之, 溝田 勉：インドネシア・西ヌサトゥンガラ州マラリアコントロール事業での健康教育介入効果．第66回日本公衆衛生学会総会，松山市，2007年10月24日－26日

- 77) 磯 望, 益田俊郎, 岡村亜矢, 井上文和, 宗 建郎, 黒木貴一, 後藤健介: 福岡西方沖地震の液状化と警固断層周辺のGISによる検討. 2006年度福岡地理学会研究発表会, 福岡, 2007年1月28日
- 78) 吉井文郷, 後藤恵之輔, 後藤健介: 台風13号による塩害調査(その1) 衛星リモートセンシング. 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 福岡, 2007年2月17日
- 79) 後藤恵之輔, 小林隆洋, 後藤健介: 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 台風13号による塩害調査(その2) 地上リモートセンシング. 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 福岡, 2007年2月17日
- 80) 本田晃三, 後藤恵之輔, 後藤健介: 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 台風13号による塩害調査(その3) 現地調査と植生塩害実験. 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 福岡, 2007年2月17日
- 81) 黒木貴一, 磯 望, 辻 真弓, 後藤健介, 黒田圭介: 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 空中写真による斜面災害地の土地被覆分類一相知町を対象として. 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 福岡, 2007年2月17日
- 82) 今岡芳子, 後藤恵之輔, 後藤健介: 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 「災害民話」の創作と伝承に関する予察的研究. 平成18年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 福岡, 2007年2月17日
- 83) 黒木貴一, 後藤健介, 磯 望: デジタルカメラによるリモートセンシングの試み. 2007年日本地理学会春季学術大会, 東京, 2007年3月20日-22日
- 84) 後藤健介, 西木真織, 黒木貴一, 磯 望: 衛星データによる環境変化把握の試みーLANDSATデータとQuickBirdデータを用いた太宰府市周辺地域の環境解析. 2007年日本地理学会春季学術大会, 東京, 2007年3月20日-22日
- 85) 宗 建郎, 益田俊郎, 岡村亜矢, 磯 望, 黒木貴一, 後藤健介: 福岡県西方沖地震の噴砂と警固断層周辺の土地利用のGISによる検討. 2007年日本地理学会春季学術大会, 東京, 2007年3月20日-22日
- 86) 後藤健介, 後藤恵之輔, 青山清道, 溝田 勉: 停電災害時における危機問題と危機意識. 日本安全教育学会大会 第8回大阪大会, 大阪, 2007年9月20日-21日
- 87) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介: 雲仙噴火以降の植物活性度変化と土地条件. 日本地理学会2007年秋季学術大会, 熊本, 2007年10月6日-8日
- 88) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介, 黒田圭介: 災害と環境調査における空中写真のGIS解析. 日本応用地質学会平成19年度研究発表会, 大阪, 2007年10月11日-12日
- 89) 後藤健介, ブ ディン ティエム, 谷村 晋, 野内英樹, 溝田 勉: ベトナムにおける衛生

データを用いた環境変動解析結果の疾病対策への活用の試み. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日-13日

- 90) 後藤健介: GIS等を用いた安全情報の収集・活用. 日本市民安全学会第4回大阪・堺大会, 大阪, 2007年11月17日
- 91) 峰松和夫: 教科体育からみた安全能力向上の重要性-Human Touchによる安全能力向上-. 日本市民安全学会第4回大阪・堺大会, 大阪, 2007年11月17日
- 92) 峰松和夫, 依田健志, 後藤健介, 樂得康之, 田原靖明, 溝田 勉: 日本人成人女性における肥満判定基準の検討. 日本公衆衛生学会第66回愛媛大会, 愛媛, 2007年10月24日-26日
- 93) 伊澤晴彦, 中口 梓, 星野啓太, 佐々木年則, 津田良夫, 井上真吾, 森田公一, 比嘉由紀子, 川田 均, 高木正洋, 千屋誠造, 渡辺 護, 斎藤一三, 小林睦夫, 澤邊京子: 国内捕集コガタアカイエカからの日本脳炎ウイルスの検出および系統解析. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日-4日
- 94) 李 時雨, 葛西真治, 駒形 修, 津田良夫, 比嘉由紀子, Weerasinghe Indira, 小林睦夫, 富田隆史: コガタアカイエカ殺虫剤抵抗性アセチルコリンエステラーゼ遺伝子の東アジアにおける分布. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日-4日
- 95) 澤邊京子, 伊澤晴彦, 比嘉由紀子, 葛西真治, 中口 梓, 星野啓太, 佐々木年則, 津田良夫, 小林睦夫: イエカ属およびヤブカ属蚊の吸血嗜好性から見た疾病媒介能. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日-4日
- 96) 川田 均, 比嘉由紀子, Nguyen Thi Yen, Nguyen Thuy Hoa, Nguyen Thuy Hoa, Truong Minh Sang, Nguyen Van Dan, Pham Ngoc Dinh, Pham Ngoc Dinh, 高木正洋: メトフルトリンを含有した常温揮散製剤の蚊に対する空間忌避効果に関する検討(7)ベトナム・ハイフォン市ドソンの民家におけるネッタイシマカを対象とした新樹脂製剤の残効性試験. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日-4日
- 97) 川田 均, Temu Emmanuel A. Minjas Japhet N. 松本 修, 岩崎智則, 都野展子, 高木正洋: メトフルトリンを含有した常温揮散製剤の蚊に対する空間忌避効果に関する検討(8)タンザニア・バガモヨの民家におけるハマダラカ群を対象とした新樹脂製剤の残効性試験. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日-4日
- 98) 津田良夫, 金京純, 片野理恵, 比嘉由紀子, 星野啓太, 葛西真治, 林 利彦, 澤邊京子: 野外より採集された蚊の平均寿命について. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日-4日
- 99) 都築 中, ブ トランズオック, 比嘉由紀子, レ ビエトロ, レ トランギヤ, トン バンアン, ブイ カムニョン, ブイ タンフー, 後藤健介, 野内英樹, ギュエン ティエン, 高木正洋: ベトナム国ナチャン市におけるネッタイシマカの対策上重要な発生源容器に関する

- 研究. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日－4日
- 100) 杉浦正昭, 高木正洋, 川田 均: 虫体各部位への殺虫エアゾール原液局所施用における速効性比較. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日－4日
- 101) 杉浦正昭, 杉山隆史: アルゼンチンアリの殺虫性感受性. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日－4日
- 102) 杉浦正昭: 殺虫エアゾール粒子の虫体への付着状況が抗力に与える影響. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日－4日
- 103) 谷口委代, 中澤秀介, 佐藤良也, 高木正洋, 渡部久実: ベトナムのマラリア流行地におけるデング熱の侵淫状況. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日－13日
- 104) 阿部朋子, Tuong Trinh Dinh, Thieu Ngyen Quang, Hung Le Xuan, Thuan Le Khanh, 砂原俊彦, 中澤秀介, 本田純久, 高木正洋, 門司和彦: ベトナム南部の少数民族集落における蚊帳使用とマラリアの関連. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日－13日
- 105) Rivera Pilarita T, Crisostomo Bobby A, Villacorte Elena A, Escueta Aleyla D, Maekawa Y, Takagi M, Samaniego Jocelyn, Ebo Antonietta, Kano Shigeyuki: フィリピンの易被災地域における地理情報システムによるマラリアサーベイランス. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日－13日
- 106) 川田 均, 比嘉由紀子, Nguyen Thi Yen, Nguyen Thuy Hoa, 阿部眞由美, 角田 隆, 前川芳秀, 大橋和典, 高木正洋: ベトナム全土および長崎市中心部におけるアカイエカ群およびネッタシマカ・ヒトスジシマカ幼虫の採集とピレスロイドにタイする感受性調査(予報). 第60回日本寄生虫学会南日本支部大会・第57回日本衛生動物学会南日本支部大会, 熊本市, 2007年10月27日－28日
- 107) 大橋和典, 津田良夫, 高木正洋: 第60回日本寄生虫学会南日本支部大会・第57回日本衛生動物学会南日本支部大会, アカイエカ成虫における栄養生殖分離は適応的形質か?, 2007年10月27日－28日
- 108) 蔡 国喜, 門司和彦, 呉 小南, 帳 礼来, 播 宝駿: 東アフリカ在住の出稼ぎ中国人におけるエイズケアと健康教育の壁(在日中国人の医療機関受診における現状と問題点との比較). 第14回びわ湖国際医療フォーラム, 滋賀, 2007年1月13日
- 109) 中尾理恵子: 長崎県地域住民の精神的健康－生活習慣とGHQ12の関連について－. 第44回長崎県総合公衆衛生研究会, 長崎, 2007年3月9日
- 110) 堀尾政博, 北川雄大, 北田昇平, 宮岡 亮: シャーガス病のベクターである *Triatoma infestans* の卵に寄生する寄生蜂 *Telenomus fariai* の生態. 第59回日本衛生動物学会大会, 大阪市, 2007年4月2日－4日
- 111) 本田純久: チームワーク尺度の信頼性と妥当性の検討. 第9回産業保健マーケティング

研究会，大阪，2007年4月6日

- 112) **本田純久**：産業医による調査研究企画法．平成19年度産業衛生学会九州地方会，長崎，2007年6月29日－30日
- 113) **松山章子**：国際保健で働く！人材育成の新たなチャレンジ：国際保健人材育成のライフステージ別の取り組み．第22回国際保健医療学会全国総会，大阪，2007年10月7日－8日
- 114) **嶋田雅暁**：ケニア拠点における熱帯病研究の意義．第30回日本熱帯医学会九州支部大会，長崎市，2007年2月9日－10日
- 115) **皆川 昇，二見恭子**：DSSという基盤に載せるマラリア研究．第30回日本熱帯医学会九州支部会シンポジウム，2007年2月10日
- 116) **二見恭子，皆川 昇，金子 聡，一瀬休生，嶋田雅暁**：マラリア原虫と蚊の相互作用．第51回日本応用動物昆虫学会，広島，2007年3月27日－29日
- 117) **二見恭子，皆川 昇，金子 聡，一瀬休生，嶋田雅暁**：長崎大学ケニアプロジェクトとマラリア研究．第59回日本衛生動物学会大会，大阪市，2007年4月2日－4日
- 118) **二見恭子，皆川 昇，金子 聡，一瀬休生，嶋田雅暁**：長崎大学ケニアプロジェクトとマラリア研究．第76回日本寄生虫学会，大阪市，2007年3月29日－30日
- 119) **金子 聡**：熱帯病研究におけるDSS(demographic surveillance system)という基盤．第30回日本熱帯医学会九州支部会シンポジウム，長崎市，2007年2月9日－10日
- 120) **阿部朋子，Tuong TD, Thieu NgQ, Hung LQ, Thuan LK, 砂原俊彦，中澤秀介，高木正洋，門司和彦**：ベトナム南部の少数民族集落における蚊帳使用とマラリアの関連．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 121) **山本太郎**：日本政府・WHO西太平洋事務局 政策協議．日本政府・WHO西太平洋事務局，東京，2007年10月29日－30日
- 122) **江原雅彦，岩見 守**：ベトナムでのコレラ流行地におけるVibriophage検出の試み．第80回日本細菌学会総会，大阪，2007年3月26日－28日
- 123) **和田昭裕，高橋 章，平山壽哉**：第80回日本細菌学会総会，*H.pylori*の空胞化致死毒素(VacA)の毒素発現に対するBfilomysin A1とNPPBの効果．第80回日本細菌学会総会，大阪，2007年3月26日－28日
- 124) **久恒順三，平山壽哉**：*Helicobacter pylori* VacA毒素の毒性発現機序：転写因子に及ぼす影響．細菌学・若手コロッセウム，神戸市，2007年1月23日
- 125) **久恒順三，倉園久生，片方陽太郎，平山壽哉**：*H. pylori* VacAによるp38 MAP kinase活性化依存COX-2発現誘導を介したPGE2産生亢進作用．第80回日本細菌学会総会，大阪，2007年3月26日－28日
- 126) **赤田純子，中澤晶子，倉園久生，平山壽哉，中村和行**：*Helicobacter pylori* CagAは宿主細

- 胞のエンドサイトーシスの開始を阻害する．第80回日本細菌学会総会，大阪，2007年 3 月 26日－28日
- 127) 平山壽哉，磯本 一： *H. pylori* VacAによる胃株化細胞のp38MAPK/ATF-2経路を介したCOX-2発現亢進とPGE2産生．第13回日本ヘリコバクター学会，大津市，2007年 6 月21日－22日
- 128) 磯本一，平山壽哉：空胞化毒素VacAは食道細胞においてMAPK，NF-kB signaling を活性化する．第13回日本ヘリコバクター学会，大津市，2007年 6 月21日－22日
- 129) 赤田純子，青木浩樹，西川 潤，中澤晶子，倉園久生，平山壽哉，赤田倫治，中村和行：*Helicobacter pylori* CagAは宿主細胞のエンドサイトーシスの開始を阻害する．第13回日本ヘリコバクター学会，大津市，2007年 6 月21日－22日
- 130) 久恒順三，中山真彰，磯本 一，倉園久生，平山壽哉：*H. pylori* VacAによるマクロファージ系細胞U937からのインターロイキン-8産生機序の解析．第60回日本細菌学会九州支部総会，長崎市，2007年10月12日－13日
- 131) 重松和人，鳥山 寛，中谷 晃，田口 尚，高原 耕，河合紀生子：副腎皮質腺腫の残存皮質における機能性病変の検討．第96回日本病理学会，大阪，2007年 3 月13日－15日
- 132) 鳥山 寛，千馬正敬，重松和人，高原 耕：ケニア内陸部における膀胱癌の組織学的特徴．第96回日本病理学会，大阪，2007年 3 月13日－15日
- 133) 市川辰樹，中尾一彦，宮明寿光，藤本真澄，柴田英貴，秋山祖久，三馬 聡，浜崎圭輔，鳥山 寛，江口勝美：NAFLD治療におけるMetformin+Pioglitazon併用療法の位置付け．第43回日本肝臓学会総会，東京，2007年 5 月31日－ 6 月 1 日
- 134) 久保 亨，森田公一，Pawaska Janusz, Leroux Chantel：Rift Valley feverウイルスに対するLAMP法の確立．大分
- 135) 井上真吾，福家 功，石川豊数，Posadas Guillermo, Parquet Maria Del Carmen，長谷部 太，森田公一：西ナイルウイルス不活化ワクチンの開発と有効投与量の評価．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 136) 余 福勲，長谷部 太，井上真吾，Mathemge Edward，木下一美，森田公一：Mosquito La protein binds to the 3' end of the positive and negative strand JEV RNAs and inhibits RNA replication in vitro．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 137) 齋藤麻理子，本田章子，井上真吾，有吉紅也，大石和徳：デングウイルス二次感染症におけるマクロファージによる血小板貪食クリアランスの亢進．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007年10月12日－13日
- 138) 木下一美，Baclig Michael O, Gervacio Leonora TS, Matias Ronald R, Natividad Filipinas F, Nguyen Thanh Hung, Vu Thi Que Huong，井上真吾，森田公一，長谷部 太：フローサイトメトリーを用いたデング患者血液の解析．第48回日本熱帯医学会大会，別府，2007

年10月12日－13日

- 139) Parquet Maria Del Carmen, Nga Phan Thi, 余福 勲, 鍋島 武, Parida Manmohan, Thuynghuyen Nguyen Thanh, Suu Pham Thi, 伊藤 敬, Posadas Guillermo, 森田公一: Isolation and characterization of a novel virus isolated from mosquitoes in Vietnam. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日－13日
- 140) Posadas Guillermo, 鍋島 武, Parquet Maria Del Carmen, 余福 勲, Suu Pham Ti, Thuy Nguyen Thanh, Nga Phan Thi, 井上真吾, 長谷部 太, 森田公一: ベトナム北部の蚊からのBanna virus近縁ウイルスの分離. 第48回日本熱帯医学会大会, 別府, 2007年10月12日－13日
- 141) 村木優子, 松浦正明, 福家 功, 真鍋貞夫, 石川豊数, 奥野良信, 森田公一: ウエストナイルウイルス感染を防御する中和抗体価. 第11回日本ワクチン学会学術集会, 横浜, 2007年12月8日－9日
- 142) 安井文彦, 甲斐知恵子, 北畠正大, 井上真吾, 米田美佐子, 横地祥司, 加瀬良一, 森田公一, 松島綱治, 志田壽利, 水野喬介, 小原道法: SARS-CoV全構造タンパク質発現型RVV免疫マウスでのSARS-CoV感染後に起きる肺炎増悪の解析. 横浜, 2007年12月8日－9日
- 143) 長谷部 太: フローサイトメトリーによるデングウイルス患者血液の解析. 第14回トガ・フラビ・ペスチウイルス研究会, 札幌市, 2007年10月20日
- 144) 森田公一: 第55回日本ウイルス学会, ベトナムにおける長崎大学感染症研究教育プロジェクト. 札幌市
- 145) 安井文彦, 甲斐知恵子, 北畠正大, 井上真吾, 米田美佐子, 森田公一, 松島綱治, 小原道法: SARS-CoVヌクレオキャプシドタンパク質の免疫によるSARS-CoV感染後の肺炎重篤化への関与. 第55回日本ウイルス学会, 札幌市, 2007年10月21日－23日
- 146) Parquet Maria del Carmen, 余福 勲, 鍋島 武, Posadas Guillermo, 長谷部 太, 森田公一: New virus isolated from mosquitoes in Vietnam. 第55回日本ウイルス学会, 札幌市, 2007年10月21日－23日
- 147) 余 福勲, 長谷部 太, 井上真吾, 木下一美, 森田公一: Mosquito La protein binds to the 3' end of the positive and negative strand JEV RNAs and inhibits RNA replication in vitro. 第55回日本ウイルス学会, 札幌市, 2007年10月21日－23日
- 148) 久保 亨, 森田公一: Rift Valley feverウイルスに対するLAMP法の確立. 札幌市
- 149) 鍋島 武, Parquet Maria del Carmen, 余福 勲, Posadas Guillermo, 井上真吾, 長谷部 太, 森田公一: ベトナム北部の蚊からのBanna virus近縁ウイルスの分離. 第55回日本ウイルス学会, 札幌市, 2007年10月21日－23日
- 150) 井上雄喜, 田中伸幸, 井上真吾, 森田公一, 庄 敏, 服部俊夫, 菅村和夫: ACE2細胞

内領域欠損受容体を介したSARS-CoV感染機構. 第55回日本ウイルス学会, 札幌市, 2007年10月21日－23日

- 151) **加藤大介, 左 一八, 長谷部 太, 森田公一**: フラビウイルス結合性糖鎖分子の構造と機能. 第55回日本ウイルス学会, 札幌市, 2007年10月21日－23日

10. 3 国際会議における研究発表

- 1) **Cao J, Kaneko O, Thongkukiatkul A, Tachibana M, Otsuki H, Sattabongkot J, Tsuboi T, Torii M** : *Plasmodium falciparum* rhoptry neck protein (PfRON2) expressed at both erythrocytic and pre-erythrocytic invasive parasites. The 7th Awaji International Forum on infection and Immunity, Sep 2-5, 2007, Awaji, Japan
- 2) **Tsuboi T, Jin L, Takeo S, Iriko H, Kaneko O, Sattabongkot J, Torii M** : Novel sporozoite antigen discovery of *Plasmodium falciparum* screened using human immunesera. The 7th Awaji International Forum on infection and Immunity, Sep 2-5, 2007, Awaji, Japan
- 3) **Cao J, Kaneko O, Thongkukiatkul A, Tachibana M, Otsuki H, Sattabongkot J, Tsuboi T, Torii M** : A complex formation of Rhoptry Neck Protein 2 with a microneme protein, AMA1, in *Plasmodium falciparum*. The 13th Korea-Japan Parasitologists' seminar (Forum Cheju 13), Oct 24, 2007, Chuncheon, Korea
- 4) **Jin L, Takeo S, Iriko H, Kaneko O, Sattabongkot J, Torii M, Aguiar JC, Tsuboi T** : 56th annual meeting, Novel sporozoite antigen discovery of *Plasmodium falciparum* screened using human immunesera. The American Society of Tropical Medicine and Hygiene, Nov 4-8, 2007, Philadelphia, USA
- 5) **Pandey K, Yanagi T, Pandey BD, Mallik AK, Sherchand JB, Kanbara H** : 56th annual meeting, Single Strand Conformation Polymorphism and Infection in Mice of Visceral Leishmaniasis Isolated from Nepales Patients. The American Society of Tropical Medicine and Hygiene, Nov 4-8, 2007, Philadelphia, USA
- 6) **Furumoto A, Sueyasu T, Aizawa H, Ohkusa Y, Oishi K.** : Additive effects of pneumococcal polysaccharide vaccine in combination with influenza vaccine on acute exacerbation in patients with chronic lung diseases. US-Japan Cooperative Medical Science Program Acute Respiratory Infections (ARI) Panel. 11th Annual Meeting, Jan 22-23, 2007, Osaka, Japan
- 7) **Furumoto A, Sueyasu T, Aizawa H, Ohkusa Y, Oishi K.** : Additive effects of pneumococcal polysaccharide vaccine in combination with influenza vaccine on acute exacerbation in patients with chronic lung diseases. US-Japan Cooperative Medical Science Program Acute Respiratory Infections (ARI) Panel. 11th Annual Meeting, Jan 22-23, 2007, Osaka, Japan
- 8) **Njai H, Yindom LM, Todd J, Herberg J, Berry N, Ariyoshi K, Loeff MSvd, Aaby P, Whittle H, Jaye A** : HLA and other genetic polymorphisms in HIV-2 infection in a West African Village. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, Mar 25-30, 2007, Whistler, British Columbia

- 9) **Tanaka M, Sriwanthana B, Jitjuk B, Nishimura S, Pathipvanich P, Sawanpanyalert P, Ariyoshi K** : HLA-restricted Gag CTL responses may differ between other subtypes and CRF01_AE infection. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, Mar 25-30, 2007, Whistler, British Columbia
- 10) **Njai H, Yindom LM, Todd J, Herberg J, Berry N, Ariyoshi K, Loeff MSvd, Aaby P, Whittle H, Jaye A** : HLA and other genetic polymorphisms in HIV-2 infection in a West African Village. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, Mar 25-30, 2007, Whistler, British Columbia
- 11) **Tanaka M, Sriwanthana B, Jitjuk B, Nishimura S, Pathipvanich P, Sawanpanyalert P, Ariyoshi K** : HLA-restricted Gag CTL responses may differ between other subtypes and CRF01_AE infection. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, Mar 25-30, 2007, Whistler, British Columbia
- 12) **Tsuchihashi Y** : Idiopathic PAP; autoantibody negative primary PAP. Fifth Annual International Pulmonary alveolar Proteinosis Scientific Conference/ LAM-Osaka Meeting, May 8, 2007, Osaka, Japan
- 13) **Dujdow Songthamwat, Kazuo Kajihara, Mihoko Kikuchi, Haruki Ueda, Tetsuo Yanagi, Hiroo Higo, Kenji Hirayama** : Structure and expression of four gp82 gene subfamilies of *Trypanosoma cruzi*. Forty-first Joint Conference on Parasitic Diseases, Feb 1-3, 2007, Tokyo, Japan
- 14) **Kenji Hirayama, Nguyen TP Lan, M Kikuchi, Vu T Q Huong, Vu T T Ngu, Hoang N Dao, Vo D. Tham, Tran V. dat, Do Q Ha, T Oyama, M Yasunami, K Morita** : Genetic Predisposition to Dengue Hemorrhagic Fever/ Dengue shock Syndrome(DHF/DSS). Asian Research Forum on Emerging and Reemerging Infections-2007, Jan 15-16, 2007, Nagasaki, Japan
- 16) **Kenji Hirayama** : Genetic study of Dengue disease in Vietnam. Second Dengue General Meeting, Mar 8-10, 2007, Paris, France
- 17) **Kenji Hirayama** : Role of Investigator. Principles of Good Clinical Practice and Research Ethics for Investigators and Ethics Committee Members, April 23-25, 2007, Shanghai, China
- 18) **Kenji Hirayama** : Ethical considerations in the community based study. 6th Nagasaki International Course on Research Ethics, Jun 9-11, 2007, Nagasaki, Japan
- 19) **GK Helegbe, BQ Goka, MM Addae, GO Adjei, JAL Kurtzhals, K. Hirayama, B.D. Akanmori** : Elevated CD47 Expression on Erythrocyte Membranes in Severe *Plasmodium falciparum* Malaria. the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene at the Centenary

Conference, Sep 13–15, 2007, London, UK

- 20) **Shuaibu MN, Kikuchi M, Yanagawa T, Kanbara H, Hirayama K** : Bioinformatics and DNA immunization to search for a novel blood stage malaria vaccine. The 1st International Conference on Malaria Vaccines for the world. MVW 2007, Sep 17–19, 2007, London, UK
- 21) **M Yasunami, TPL Nguyen, M Kikuchi, N Okuda, H Horie, TQH Vu, K Morita and K Hirayama** : Candidate gene approach to identify genetic predisposition to severe forms of dengue virus. The 57th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics, Oct 23–27, 2007, San Diego, California, USA
- 22) **N T Phuong Lan, VU T Thu Ngu, Hoang ND, D Quang Ha, T Thi Thuy, VO Dinh Tham, VO Van Tuong, CAO T P Nga, T Van Dat, Oyama I, Morita K, Yasunami M, Hirayama K.** : Protective and enhancing HLA-alleles, HLA-DRB1*0901 and HLA-A*24, for severe forms of dengue fever, dengue hemorrhagic fever and dengue shock syndrome. The 21st Century Center-of-Excellence Program -Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases-. 2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nov 26–27, 2007, Nagasaki, Japan
- 23) **Hirayama K, Shuaibu MN, Kikuchi M, Yanagi T, Kanbara H** : Bioinformatics and DNA immunization to search for a novel blood stage malaria vaccine. The 21st Century Center-of-Excellence Program -Global Control Strategy of Tropical and Emerging Infectious Diseases-. 2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nov 26–27, 2007, Nagasaki, Japan
- 24) **Kuroki T, Iso N, Goto K** : Relations Between the Change of Topography and the Change of ND-VI after Recent Unzen aEruption. Cities on Volcanoes 5 Conference, Nov 19–23, 2007, Shimabara, Japan
- 25) **Minematsu K, Kaneko Y, Yoda T, Goto K, Rakue Y, Mizota T** : Comparison of Body Mass Index between the Thai and Japanese Adults. The Joint International Tropical Medicine Meeting 2007, Nov 29–30, 2007, Bangkok, Thailand
- 26) **Higa Y, Yen N T, Kawada H, Hoa N T, Takagi M** : Nationwide investigation on the infestation of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus* in used tires in Vietnam. 4th European Mosquito Control Association Workshop, Sep 11–14, 2007, Prague, Czech Republic
- 27) **Kawada H, Tem E A, Minjas J N, Matsumoto O, Iwasaki T, Takagi M** : Field evaluation of spatial repellency of Metofluthrin impregnated latticework plastic strips against mosquitoes of *Anopheles gambiae* group in Bagamoyo, coastal Tanzania. 4th European Mosquito Control Association Workshop, Sep 11–14, 2007, Prague, Czech Republic

- 28) **Takagi M** : "Mosquitology", its present status and the strategy for infectious disease control. Asian Research Forum on Emerging and Reemerging infections-2007, Jan 15-16, 2007, Nagasaki, Japan
- 29) **Higa Y, Yen N T, Hoa NT, Dinh PN, Takagi M** : Study on variations in vector mosquitoes in Vietnam. Asian Research Forum on Emerging and Reemerging infections-2007, Jan 15-16, 2007, Nagasaki, Japan
- 30) **Takagi M** : Response of Vector Mosquitoes to the Environmental Change. 21st Pacific Science Congress, Jun 12-18, 2007, Okinawa, Japan
- 31) **Higa Y, Nguyen T Y, Kawada H, Nguyen T H, & Takagi M** : Spatial Differences in Distribution of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus*, and Environmental Factors Influencing the Distribution along National Routes in Vietnam. 21st Pacific Science Congress, Jun 12-18, 2007, Okinawa, Japan
- 32) **Takagi M** : Vector. 2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging infectious Diseases, Nov 26-27, 2007, Nagasaki, Japan
- 33) **Kawada H** : Do Pyrethroids Have a Promising Future? 2nd Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging infectious Diseases, Nov 26-27, 2007, Nagasaki, Japan
- 34) **Kagawa M, Tahara Y, Byrne NM, Moji K, Tsunawake N, Hills AP** : Impact of gender and maturation on anthropometric characteristics and relationship with percentage body fat estimated from underwater weighing in Japanese. The 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH), Nov 21-25, 2007, Saitama, Japan
- 35) **Moji K, Kaneda E, Bouphe B** : Establishing a Demographic Surveillance System in Lao PDR as a Tool Bridging Tropical Medicine and Area Study. The 21 Pacific Science Congress, Okinawa, Jun 15, 2007, Okinawa, Japan
- 36) **Nishiura H** : The Netherlands, Modeling the effective reproduction number for *Plasmodium vivax* malaria. 5th European Congress on Tropical Medicine and International Health, in Amsterdam, May 24 -28, 2007, Amsterdam, Netherlands
- 37) **Nishiura H** : The Netherlands, Estimation of the force of infection for dengue. 5th European Congress on Tropical Medicine and International Health, in Amsterdam, May 24 -28, 2007, Amsterdam, Netherlands
- 38) **Hashizume M, Hunter P R, Wagatsuma Y, Faruque A S G, Hayashi T, Armstrong B** : Rainfall dependence of hospital visits due to Aeromonas positive diarrhoea in Bangladesh. 14th International Symposium on Health-Related Water Microbiology, Sep 9-15, 2007, Tokyo, Japan

- 39) **Futami K, Minakawa N, Lutiali P, Omondi J, Syombua M and Sonye G** : Basic research of malaria mosquitoes in laboratory. JSPS's AA (Asian and African countries) Science Platform Program Seminar, Aug 30-31, 2007, Nairobi, Kenya
- 40) **Minakawa N, Futami K, Lutiali P, Omondi J, Syombua M and Sonye G** : Mosquito surveillance system. JSPS's AA (Asian and African countries) Science Platform Program Seminar, Aug 30-31, 2007, Nairobi, Kenya
- 41) **Karama M, Kaneko S, Rashid A, Mushinzimana E, K'opiyo J** : Distribution of Bed nets in Rusinga and Gembe West Locations of Suba District. Demographic Surveillance System (DSS), Suba District. 7th INDEPTH Network Annual General and Scientific Meeting, Sep 3-7, 2007, Nairobi, Kenya
- 42) **Mushinzimana E, Kaneko S, Minakawa N, Shimada M** : Utility of GIS Integration of very high resolution Quickbird satellite images and high accuracy GPS data in setting-up a demographic surveillance system (DSS) in East Africa, Western Kenya. 7th INDEPTH Network Annual General and Scientific Meeting, Sep 3-7, 2007, Nairobi, Kenya
- 43) **James K'Opiyo J, Mushinzimana E, Karama M, Agolla R, Kaneko S** : Development of Personal Digital Assistant (PDA) application on Demographic Surveillance System (DSS) in Suba district, Western Kenya. 7th INDEPTH Network Annual General and Scientific Meeting, Sep 3-7, 2007, Nairobi, Kenya
- 44) **Minakawa N, Futami K, Kaneko S, Shimada S** : Mosquito surveillance system and malaria control. COE国際シンポジウム, Nov 26-27, 2007, Nagasaki, Japan
- 45) **Kaneko S** : Potentialities of Nekken Field Epidemiology Program in Kenya. COE国際シンポジウム, Nov 26-27, 2007, Nagasaki, Japan
- 46) **Kaneko S** : DSS site in Suba and our method of data collection. JSPS's AA (Asian and African countries) Science Platform Program Seminar, Aug 30-31, 2007, Nairobi, Kenya
- 47) **Toshiya Hirayama, Jyunzo Hisatsune, Hisao Kurazono, Joel Moss** : Vacuolating Cytotoxin of *Helicobacter pylori* Enhances PGE2 Production Through Induction of COX-2 Expression via a p38 MAP Kinase/ATF-2 Cascade in AZ-521 Cells. 107th General Meeting of American Society for Microbiology, Mar 21-25, 2007, Toronto, Canada
- 48) **Toshiya Hirayama, Jyunzo Hisatsune, Masaaki Nakayama, Joel Moss** : Helicobacter and Related Organisms, *Helicobacter pylori* VacA induces COX-2 expression via p38 MAP Kinase/ATF-2 cascade. 14th International Workshop on Campylobacter, Sep 2-5, 2007, Rotterdam, The Netherlands
- 49) **Toshiya Hirayama, Jyunzo Hisatsune, Masaaki Nakayama, Hisao Kurazono, Joel Moss** :

- Helicobacter pylori* VacA Enhances PGE2 Production Through Induction of COX-2 Expression via p38 MAP Kinase/ATF-2 Cascade in AZ-521 Cells. 42nd Annual Joint Meeting of Cholera and Other Bacterial Enteric Infections, Dec 5-7, 2007, Austin, USA
- 50) Hisao Kurazono, S Horie, H Hoshi, Y Seto, M Chongsang-nguan, W Chicumpa, G B Nair, S-I Makino, Toshiya Hirayama : Purified Salmonella enterotoxin expresses cytotoxic activity to CHO cells. 42nd Annual Joint Meeting of Cholera and Other Bacterial Enteric Infections, Dec 5-7, 2007, Austin, USA
 - 51) Hajime Isomoto, Shigeru Kohno, Ken Ohnita, Junzo Hisatsune, Masaaki Nakayama, Toshiya Hirayama : Pleiotropic action of *Helicobacter pylori* vacuolating cytotoxin, VacA on esophageal cell types. The American Society for Cell Biology 48th Annual Meeting, Dec 1-5, 2007, Washington DC, USA
 - 52) Jutavijittum P, Youshukh A, Jiviriyawat Y, Kunachiwa W, Toriyama K : Genotypes of hepatitis B virus among children in Chiang Mai, Thailand. The Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep 16-20, 2007, Rome, Italy
 - 53) Jutavijittum P, Olinger MC, Hubbschen J, Yousukh A, Samountry B, Thammavong T, Toriyama K, Muller P : Molecular phylogeny of hepatitis B in Laos reveals multiple subtypes of endemic genotypes, numerous unclassifiable strains and a growing prevalence of recombinant genotypes. The Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep 16-20, 2007, Rome, Italy
 - 54) Gen-Ichiro Uechi, Le thi Quynh Mai, Doan Hai Yen, Kouichi Morita, Tetsu Yamashiro : Construction of Human Fab and ScFv libraries and Molecular Cloning of Human Anti-Influenza Virus A Subtype H5N1 Monoclonal Molecules. Asian Research Forum on Emerging and Reemerging Infections-2007, Jan 15-16, 2007, Nagasaki, Japan
 - 55) Fuxun Yu, Nor Shahidah Khairullah, Shingo Inoue, Vijayamalar Balasubramaniam, Futoshi Hasebe, and Kouichi Morita : Sero-diagnosis of Nipah Virus Infection by Using Recombinant Nipah Virus Nucleocapsid Protein Expressed in Escherichia Coli. Asian Research Forum on Emerging and Reemerging Infections-2007, Jan 15-16, 2007, Nagasaki, Japan
 - 56) Phan Thi Nga, Nguyen Thanh Thuy, Nguyen Thi Yen, Dang Tuan Dat, Shingo Inoue, Maria del Carmen Parquet, Kouichi Morita : Emerging Possible Sub-type of Nam Dinh Virus Associated with Acute Encephalitis Syndrome in Vietnam. Asian Research Forum on Emerging and Reemerging Infections-2007, Jan 15-16, 2007, Nagasaki, Japan
 - 57) Phan Thi Nga, Huynh Thi Kim Loan, Nguyen Thi Yen, Dang Tuan Dat, Do Phuong Loan, Bui Ming Trang, Nguyen Thanh Thuy, Nguyen Viet Hoang, Kyoko Sawabe, Masahiro Takagi, Yukiko Higa, Futoshi Hasebe, Shingo Inoue, Takeshi Nabeshima, Maria Car-

ime Parquet, Kouichi Morita : The Circulation of new Arboviruses in Vietnam. The 1st workshop for "The Collaborative Study on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases in Vietnam. Enhancement of Research Capacity" program, Sep 20, 2007, Vietnam

- 58) **K. Morita** : An Attempt to Develop a Regional Training Framework to Strengthening Immunization Programme in the Pacific Island Countries. 21th Pacific Science Congress, Jun 12-18, 2007, Okinawa, Japan

10. 4 報告書等印刷物

- 1) 神原廣二, 上村春樹, 中澤秀介, 柳 哲雄, 大橋 眞, 坪井敬文, 前野芳正, 福岡利英, 井上雅広: 住血原虫の機能と病態. 長崎大学熱帯医学研究所 平成18年度共同研究報告集, 平成19年7月, p14-15
- 2) 神原廣二, 上村春樹, 中澤秀介, 柳 哲雄, 宇賀昭二, 吉川尚男, 寺本 勲, 井関基弘, 所 正治, 橘 裕司: 腸管内原虫の種多様性とその疫学. 長崎大学熱帯医学研究所 平成18年度共同研究報告集, 平成19年7月, p16-17
- 3) 神原廣二: インドネシア国ロンボク・スンバワにおけるマラリアコントロールと住民教育効果. 平成16-18年度 国際医療協力研究委託事業(16公1)「開発途上国の住民に資するマラリア対策及び社会技術の開発に関する研究」(分担研究) 平成19年7月
- 4) 青木克己, 野田伸一, 吾妻 健, 辻 尚利, 木村英作: 住血吸虫症流行地に生息する淡水産貝類のミラシジウムの誘引力 (Decoy effect). 長崎大学熱帯医学研究所 平成18年度共同研究報告集, 平成19年7月, p18-19
- 5) 平山謙二: デング出血熱の感受性遺伝子の解明. 科学研究費補助金特定領域研究報告書「感染の成立と宿主応答の分子基盤」領域略称名: 感染と宿主応答 (007) (平成13年度~平成17年度), 平成19年2月, p164
- 6) 平山謙二: 国際的な健康危機管理における倫理教育の研究 (分担研究報告書). 厚生労働科学研究費補助金 国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業 国際的な健康管理に必要なスキル獲得のための人材育成のあり方に関する研究 (H16-国際-103) 平成17年度総括・分担報告書, 主任研究者森田公一, 長崎大学熱帯医学研究所, 平成19年3月, p251-301
- 7) 平山謙二: 国際的な健康危機管理における倫理教育の研究 (分担研究報告書). 厚生労働科学研究費補助金 国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業 国際的な健康管理に必要なスキル獲得のための人材育成のあり方に関する研究 (H16-国際-103) 平成18年度総括・分担報告書, 平成19年3月, p319-349
- 8) 平山謙二: 寄生虫感受性の宿主因子の検討に関する研究—日本住血吸虫の感染負荷量を決定する循環抗原測定系の開発—. 厚生労働科学研究費補助金国際医学協力研究事業. 寄生虫の宿主適応機構の分子情報解明に基づく新しい治療戦略開発及びその寄生虫対策への応用に関する研究 (H18-医国-指定-004) 平成18年度 総括・分担研究報告書, 長崎大学熱帯医学研究所, 2007, 平成19年3月30日, p32-34
- 9) 平山謙二: 南米のシャーガス病の重症化を規定するヒトおよび原虫の遺伝子解析. 平成15年度—平成18年度科学研究費補助金 (基盤研究(B) (2)), 研究成果報告書, 長崎大学熱

帯医学研究所，2007．平成19年 3 月30日，p1－212

- 10) **平山謙二**：住血吸虫の感染コントロール法の研究．厚生労働科学研究費補助金 振興・再興感染症研究事業，振興・再興感染症研究事業，動物由来感染症のコントロール法の確立に関する研究 平成18年度研究成果報告書，東京大学大学院農学生命科学研究科，2007．平成19年3月30日，p171－173
- 11) **平山謙二，坂下鈴鹿**：国際連携研究のための戦略的外部資金導入確立に向けて．平成17年度－19年度 長崎大学国際連携研究戦略本部事業報告書，長崎大学国際連携研究戦略本部，平成19年12月，p71－72
- 12) **大渡 伸**：熱帯医学研修課程30周年を振り返って．同門会誌，36号，長崎大学熱帯医学研究所，熱研同門会，平成19年12月，p74－76
- 13) **平山謙二**：所長就任のご挨拶．同門会誌，36号，長崎大学熱帯医学研究所，熱研同門会，平成19年12月，p7
- 14) **平山謙二，安波道郎，菊池三穂子，青木克己，神原廣二，嶋田雅暁，森田公一，太田伸生，木村英作，松田 肇，北 潔，狩野繁之，金子 明，Vu Thi Que Huong**：熱帯感染症に対する宿主感受性を決定する遺伝子多型の解析．長崎大学熱帯医学研究所(全国共同利用研究所) 平成18年度(2006) 共同研究報告書，平成19年 7 月 1 日，p1－3
- 15) **平山謙二，菊池三穂子，石井一成，新川 武，千種雄一，林 尚子，奈良武司，金澤 保，Yu Chuanxin**：ミニブタを用いたヒト住血虫症モデルの確立と応用．長崎大学熱帯医学研究所(全国共同利用研究所) 平成18年度(2006) 共同研究報告書，平成19年 7 月 1 日，p29－32
- 16) **平山謙二**：医学研究における倫理に関する国際セミナー．長崎大学熱帯医学研究所(全国共同利用研究所) 平成18年度(2006) 共同研究報告書，平成19年 7 月 1 日，p41－48
- 17) **吉井文郷，後藤健介，後藤恵之輔**：台風0613号による塩害の衛星リモートセンシング調査．平成18年度科学研究費補助金 特別研究促進費18900002 「2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究」報告書，平成19年 3 月，p129－134
- 18) **後藤恵之輔，小林隆洋，後藤健介**：地上リモートセンシングを用いた台風0613号による塩害調査．平成18年度科学研究費補助金 特別研究促進費18900002 「2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究」報告書，平成19年 3 月，p135－140
- 19) **本田晃三，後藤恵之輔，後藤健介**：台風0613号による植生塩害の現地調査．平成18年度科学研究費補助金 特別研究促進費18900002 「2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究」報告書，平成19年 3 月，p141－146
- 20) **本田晃三，後藤恵之輔，後藤健介**：地上リモートセンシングを用いた植生塩害実験．平成

- 18年度科学研究費補助金 特別研究促進費18900002 「2006年台風13号に伴う暴風・竜巻・水害の発生機構解明と対策に関する研究」報告書，平成19年3月，p147－152
- 21) **高木正洋**：東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価．平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究(A) (2) 海外，平成19年3月
- 22) **堀尾政博**：熱帯医学館 ―日本で唯一の熱帯医学博物館―．大学博物館辞典 日外アソシエーツ，平成19年8月27日，p495－496
- 23) **Toshiya Hirayama**：Study on the receptor of *Helicobacter pylori* VacA and its p38 MAPK activation. The Waksman Foundation of Japan INC:Report of Researches in 2006，平成19年3月
- 24) **平山壽哉等** (20名)：細菌性腸管感染症の病態解析・診断・治療・疫学・予防に関する研究．厚生労働科学研究費補助金国際医学協力研究事業研究平成18年度総括・分担研究報告書，平成19年3月
- 25) **千馬正敬**：生涯学習社会への挑戦：情報通信技術を活用した次世代大学構想．専門的大学継続教育と大学開放（大学教育出版），平成19年1月26日，p27－45
- 26) **森田公一**：国際的な健康危機管理に必要なスキル獲得のための人材育成のあり方に関する研究．厚生労働科学研究費補助金 国際健康危機管理ネットワーク強化研究事業 国際的な健康管理に必要なスキル獲得のための人材育成のあり方に関する研究(H16-国際-103) 平成18年度総括・分担報告書，主任研究者森田公一，長崎大学熱帯医学研究所，平成19年3月，p1－9

11 講 演 会

11. 1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

- 1) Framework for research ethics.

Reidar K. Lie

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 2) Informed Consent.

Kenji Matsu

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 3) Evaluation of risks and benefits.

Reidar K. Lie

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 4) Research on children or vulnerable persons.

Hidefumi Nakamura

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 5) Researched on stored tissue samples.

Reidar K. Lie

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 6) Distinction between research and therapy.

Shimon Tashiroe

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 7) IRB on clinical trials in Japan.

Eiji Uchida

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 8) Pharmacogenomics genetics and ethics.

Kiichiro Tsutani

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

- 9) Issues in international research ethics.

Reidar K. Lie

Jul 9-Jul 11, 2007 長崎大学医学部・ポンペ会館

10) トランスレーショナルリサーチとは何か？

池田 正行

Nov 26, 2007 長崎大学熱帯医学研究所大会議室

11. 2 熱帯医学研究所教員による講演

- 1) マラリアワクチンはあるか？

金子 修

Jul 18, 2007 大村（長崎県医学会例会）

- 2) Plasmodium RhopH Complex

金子 修

Aug 22, 2007 Nanyang Technological University, Singapore

- 3) Erythrocyte Invasion of Malaria Parasite

金子 修

Aug 30, 2007 AFRIMS, Bangkok, Thailand

- 4) Erythrocyte Invasion of Malaria Parasite

金子 修

Oct 10, 2007 中国医科大学, 瀋陽 中華人民共和国

- 5) HIV・エイズの治療と予防

有吉 紅也

Jan 25, 2007 島原市

- 6) 一般外来で遭遇するHIV・AIDS

有吉 紅也

Mar 20, 2007 長崎市

- 7) HIV・エイズの治療と予防

有吉 紅也

Jan 25, 2007 島原市

- 8) 一般外来で遭遇するHIV・AIDS

有吉 紅也

Mar 20, 2007 長崎市

- 9) 呼吸器疾患とApoptotic cell clearance

森本浩之輔

Apr 20-Apr 21, 2007 東京

- 10) 危険ないびきと生活習慣病

森本浩之輔

Jun 2, 2007 長崎市

- 11) 一般外来で遭遇するHIV/AIDS

有吉 紅也

Jun 27, 2007 佐世保市

- 12) "エイズって何?"

有吉 紅也

Sep 29, 2007 長崎市

- 13) 一般外来で遭遇するHIV・エイズ

有吉 紅也

Oct 6, 2007 福岡市

- 14) ウイルス感染対策

古本 朗嗣

Oct 13-14, 2007 長崎市

- 15) 熱帯医学とは何か

有吉 紅也

Nov 1, 2007 沖縄県うるま市

- 16) Development of diagnostic ELISA system that detects active infection with *S. japonicum*.

平山 謙二

Mar 2, 2007 江西省寄生虫病研究所, 中華人民共和国 (南昌市)

- 17) タイ国の保健と社会発展

依田 健志

Aug 4-13, 2007 バンコク

- 18) 国際経済と環境問題 I

溝田 勉

Jan 13, 2007 放送大学長崎学習センター

- 19) 国際経済と環境問題 II

溝田 勉

Jan 20, 2007 放送大学長崎学習センター

- 20) 地方分権と中央集権

溝田 勉

Mar 10, 2007 放送大学長崎学習センター

- 21) 地方分権と地域振興

溝田 勉

Mar 17, 2007 放送大学長崎学習センター

- 22) 道州制のゆくえ

溝田 勉

Mar 24, 2007 放送大学長崎学習センター

- 23) 衛星データを用いた環境変動調査事例

後藤 健介

Oct 14, 2007 福岡市史考古研究会

- 24) 自然科学と社会科学 I

溝田 勉

Jun 2, 2007 放送大学長崎学習センター

- 25) 自然科学と社会科学 II -方法論の相違と類似性-

溝田 勉

Jun 9, 2007 放送大学長崎学習センター

- 26) 医学・生物学と人文科学 I

溝田 勉

Jun 23, 2007 放送大学長崎学習センター

- 27) 医学・生物学と人文科学 II

溝田 勉

Jun 30, 2007 放送大学長崎学習センター

- 28) 環境問題の色々

溝田 勉

Jul 7, 2007 放送大学長崎学習センター

- 29) 環境問題を巡る経済先進国と途上国のやりとり I

溝田 勉

Jul 14, 2007 放送大学長崎学習センター

- 30) 環境問題を巡る経済先進国と途上国のやりとり II

溝田 勉

Jul 21, 2007 放送大学長崎学習センター

- 31) 開発途上国における地域開発

溝田 勉

Aug 18, 2007 放送大学長崎学習センター

- 32) 日本の農村と途上国の農山漁村

溝田 勉

Aug 25-, 2007 放送大学長崎学習センター

- 33) 国際協力におけるメディアの役割

溝田 勉

Sep 1, 2007 放送大学長崎学習センター

34) 国際NGOと国内NPO

溝田 勉

Sep 8, 2007 放送大学長崎学習センター

35) ガバナンスとリーダーシップ

溝田 勉

Sep 22, 2007 放送大学長崎学習センター

36) 国連の支援する社会福祉活動 -BHN, PHC, MDGs-

溝田 勉

Sep 29, 2007 放送大学長崎学習センター

37) 国際協力の現状と課題

溝田 勉

Oct 6, 2007 放送大学長崎学習センター

38) 我が国の国際協力

溝田 勉

Oct 13, 2007 放送大学長崎学習センター

39) 多国間国際力

溝田 勉

Oct 20, 2007 放送大学長崎学習センター

40) 国際機関とNGO

溝田 勉

Oct 27, 2007 放送大学長崎学習センター

41) 中央集権の特長と道州制

溝田 勉

Nov 10, 2007 放送大学長崎学習センター

42) 地方の行財政, その現状

溝田 勉

Nov 17, 2007 放送大学長崎学習センター

43) 地方自治体の将来方向

溝田 勉

Nov 24, 2007 放送大学長崎学習センター

44) 「地域活性化と国際協力」 I -JICA専門家の話を土台に-

溝田 勉

Dec 8, 2007 放送大学長崎学習センター

- 45) 「地域活性化と国際協力」Ⅱ -地域オンブズマンの話を土台に-

溝田 勉

Dec 15, 2007 放送大学長崎学習センター

- 46) 日本の将来と国際協力人材の育成

溝田 勉

May 25, 2007 県福社会館講堂

- 47) 日本の将来と国際協力人材の養成

溝田 勉

Nov 22, 2007 市福祉センター大ホール

- 48) 我が国の教育および学術研究

溝田 勉

May 2, 2007 京都国際会議場中会議室

- 49) 我が国が行う国際協力

溝田 勉

Oct 15, 2007 鈴鹿サーキット大講堂

- 50) International Cooperation

溝田 勉

May 2, 2007 The 40th IATSS Forum in Suzuka

- 51) 疾病媒介蚊の生態

高木 正洋

Dec 26, 2007 東京, 住友化学

- 52) Introduction on activities of Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

Takagi M

Feb 12-14, 2007 Bangkok, Thailand

- 53) 変わる環境, 変わる感染症媒介蚊

高木 正洋

Sep 21, 2007 大阪

- 54) シャーガス病を媒介するカメムシーサシガメ

堀尾 政博

Mar 31, 2007 京都大学東南アジア研究所

- 55) ねずみ, 昆虫等の防除

堀尾 政博

Jul 26, 2007 福岡市

56) 疫学研究に必要な統計学の基礎知識

本田 純久

Apr 7, 2007 九州工業大学大学院生命体工学研究科

57) 基礎統計学

本田 純久

Jul 8, 2007 長崎大学医学部保健学科

58) What is P3 lab. and why is it necessary?

Ichinose Y

Nov 20, 2007 NUITM-KEMRI Project, CPHR, KEMRI, Nairobi, Kenya

59) Project of complete parameterization of smallpox

Nishiura H

Jan 23, 2007 Rollins School of Public Health, Emory University, Atlanta, USA

60) Complete parameterization of smallpox

Nishiura H

Jan 18, 2007 Los Alamos, USA

61) Infectiousness of smallpox relative to disease-age.4

Nishiura H, Eichner M

Mar 22-Mar 23, 2007 Tubingen, Germany

62) Modeling transmission potential of vivax malaria in temperate zone

Nishiura H

Jun 7, 2007 Bangkok, Thailand

63) Statistical modeling of infectious diseases. (12H)

Nishiura H

Jun 7-Jun 9, 2007 Bangkok, Thailand

64) ケニアにおけるマラリアの予防と治療

嶋田 雅暁

May 12, 2007 NGO"CanDo"ナイロビ事務所

65) What is our Programme?,

Shimada M

Aug 29, 2007 Embassy of Japan (Kenya)

66) What is this seminar for?,

Shimada M

Aug 29, 2007 Embassy of Japan (Kenya)

- 67) Nature of Infectious Disease and the Research at DSS sites.

Shimada M

Aug 29, 2007 Embassy of Japan (Kenya)

- 68) バングラデシュにおける気象因子と下痢症との関連：時系列解析

橋爪 真弘

Jan 16, 2007 長崎大学熱帯医学研究所

- 69) Factors determining vulnerability to diarrhoea during and after severe floods in Bangladesh.

橋爪 真弘

Oct 23, 2007 長崎大学熱帯医学研究所

- 70) 人間の安全保障から見た洪水と下痢症

橋爪 真弘

Oct 27, 2007 総合地球環境学研究所

- 71) Mosquito-Malaria interaction.

Futami K

May 3, 2007 Keele University. UK.

- 72) ダニと病気, その対策

鈴木 博

Jul 9, 2007 長崎市

- 73) Clustering of *Helicobacter pylori* VacA in lipid rafts, mediated by its receptor, RPTP?, is required for intoxication and activation of intracellular signaling pathways in AZ-521 cells.

平山 壽哉

Aug 18, 2007 国立感染症研究所

- 74) *Helicobacter pylori* 空胞化毒素VacAの受容体と多様な毒性発現

平山 壽哉

Oct 3, 2007 徳島文理大学

- 75) Vibriophages-Cholera outbreak

江原 雅彦

Nov 14, 2007 NIHE (ハノイ, ベトナム)

- 76) Vibriophages isolated in Vietnam

江原 雅彦

Aug 28, 2007 Pasteur Institute (ホーチミン, ベトナム)

- 77) 浅川賞受賞講演：ヘリコバクター・ピロリのVacA毒素受容体と毒性発現に関する研究

平山 壽哉

Mar 26-28, 2007 アジア太平洋トレードセンター

- 78) 第11回日本小児H. pylori研究会特別講演：ヘリコバクター・ピロリが産生するVacAの毒性発現の分子機序

平山 壽哉

Mar 10, 2007 虎ノ門パストラル

- 79) Helicobacter pylori VacA Enhances PGE2 Production Through Induction of COX-2 Expression via p38 MAP Kinase/ATF-2 Cascade in AZ-521 Cells.

平山 壽哉

Aug 1, 2007 大阪大学中之島センター

- 80) Molecular characterization of Helicobacter pylori VacA-induction of IL-8 in U937 cells reveals a prominent role for p38MAP kinase in ATF-2, CREB and NF- κ B activation.

平山 壽哉

Nov 9, 2007 National Heart Lung and Blood Institute, NIH, USA

- 81) Recent Development of the West Nile Fever Vaccines in Japan

森田 公一

Feb 1, 2007 NICD (South Africa)

- 82) 最近話題の感染症（ノロウイルス感染を中心に）

森田 公一

Feb 7, 2007 地域連携セミナー

12 主要な研究設備

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 回転電動万能ミクロトーム | 20 核酸蛋白質解析合成システム |
| 2 反射型蛍光顕微鏡 | 21 宿主・寄生体相互作用解析システム |
| 3 ウルトラミクロトーム | 22 プラスミド自動分離調整システム |
| 4 落射蛍光位相差顕微鏡 | 23 遺伝子検出システム |
| 5 分離用超遠心機 | 24 感染症病原性解析システム |
| 6 真空高速冷却遠心機 | 25 コロニーアナライザー画像解析装置 |
| 7 クリオスタット | 26 熱帯性病原体成分機能解析システム |
| 8 万能倒立顕微鏡 | 27 多機能ぜん虫行動解析システム |
| 9 走査電子顕微鏡装置 | 28 熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム |
| 10 プロテインシステム | 29 蛋白質精製システム |
| 11 生態機能解析装置 | 30 病原性ウイルス遺伝子及び蛋白質機能解析システム |
| 12 病理組織標本作製システム | 31 自動炭酸ガス細胞培養装置 |
| 13 超高速ビデオ | 32 超遠心機 |
| 14 細胞自動解析分離システム | 33 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム |
| 15 原虫遺伝子DNA解析システム | 34 生物顕微鏡 |
| 16 レーザースキャン顕微鏡 | 35 細菌毒素活性測定解析システム |
| 17 医用サーモグラフィ装置 | 36 DNAシークエンサー |
| 18 蛋白細胞相互作用解析システム | 37 デジタル画像電子顕微鏡システム |
| 19 白血球機能解析システム | |

13 刊 行 物

1) Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。

本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときにTropical Medicine（熱帯医学）と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成18年度年次要覧は平成21年7月に発行された。

3) 長崎大学熱帯医学研究所Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内及び外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内（A Guide to the institute of Tropical Medicine, Nagasaki University）が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成20年度版は、平成20年8月に発行された。

4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成19年度の報告集は、平成20年9月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成19年度（2007）

平成21年7月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所
附属熱帯感染症研究センター

発行者：長崎大学熱帯医学研究所
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4
☎(095)819-7800（総合案内）

印刷所：株式会社クイックプリント
〒850-0034 長崎市樺島町8-12
☎(095)827-1318